Canon

POWER
PROJECTOR

WUX450ST

使用説明書

AISYS
Aspectual Illumination System

HDBT™

Wi Fi® CERTIFIED

HDMI™
HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

PJLink™

ご使用の前に、必ずこの使用説明書をお読みください。
特に「安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。
またお読みになった後、この使用説明書をいつでも見られる場所に保管してください。

本製品は日本国内用に設計されております。
電源電圧の異なる外国ではご使用になれません。

安全にお使いいただくために
はじめに
基本編
設置のしかた
接続のしかた
投写のしかた
便利な機能
応用編
メニューの使いかた
メニューの説明
高度な投写
その他
メンテナンス
製品の仕様
困ったときには

JPN

本書の読みかた

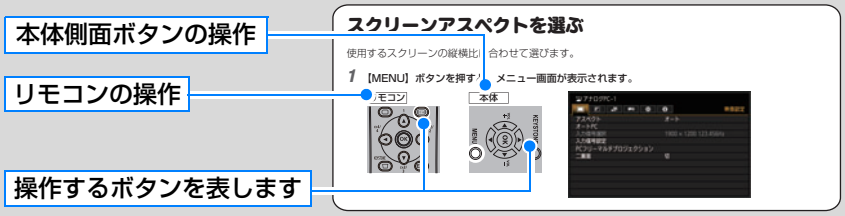
キヤノン製品のお買い上げ、誠にありがとうございます。
パワープロジェクター WUX450ST（以下、本機）は、高解像度コンピューターの画面や高画質デジタル映像を、高精細で大画面に投写可能な高性能プロジェクターです。

本書について

本書はパワープロジェクター **WUX450ST** の使用説明書です。**基本編**には、本機の設置方法や使いかたが説明されています。**応用編**には、メニューの説明とネットワーク接続方法が説明されています。本機の機能を十分に活用していただくため、お使いになる前に本書をよくお読みください。また、設置作業については専門の技術者または販売店で行って頂くことをお勧めします。

ボタン操作を表す記号

本機は、付属のリモコンまたは本体側面のボタンを使って操作します。なお、リモコンではすべての機能が操作できます。
本書では、ボタン操作を次のように表記しています。



説明の内容を表す記号

本文中で以下のマークがついた欄は、次のような内容となっています。

操作上の注意事項や制限事項が記載されています。

操作上知っておいていただきたいことや参考になることが記載されています。

目次

本書の読みかた 2
おもな特長 5
安全にお使いいただくために 7
安全上の注意を表す記号 7
使用上のご注意 8
設置および取り扱い上のご注意 9
ランプについての安全上のご注意 10
リモコンの電池に関するご注意 11
正しくお使いいただくために 13
設置の前に 14
持ち運び時／輸送時のご注意 14
設置のときのご注意 14
第三者のソフトウェアについて .. 18
はじめに 19
同梱品の確認 19
各部のなまえ 21
本体 21
投写レンズ部 22
本体操作部 22
LED インジケーター 23
接続端子 24
リモコン 25
リモコンの準備 27

基本編 29
設置のしかた 30
プロジェクターを設置する 30
投写距離と画面サイズの関係 33
レンズシフト機能について 33
接続のしかた 35
コンピューターを接続する 35
AV 機器を接続する 37
電源コードを接続する 38
投写のしかた 39
ステップ 1　電源を入れる 39
ノート型コンピューターの画面出力を切り換える 41
ステップ 2　入力信号を選択する 42
ステップ 3　画面を調整する 43
ステップ 4　スクリーンに合わせて縦横比（アスペクト）を選択する 46
ステップ 5　台形ひずみを調整する 49
ステップ 6　画質（イメージモード）を選択する 52
ステップ 7　本機の電源を切る 53
便利な機能 54

応用編 57
メニューの使いかた 58
メニューの構成 58
メニューの基本操作 59
メニューの説明 61
映像設定 61
イメージ調整 68
設置設定 75
システム設定 85
ネットワーク設定 98
無線 LAN（Wi-Fi）について 102
プロジェクターでの設定 103
コンピューターの設定 114
インフォメーション 135
高度な投写 136
USB メモリの画像を投写する 136
USB ファイルブラウザの見かた 138
画像を選んで投写する 139
投写された画像を操作する 139
USB メモリからスライドショーで投写する 139
PC フリーマルチプロジェクション機能を使って投写する 140
2 画面を並べて表示する 143
エッジブレンディング機能を使って投写する 144

その他 149
メンテナンス 150
本体を清掃する 150
エアフィルターの清掃 150
エアフィルターを交換する 152
ランプを交換する 153
交換用のランプについて 154
ランプ交換手順 155

製品の仕様 158
アスペクトとスクリーンアスペクトの関係 158
表示できるテストパターンについて .. 161
対応信号 162
困ったときには 170
LED インジケーターのワーニング 170
困ったときのアドバイス 171
索引 176
保証とアフターサービス 178

おもな特長

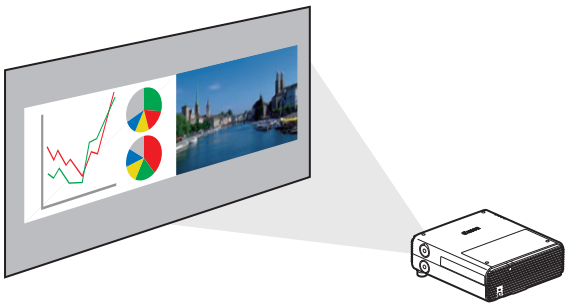
コンパクトインストール機

コンパクトサイズで、広いスペースを必要としないインストール機です。（P166）

LCOS パネルによる高解像投写

高解像度のLCOS（反射型液晶）パネルを搭載し、WUXGA（1920 × 1200 ドット）での投写が可能です。

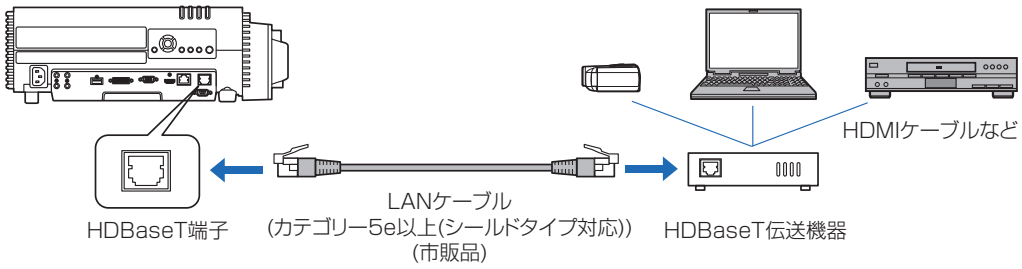
2 画面表示



投写画面を分割して、2系統の入力からの映像を同時に表示します。（P143）

HDBaseT 入力

次世代のデジタル通信規格「HDBaseT」に対応しました。HDMI と同等の高画質な映像信号 / 音声信号を、最長 100m の距離まで LAN ケーブル 1 本で簡単に接続できます。（P36、P37、P89、P90）
ネットワークに接続することもできます。（P98）



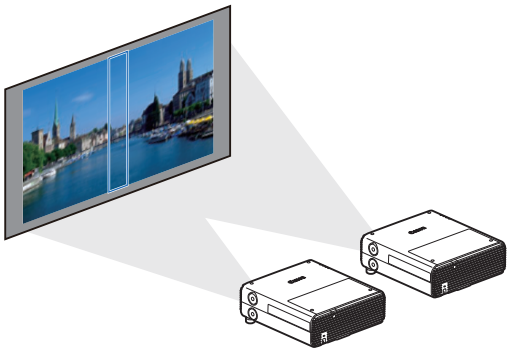
スクリーンの大きさに合わせたズーム調整

本機は電子的なズーム（P77）により投写映像のサイズを調整することができます。

近距離からワイドな大画面投写

近距離（100型を約1.2m）からワイドな大画面の投写が可能です。

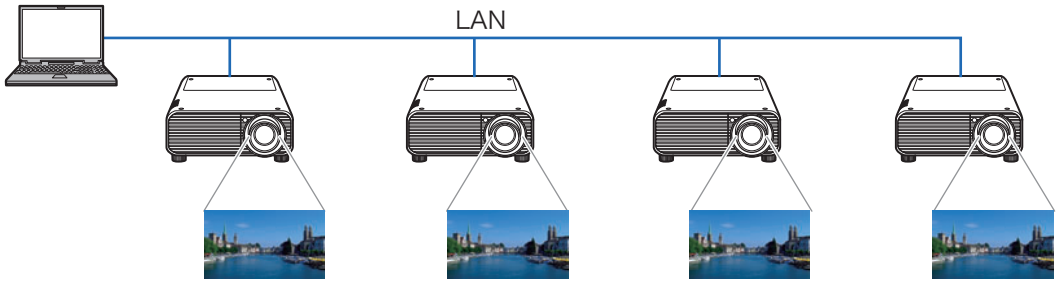
エッジブレンディング



複数のプロジェクターを並べて一つの画面にして投写するとき、映像の重なり部分の境界を目立たなくします。(P144)

ネットワーク・マルチ・プロジェクション（NMPJ）

ネットワークを介して複数のコンピューターの映像を複数のプロジェクターで投写することができます。
ネットワーク・マルチ・プロジェクション（NMPJ）について詳しくは、NMPJ使用説明書をご覧ください。



Wi-Fi 機能

有線LAN に加え、無線LAN（Wi-Fi）をサポートしました。
PJ AP（プロジェクターアクセスポイント）モードを使用すれば、無線アクセスポイントを用意しなくても最大5台のコンピューターに接続可能です。
使用場所の状況に応じた有線 / 無線 LAN の組み合わせで、複数のコンピューターの映像を複数のプロジェクターで投写することができます。(P99)

安全にお使いいただくために

安全上の注意を表す記号

この使用説明書で使用しているマークについて説明します。本書では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。これらの記載事項は必ずお守りください。

	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 感電注意	**この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。**
	これらの記号は、行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
 禁 止	**この記号は、その他の行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。**
	これらの記号は、行わなければならない行為を示しています。図の中に具体的な指示内容が描かれています。
 注 意	**この記号は、必ず守っていただきたい行為や内容を示します。**

電波障害自主規制について

この装置はクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

使用上のご注意

安全に関する重要な内容ですので、ご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。

⚠警告

設置する際は、電源プラグをすぐに抜けるようにするか、または配線用遮断装置を手の届くところに設置してください。
以下のような場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、販売店へご連絡ください。放置すると火災や感電の原因になります。

- **煙が出ている。**
- **変なにおいや音がする。**
- **水など液体が本機に入った。**
- **金属類や異物が本機に入った。**
- **本機を倒したり、落としたりしてキャビネットを破損した。**

電源コードの取り扱いについて以下の点にご注意ください。火災や感電またはけがの原因になります。

- **電源コードの上に重い物を載せたり、本機の下敷きにならないようにしてください。**
- **電源コードを敷物などで覆わないでください。**
- **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、また巻いたり、束ねたりしないでください。**
- **電源コードを熱器具に近づけたり加熱したりしないでください。**
- **破損した電源コードを使用しないでください。電源コードが破損した場合は販売店にご相談ください。**
- **付属している電源コードは、本製品専用です。他の製品では使用できません。**

- **電源コードのアース線を必ずアースに接続してください。**
- **アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。またアース線を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**

⚠警告

電源および電源プラグ、コネクターの取り扱いについて以下の点にご注意ください。火災や感電またはけがの原因になります。

禁 止

感電注意

- **表示された電源電圧(AC100V) 以外の電圧で使用しないでください。**
- **電源プラグやコネクターを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグやコネクターを持って抜いてください。電源コードが破損します。**
- **電源プラグやコネクターの接点部に金属類を差し込まないでください。**

ぬれ手禁止

感電注意

- **ぬれた手で電源プラグやコネクターを抜き差ししないでください。**

注 意

感電注意

- **電源プラグやコネクターは根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだ電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。**
- **コンセント付き延長コードを使う場合は、延長コードの定格容量を超えない範囲でお使いください。**

注 意

- **電源プラグとコンセントは定期的に点検し、プラグとコンセントの間にたまったホコリ・ごみ・汚れなどを取り除いてください。**

設置および取り扱い上のご注意

設置および取り扱い上、以下の点にご注意ください。火災や感電またはけがの原因になります。

水ぬれ禁止

感電注意

- **水や雨のかかるおそれのある室外や風呂、シャワー室などで使用しないでください。**
- **本機の上に液体の入った容器を置かないでください。**

接触禁止

感電注意

- **雷が鳴り出したら、本機、電源コード、ケーブルに触れないでください。**

電源プラグをコンセントから抜け

感電注意

- **本機を移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間のケーブル類を外してから行ってください。**
- **本機のお手入れの際は電源プラグをコンセントから抜いてください。**

⚠警告

設置および取り扱い上、以下の点にご注意ください。火災や感電またはけがの原因になります。

禁 止

分解禁止

- **キャビネットを外したり本機を分解しないでください。内部には電圧の高い部分および温度の高い部分があります。内部の点検・整備・修理は販売店にご相談ください。**
- **本機（消耗品を含む）・リモコンを改造しないでください。**
- **使用中は排気口をのぞかないでください。**

禁 止

- **吸気口や排気口等の穴から物などを差し込まないでください。**
- **排気口の前にはスプレー缶を置かないでください。熱で缶内の圧力が上がり、爆発の原因となります。**
- **本機のレンズ・フィルターなどに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となることがあります。**
- **使用中は強い光が出ていますので、レンズをのぞかないでください。目を傷める恐れがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。**
- **本機を高いところに置いて使用する場合は、必ず水平で安定した場所に設置してください。**
- **天吊り設置についての注意は、専用の天吊り金具（別売品）に同梱している「組立・設置説明書」を見てください。**

ランプについての安全上のご注意

本プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。この水銀ランプには、次のような性質があります。

- ランプは使用時間の経過による劣化などで、次第に暗くなります。
- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりします。
- ランプ交換の指示「ランプを交換する」（P153）が出た場合、ランプが破裂する可能性が高くなっています。すみやかに新しいランプと交換してください。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間は大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- 万一に備え、あらかじめ交換用のランプをご用意ください。

⚠警告

ランプ交換および破裂したときは、以下の点にご注意ください。感電やけがの原因になります。

- **ランプ交換は必ず電源プラグをコンセントから抜いて、1 時間以上待ってから行ってください。**
- **ランプが破裂した場合は本機の内部にガラス片が散乱している可能性があります。販売店へ本機内部の清掃と点検、ランプの交換を依頼してください。**

ランプが点灯しなくなって交換するときのご注意

- **電源投入時や使用中に点灯しなくなったときは、ランプが破裂している可能性があります。その場合、絶対にお客様自身でランプの交換作業は行わず、必ず専門の技術者または販売店に依頼してください。**
- **本機を天井から吊り下げて設置している場合、ランプカバーを開けたり、ランプを交換するなどのときは、ランプが落下する可能性があります。ランプの交換作業時は、ランプカバーの真下に立たず、横から作業してください。**
- **ランプが破裂した場合、ランプ内部のガス（水銀を含有）や粉じんが排気口から出たりすることがあります。すみやかに窓や扉を開け、部屋の換気を行ってください。**
- **万一、ランプから生じるガスや破片を吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。**

リモコンの電池に関するご注意

電池の取り扱いについて以下の点に注意してください。火災やけがの原因となります。

- **電池を火の中に入れたり、加熱、ショート、分解したりしないでください。**
- **付属の電池は充電しないでください。**

- **電池を使いきったときや、長時間使用しないときは電池を取り外してください。**
- **電池を交換するときは２本同時に交換してください。また、種類の違う電池を同時に使用しないでください。**
- **＋ とーの向きを正しく入れてください。**
- **万一、液漏れなどで内部の液体が体についたときは、水でよく洗い流してください。**

⚠注意

設置および取り扱い上、以下の点にご注意ください。

- **長期間、機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、火災の原因となることがあります。**

- **投写中は排気口周辺や排気口上部のキャビネットが高温になります。やけどの原因となることがありますので手で触れたりしないでください。特に小さいお子様にはご注意ください。また、排気口周辺や上部に金属を置かないでください。高温になり、事故やけがの原因となることがあります。**
- **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。**
- **本機の上に重い物をのせたり、乗らないでください。特に小さなお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。**
- **ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。**
- **投写中、レンズの前に物をおかないでください。火災の原因となることがあります。**
- **投写中、本機の前で発表する場合は、スクリーンに発表者の影が映らない位置など、まぶしさを感じない位置で行ってください。**

ランプの取り扱いに際しては、以下の点にご注意ください。

- **ランプを取り出す際は、本機の電源を切った後、1 時間以上経過し、ランプと本体が十分に冷えたことを確認してから行ってください。やけどやけがの原因となることがあります。**

正しくお使いいただくために

注意

本機を持ち運ぶ際は、以下の点にご注意ください。

注意

- **本機は精密機器です。衝撃を与えたり、倒したりしないでください。故障の原因となることがあります。**
- **ご購入時の梱包材や緩衝材を本機の運搬、輸送に再利用しないでください。使用済みの梱包材、緩衝材では十分保護できなかったり、また、緩衝材の破片などが本機内部に入り込んで故障の原因となることがあります。**
- **本機の接続ケーブルを外してください。ケーブルを取り付けたまま運ぶと、事故の原因となることがあります。**
- **移動時に調整脚が出たまま移動すると破損の恐れがありますので、調整脚をおさめてください。**

設置または使用に関して以下の点に注意してください。

注意

- **レンズを素手で触らないでください。画質を損なう原因となることがあります。**
- **低温の場所から高温の場所へ急に持ち込んだときは、本機のレンズやミラーに結露して、画像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の画像が映るまでお待ちください。**
- **高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因となることがあります。使用温度と保管温度については「製品の仕様」を参照してください。**
- **熱で変形や変色の恐れのあるものを上に置かないでください。**
- **高地でご使用される場合や上向き投写、下向き投写でご使用される場合は、プロジェクターの設定を変更する必要があります。設定を変更しないと、ランプの寿命が短くなったり故障の原因となることがあります。詳しくは、販売店にお問い合わせください。**
- **高圧電線や電力源の近くに設置しないでください。**
- **カーペットやスポンジマットなどの柔らかい面の上で本機を使用しないでください。内部に熱がこもり、本機の故障の原因となることがあります。**
- **冷却ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもりランプの寿命が短くなったり故障の原因となることがあります。**
- **本機を誤った方向に設置すると、故障や事故の原因となることがあります。立てたり左右に傾けて設置しないでください。**
- **本機の吸気口、排気口を壁などから離して設置してください。排気の影響で故障の原因となることがあります。**
- **湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所には設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因となることがあります。**

持ち運び時／輸送時のご注意

本機を以下の状態にしてから持ち運んでください。

注 意

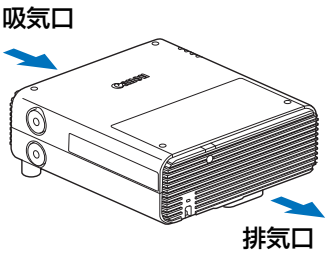
- **本機の接続ケーブルを外してください。ケーブルを取り付けたまま運ぶと、事故の原因となります。**
- **移動時に調整脚が出たまま移動すると破損の恐れがありますので、調整脚をおさめてください。**

設置のときのご注意

7～13ページの「安全にお使いいただくために」および「正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。また、設置するときは次のことに注意してください。

注 意

- **本機をたたいたり、衝撃を与えたりしないでください。故障の原因となることがあります。**
- **本機を立てかけたり、立てて置かないでください。転倒により故障の原因となることがあります。**
- **冷却ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。吸気口、排気口をふさぐと内部に熱がこもり、ランプの寿命が短くなったり故障の原因となることがあります。**



■こんな場所には設置しないでください

- **湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所**
  レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因となることがあります。
- **高圧電線や電力源の近く**
  正しく動作しないことがあります。
- **カーペットやスポンジマットなどの柔らかい面の上**
  内部に熱がこもり、本機の故障の原因となることがあります。
- **高温、低温、高湿度になる場所**
  故障の原因となることがあります。なお、使用温度・湿度、保管温度の範囲は以下のとおりです。
  ※ 使用温度範囲・使用湿度範囲は、通電中（投写状態、または、スタンバイ状態）において対象範囲となります。

使用温度範囲	使用湿度範囲	保管温度範囲
0℃～40℃	85%まで	-20℃～60℃

■レンズを素手で触らないでください

レンズを素手で触らないでください。画質を損なう原因となることがあります。

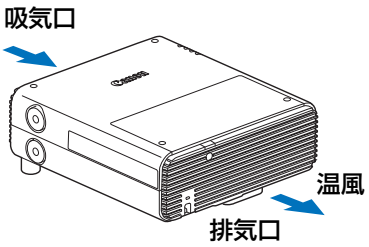
■画面のピントを合わせる（P45）ときは、30 分以上点灯させてから行うことを推奨します。

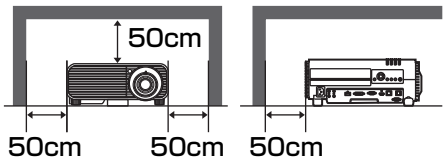
電源を入れた直後はランプの熱の影響でピント位置が安定しない場合があります。また、ピントを合わせる際はテストパターン（P84、P161）の⑩の画像を使用することをお勧めします。

■壁などから十分な距離をあけて設置してください

注 意

吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、本機の寿命を縮めたり、故障の原因となることがあります。押し入れ、本箱など風通しの悪い狭いところに設置しないで、風通しのよい場所に設置してください。（下図に示すように、上方、側面、後部何れも壁などから50㎝以上離してください。）





■結露にご注意ください

部屋の温度を急に上げたときなど、空気中の水分が本機のレンズやミラーに結露して画像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の画像が映るまでお待ちください。

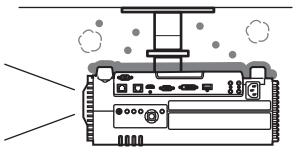
■海抜 2,300m 以上の高地で使用するときは設定を変更してください

海抜 2,300m 以上の高地でご使用される場合は、プロジェクターの設定を変更する必要があります。詳しくは、設置設定メニューの［ファンモード］（P78）を参照してください。

■ 天井から吊り下げてご使用になる場合

注 意

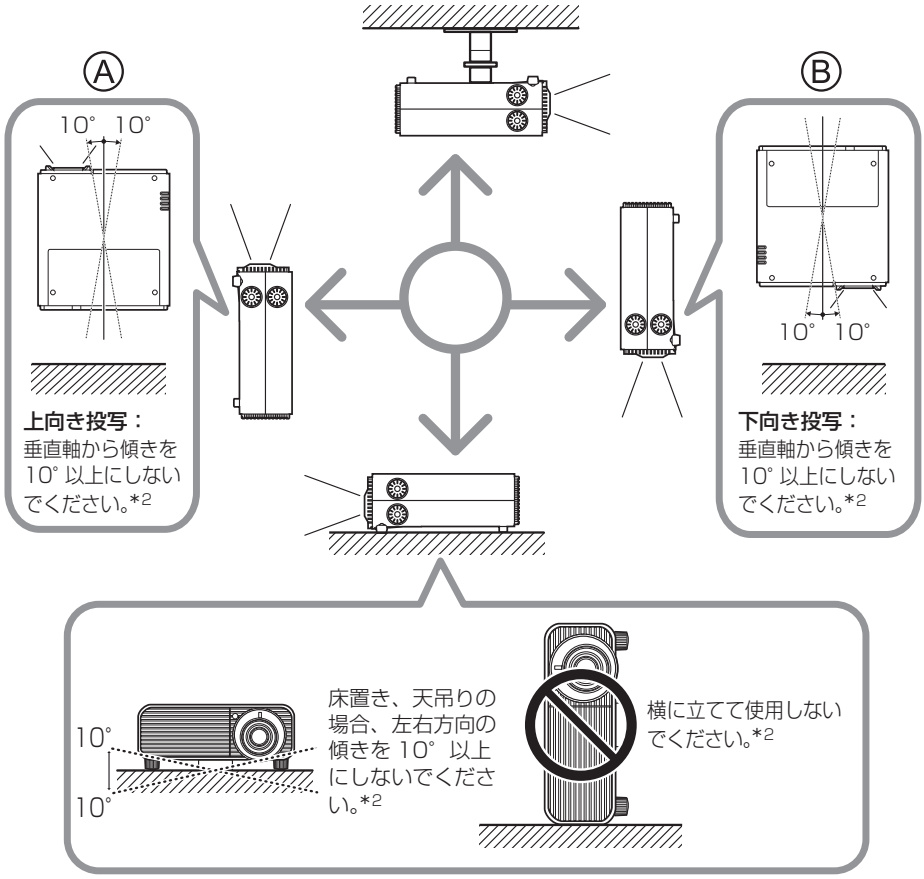
天井から吊り下げたり、高いところへ設置してご使用になるときは、吸気口や排気口、エアフィルター周辺の掃除を定期的に行ってください。吸気口や排気口にホコリがたまると、冷却効果が悪くなり、内部の温度上昇を招いて故障や火災の原因となることがあります。吸気口や排気口についたホコリは掃除機などで 取り除いてください。



■ 正しい方向に設置してください

注 意

- **本機は、下図に示す360° *1の方向に設置することができますが、上向き投写、または下向き投写で使用する場合、ランプの寿命が縮まる可能性があります。**
- **上向き投写、または下向き投写の設置はお客様自身で行わず、必ず専門の技術者または販売店に依頼してください。**



***1 本機は天吊り金具（P32、P178）以外の設置のためのオプションは用意されていません。**

***2 ランプ故障の原因となることがあります。**

本機を上向き、下向きで投写する場合、メニューの［設置設定］>［プロフェッショナル設定］>［直立投写］でプロジェクターの投写方向を設定してください。（P79）

著作権についてのご注意

本機を営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において画面サイズ切り換え機能等を利用して画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

ネットワークのセキュリティについてのご注意

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。
不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。
利用に際しては、プロジェクター本体、コンピューター、ネットワークに適切なセキュリティの設定を行ってください。

- プロジェクターはインターネットに直接接続せず、ファイアーウォールなどで保護されたネットワーク内に設置してください。
- 無線LAN 環境でご利用される場合、無線LAN のセキュリティ設定を行うことを推奨します。
- 無線LANのセキュリティキーは定期的に変更してください。

商標について

- Ethernet は Xerox 社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista 、Windows 7、Windows 8 、Windows 8.1 は、米国 Microsoft Corporation の米国および、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。
- Mac, Mac OS, およびMacintosh は米国その他の国で登録されたApple Inc. の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- PJLinkはJBMIAの登録商標です。
- PJLink商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- AMXは、AMX Corporationの商標です。
- Crestron®、Crestron RoomView®、Crestron Connected™は、Crestron Electronics, Inc.の登録商標です。
- HDBaseT™およびHDBaseT Allianceロゴは、HDBaseT Allianceの登録商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Alliance Setupを意味しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

本機を使用するために、誤った無線LAN設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

第三者のソフトウェアについて

この製品には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。
詳細は、同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダの「ThirdPartySoftware.pdf」（第三者ソフトウェアライセンス）をご覧ください。
また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますので、ご覧ください。

■ GNU General Public License Version 2 に基づくソフトウェアプログラム

本メディアに含まれるソフトウェアプログラム（「本プログラム」）はフリーソフトウェアです。お客様は、GNU General Public License Version 2の定める条件の下で再配布および改変することができます。

それぞれのプログラムは有用であることを願って配布されますが、販売見込みまたは特定の目的への適合性に関する黙示的保証を含め、一切の保証がありません。下記の「保証の否認」と「サポート」をご覧ください。詳しくは、GNU General Public License Version 2の原文をご覧ください。

保証の否認

本プログラムは無償でライセンスされるものであり、準拠法の下で認められる限りにおいて何らの保証もありません。これと異なる書面による定めがなされる場合を除き、著作権者およびその他の当事者は、本プログラムをそのままの状態で、いかなる保証（明示的か黙示的かに関わらず、また、販売見込みまたは特定の目的への適合性に関する黙示的保証を含み、これらに限定されない）もすることなく提供するものとします。本プログラムの品質および性能に関するリスクは、すべてお客様が負うものとします。本プログラムに瑕疵のあることが明らかになった場合でも、必要な保守点検、修補、または修正に要する費用は、すべてお客様のご負担となります。

準拠法において義務が課されている場合または書面による合意がある場合を除き、著作権者または上記の定めに従い本プログラムを修正または配布した当事者は、たとえ損害が発生するおそれのあることを事前に知らされていたとしても、お客様の被った損害について何らの責任も負いません。当該損害には、本プログラムを使用したことによるものと本プログラムを使用できなかったことによるもの（データの消失、誤ったデータの生成、損害を被ったのがお客様である場合と第三者である場合、および本プログラムが他のプログラムと連携して適切に動作しない場合を含み、これらに限定されない）を問わず、一般的、特殊的、偶発的、必然的な損害のすべてを含みます。

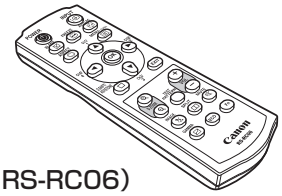
サポート

キヤノン株式会社、キヤノンの関係会社、および販売会社は、本プログラムに関するいかなるサポートサービスもいたしません。本プログラムに関する、お客様もしくは他のいかなるお客様からのご質問やお問い合わせにもご回答いたしかねます。

同梱品の確認

次の同梱品が揃っていることを確認してください。

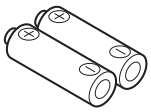
・リモコン



（品番：RS-RC06）

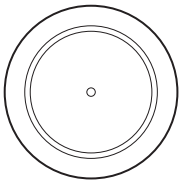
別売品のリモコン（RS-RC05）で操作することもできますが、機能しないボタンもあります。また、RS-RC05 はワイヤードリモコンとして使用できます。（P28）

・リモコン用乾電池

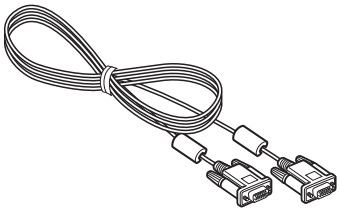


（単４形２本）

・レンズキャップ

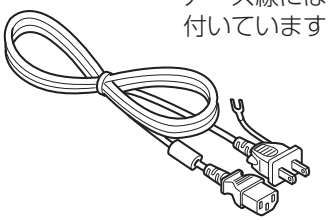


・コンピューターケーブル（1.8m）
（ミニ D-sub15 / ミニ D-sub15 ピン用）

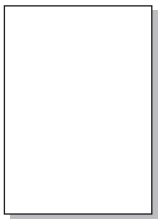


・電源コード（1.8m）

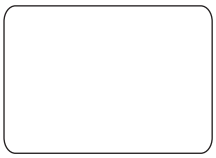
アース線にはキャップが付いています。



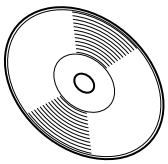
・重要なおしらせ（Important Information）（冊子）



・かんたんガイド



・使用説明書（CD-ROM）

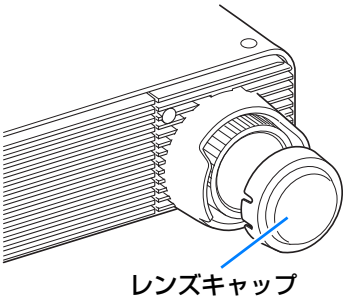


・保証書

■ レンズキャップの取り付けかた

注 意

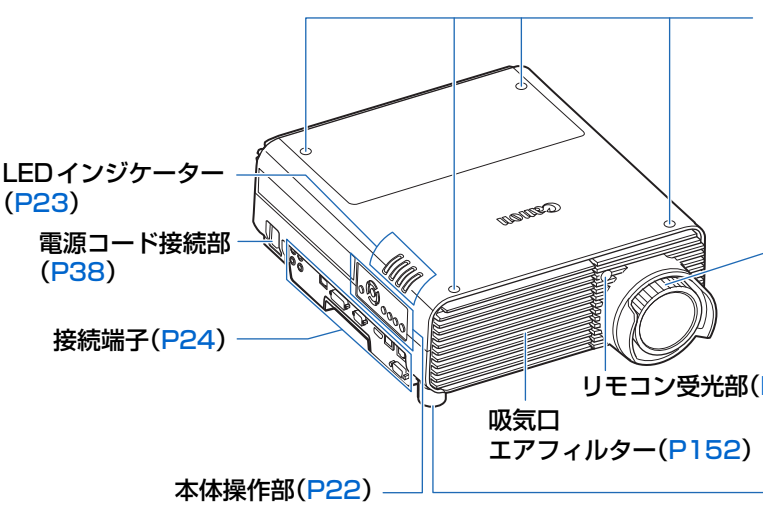
投写の際は必ずレンズキャップを外してください。キャップを付けたまま投写するとキャップが変形し故障の原因となることがあります。



各部のなまえ

本体

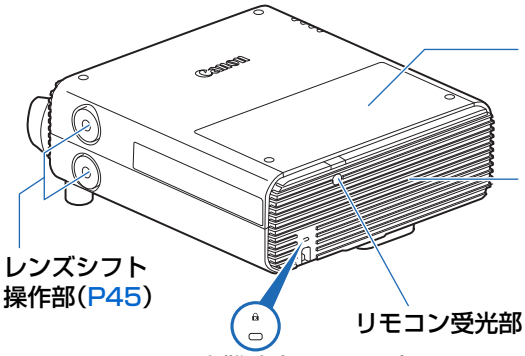
■ 前面



注 意

- **吸気を妨げないようにしてください。故障の原因となることがあります。**
- **投写するときはレンズキャップを必ず外してください。故障の原因となることがあります。**

■ 背面

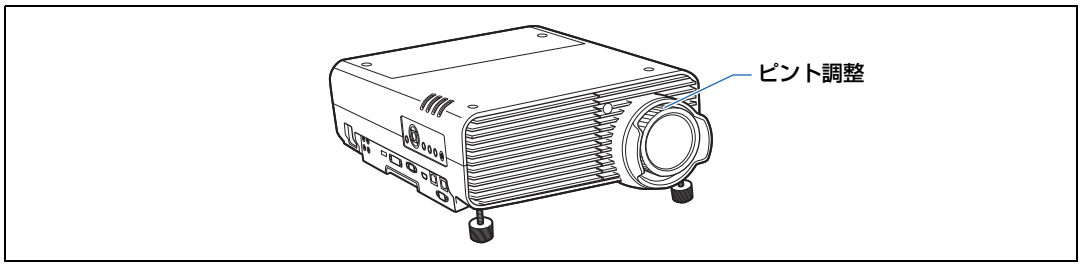


注 意

排気を妨げないようにしてください。故障の原因となることがあります。

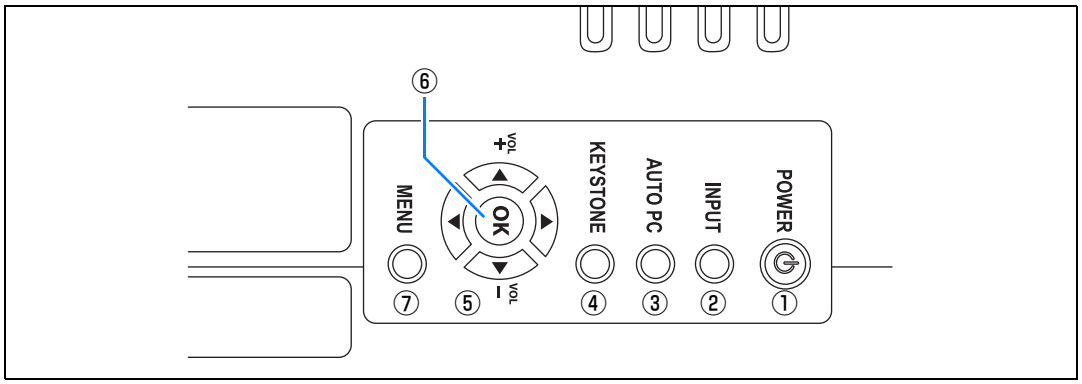
盗難防止用ロック穴
市販の盗難防止用ワイヤケーブルを接続できます。

投写レンズ部



ピント調整
フォーカスリングで画面のピントを調整します。（P45）

本体操作部



①POWERボタン（P39、P53）
（パワー）
電源をON / OFFします。

②INPUTボタン（P42）
（インプット）
投写する入力信号を選びます。

③AUTO PC（オートピーシー）（P44）
（オートピーシー）
アナログPC 入力時に、コンピューターの信号に合わせて本機を最適な状態に調整します。

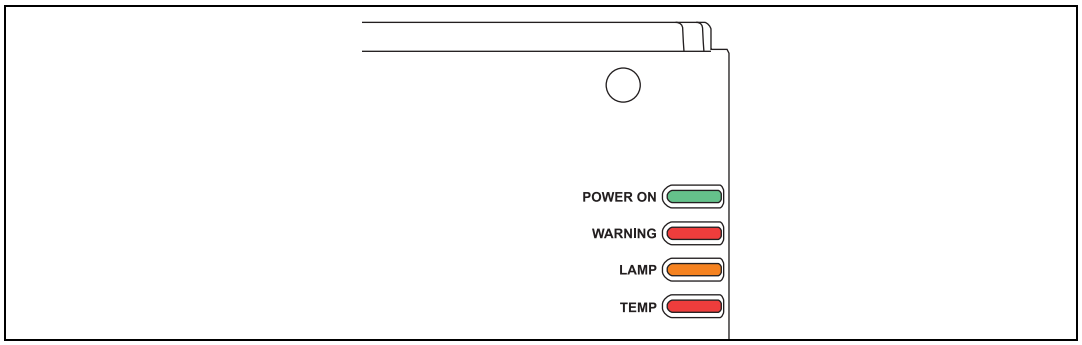
④KEYSTONE（キーストーン）（P49）
（キーストーン）
台形ひずみ（キーストーン）を補正します。

⑤方向 / VOLボタン（P59）
（ボリューム）
メニュー操作などでは上下左右の方向を指定します。
音量を調整します。
【▲】【VOL +】ボタンは音量を上げます。
【▼】【VOL −】ボタンは音量を下げます。

⑥OKボタン（P59）
（オーケー）
メニューなどで選んだ項目を確定します。

⑦MENUボタン（P58）
（メニュー）
投写画面にメニューを表示します。

LED インジケーター



LEDの表示（消灯 / 点灯 / 点滅）で本機の状態を知らせます。

- POWER ON（緑）：正常状態で、点灯または点滅します。
- WARNING（赤）　：エラー発生時に点灯または点滅します。
- LAMP（橙）　　：ランプやランプカバーの異常時に点灯または点滅します。
- TEMP（赤）　　：内部が高温状態になったときに点灯または点滅します。

■ LED インジケーターの表示について

本機の動作状態を各LED インジケーターの点滅または点灯で示します。

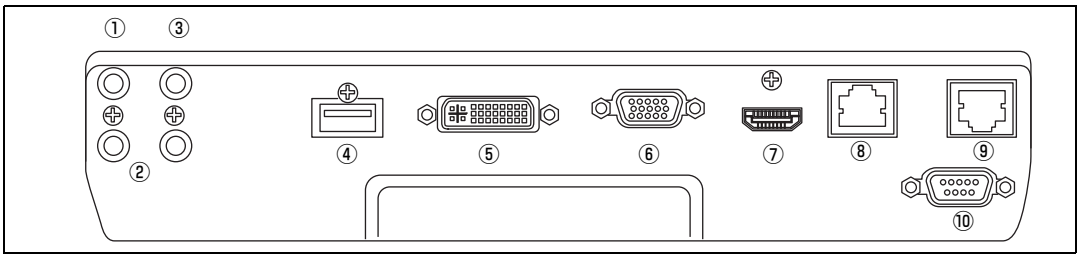
凡例：[POWER ON] インジケータの点灯例　□：消灯　■：点灯　■：点滅

LED インジケーター				動作状態
POWER ON（緑）	WARNING（赤）	LAMP（橙）	TEMP（赤）	
□	□	□	□	電源が接続されていません
■	□	□	□	電源が入っています
■	□	□	□	スタンバイ状態です（ゆっくり点滅：4 秒周期）
■	□	□	□	スタンバイ状態から電源オン、または電源オンからスタンバイ状態に移行中です（点滅：1 秒周期）
■	□	■	□	ランプの交換時期が近づいています（スタンバイ時）
■	□	■	□	ランプの交換時期が近づいています（投写時）
■	□	□	■	内部の温度が高くなっています
□	■	■	□	ランプのエラーが発生しています
□	■	□	■	温度のエラーが発生しています
□	■	■	□	ランプカバーが開いています
□	■	□	□	その他のエラーが発生しています

注 意

- **LAMP が点滅しているときは、ランプの交換時期が近づいています。交換ランプを用意してください。**
- **ランプの交換時期を過ぎて使い続けると、ランプが破裂する可能性が高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。**

接続端子



①音声出力端子（AUDIO OUT）（P35、P37）
外部 AV 機器に音声出力するための出力端子です。投写中の映像信号の音声信号が出力されます。

②音声入力端子（AUDIO IN）（P35、P37、P88）
音声信号の入力端子です。
［音声入力端子選択］にて、対応する映像入力の端子を選びます。

③ワイヤードリモコン用端子（REMOTE）（P28）
リモコンをケーブルで接続するときに使用する端子です。

④USB端子（P136）
USB メモリを接続する端子です。USB メモリの画像の表示やファームウェアのバージョンアップに使用します。

⑤アナログPC-1 / DVI-I端子（🖳1 DVI-I）（P35）
コンピューターの外部モニター出力と接続します。
デジタル信号（デジタルPC）の入力端子です。
VGA—DVI-Iケーブルを使用して、アナログPC信号（アナログPC-1）を入力することもできます。

⑥アナログPC-2 / コンポーネント端子（🖳2/COMPONENT）（P36、P37）
アナログPC 信号（アナログPC-2）の入力端子です。
コンポーネントケーブルを使用して、コンポーネント映像（コンポーネント）を入力することもできます。

⑦HDMI端子（HDMI）（P36、P37）
デジタルコンテンツの映像信号（HDMI）の入力端子です。
映像と音声を1本のケーブルで入力できます。

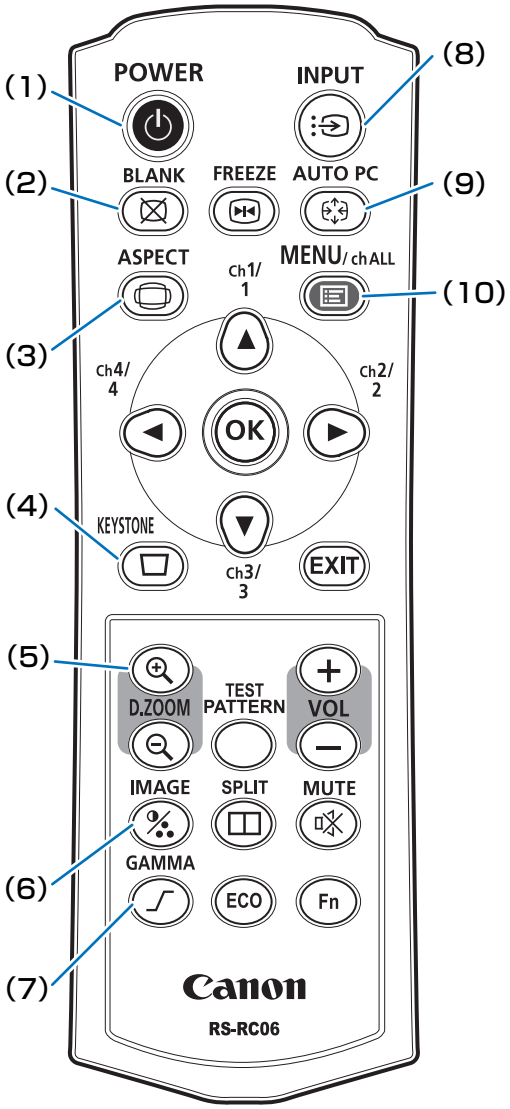
⑧LAN接続端子（P98）
LANケーブル（シールドタイプ）を接続します。
本機をネットワークに接続できます。

⑨HDBaseT端子（P36、P37、P98）
デジタル映像信号とデジタル音声信号を含むHDBaseTの入力端子です。
映像と音声を1本のHDBaseTケーブル（シールドタイプ）で入力できます。
ネットワークに接続することもできます。

⑩サービス用端子（CONTROL）（P167）
ユーザーコマンドを実行することができます。（P168～P169）

リモコン

本機は、リモコンまたは本体操作部のボタンを使って操作します。



(1) POWERボタン（P39、P53）

電源をON / OFFします。

(2) BLANKボタン（P54）

映像の表示 / 非表示を切り換えます。

(3) ASPECTボタン（P48、P62）

映像の縦横比（アスペクト）を切り換えます。

(4) KEYSTONEボタン（P49）

台形ひずみを調整します。
操作は［キーストーン］の設定により、上下、または左右方向の長さを調整する縦横キーストーンと、各角ごとに調整する４点補正があります。

(5) D. ZOOMボタン

映像をデジタルズームで拡大縮小します。
【🔍】ボタン　拡大（最大12倍）
【🔍】ボタン　縮小（最小1倍）
【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン
　拡大場所を移動します。

(6) IMAGEボタン（P52）

イメージモード（画質）を切り換えます。

(7) GAMMAボタン（P70）

ガンマを調整します。

(8) INPUTボタン（P42）

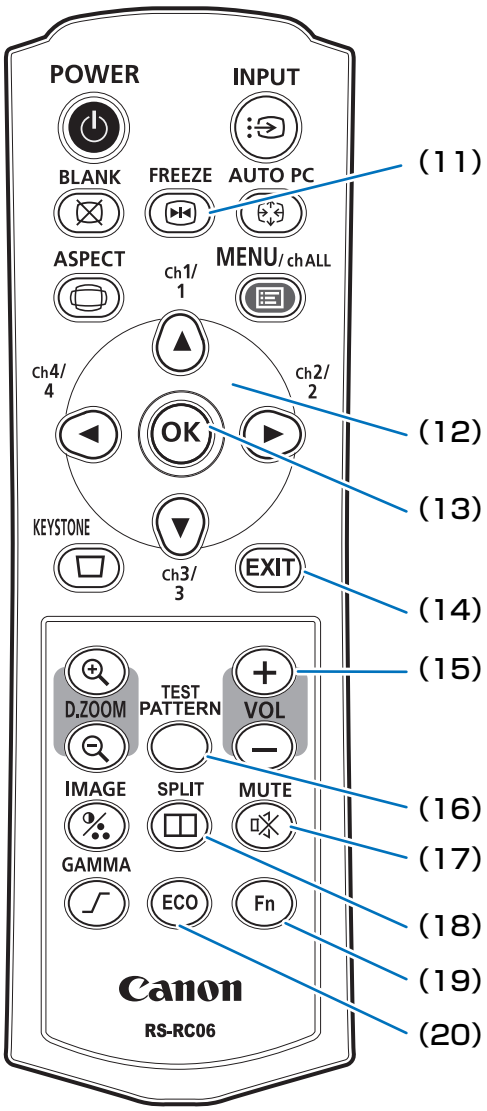
投写する入力信号を選びます。

(9) AUTO PCボタン（P44）

アナログPC入力時に、コンピューターの信号に合わせて本機を最適な状態に調整します。

(10) MENUボタン（P58）

投写画面にメニューを表示します。また、リモコンのチャンネル設定を行います。（P88）



(11) FREEZE（フリーズ）ボタン（P54）
映像を静止させます。

(12) 方向ボタン（P59）
メニューなどで上下左右の方向を指定します。また、リモコンのチャンネル設定を行います。

(13) OK（オーケー）ボタン（P59）
メニューなどで選んだ項目を確定します。

(14) EXIT（イグジット）ボタン（P60）
メニュー表示や、テストパターンなどの使用中の機能を解除し、映像の表示に戻ります。

(15) VOL（ボリューム）ボタン
音量を調節します。
【+】ボタン
音量を上げます。
【−】ボタン
音量を下げます。

(16) TEST PATTERN（テストパターン）ボタン（P84）
テストパターンを表示します。

(17) MUTE（ミュート）ボタン
音声を一時的に消します。

(18) SPLIT（スプリット）ボタン（P143）
2画面機能を呼び出します。

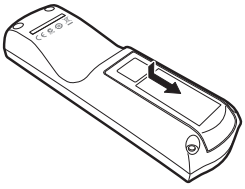
(19) Fn（ファンクション）ボタン（P94）
ボタンに機能を割り当てることができます。

(20) ECO（エコ）ボタン（P55）
ECOメニューを呼び出し、省電力に関する設定を行えます。

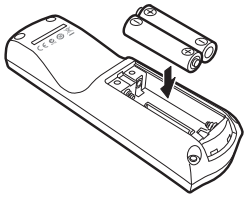
リモコンの準備

■ リモコンへの電池の入れかた

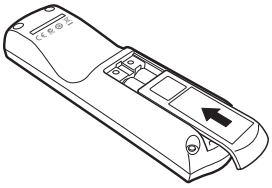
1 **電池カバーを開く。**
押しながらスライドさせて外します。



2 **電池を入れる。**
新しい単４乾電池２本を＋プラスと－マイナスの向きに注意して入れます。



3 **電池カバーを閉じる。**
スライドさせ、パチンと音が出るまでしっかり閉じます。



- リモコンでの操作ができない場合は、新しい電池と交換してください。
- リモコンを落としたり衝撃を与えないでください。
- リモコンに液状のものをかけないでください。故障の原因となることがあります。

警告

禁止

電池の取り扱いについて以下の点に注意してください。火災やけがの原因となります。

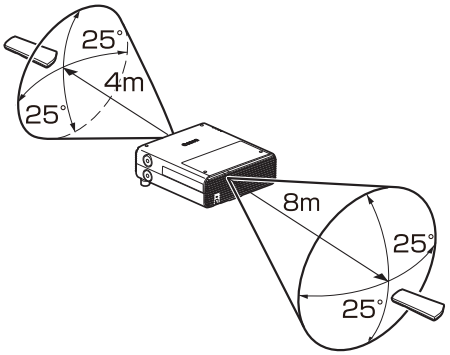
- **電池を火の中に入れたり、加熱、ショート、分解したりしないでください。**
- **付属の電池は充電しないでください。**

注意

- **電池を使いきったときや、長時間使用しないときは電池を取り外してください。**
- **電池を交換するときは２本同時に交換してください。また、種類の違う電池を同時に使用しないでください。**
- **＋ と－の向きを正しく入れてください。**
- **万一、液漏れなどで内部の液体が体についたときは、水でよく洗い流してください。**

■ リモコンで操作できる範囲

リモコンは赤外線方式です。本体の前面または背面にあるリモコン受光部に向けて操作してください。

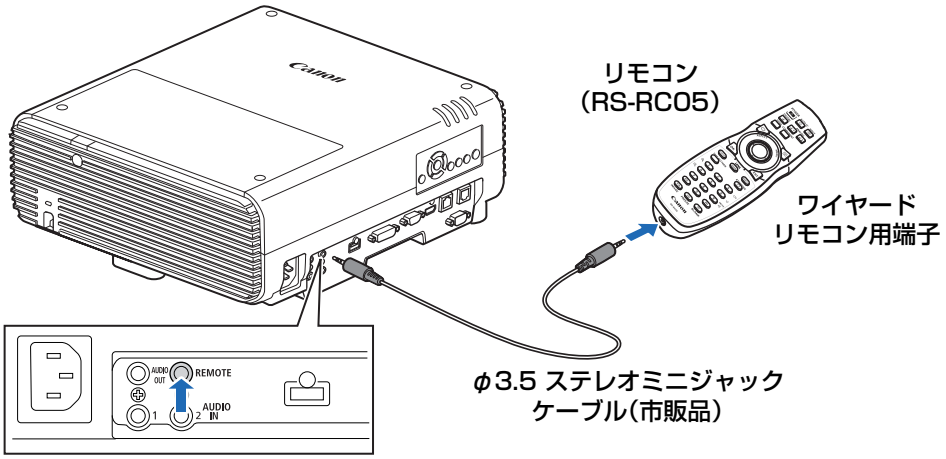


- リモコンで操作できる範囲は前 4m、後 8m 以内です。
- リモコンは本体の受光部の正面から 25° の範囲で使用してください。
- 本体との間に障害物があるときや、本体の受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているときは、リモコンが操作できないことがあります。
- 2 台以上のプロジェクターを使用する場合は、リモコンが干渉し合わないようにチャンネル設定を切り換えてください。(P88)

■ 別売品のリモコン (RS-RC05) をケーブルで接続して使う場合

リモコンを本体とケーブルで接続して使用したい場合は、別売品の RS-RC05 をご使用ください。

ケーブルは、市販品の φ3.5 ステレオミニジャックケーブルをご使用ください。



- 本体、またはリモコンにケーブルを接続している場合は、赤外線での操作ができません。
- φ3.5ステレオミニジャックケーブル(市販品)は、**長さ30m以下**のものを使用してください。

基本編

安全にお使いいただくために

はじめに

基本編

設置のしかた

接続のしかた

投写のしかた

便利な機能

応用編

メニューの使いかた

メニューの説明

高度な投写

その他

メンテナンス

製品の仕様

困ったときには

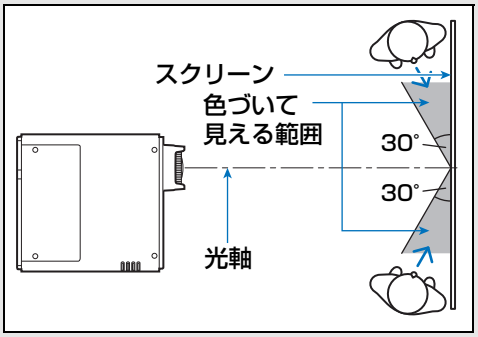
本機を設置する前に、「設置の前に」（P14）を必ずお読みください。

プロジェクターを設置する

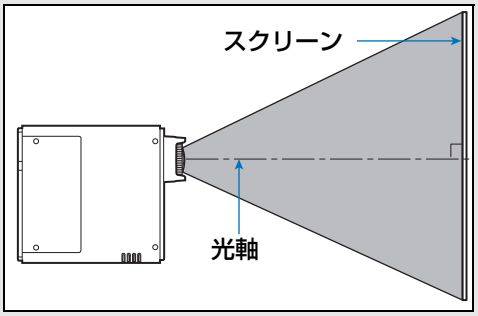
■ スクリーンの正面に置く

本機をスクリーンの正面に置いてください。

- 使用するスクリーンの特性によっては、斜めから見た場合に投写画面の一部が色づいて見えることがありますが、故障ではありません。広視野角タイプ（マットタイプ）のスクリーンの使用を推奨します。



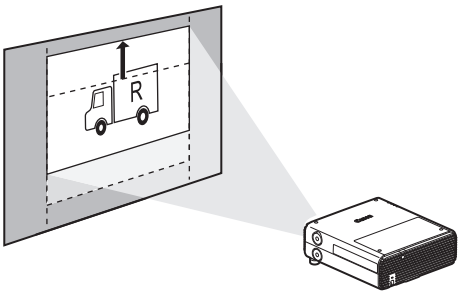
- 真っすぐに投写しないと画面がひずみます。
- スクリーンには、太陽光線や照明が直接当たらないようにしてください。明るい部屋では、照明を消す、カーテンを引くなどすると、画面が見やすくなります。



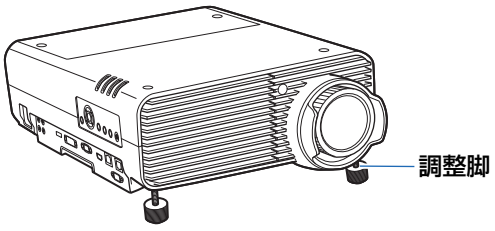
■ 床に置く

床置きのとき、スクリーンへの投写位置を調整するには、レンズシフト機能（P33、P45）を使用して上下左右に調整することができます。また、調整脚を使って最大 6° まで上に向けることができます。

投写距離と画面サイズの関係については33ページを参照してください。



レンズシフト

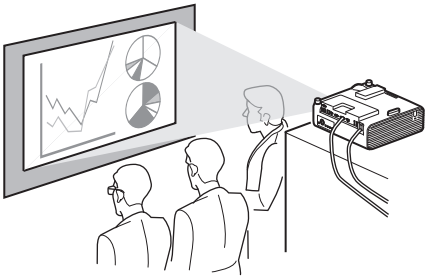


■ 上に傾けて置く

調整脚などを使い、上に傾けて設置すると投写画面が台形にひずみますが、キーストーン補正（P49）や4点補正（P50）の操作により補正できます。

■ 高い位置に置く

本機を高い棚などの上において投写する場合、本機を逆さにして下向きに投写する方法があります。逆さにして設置するときは、プロジェクター上面にオプション脚を取り付けてください。



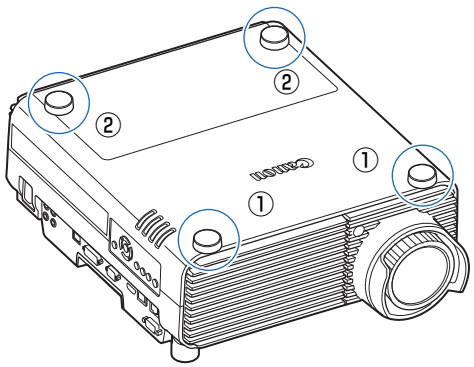
⚠警告

本機を高いところに置いて使用する場合は、必ず水平で安定した場所に設置してください。本機が落下して事故やけがの原因になります。

別売品のオプション脚（RS-FT01）を取り付ける

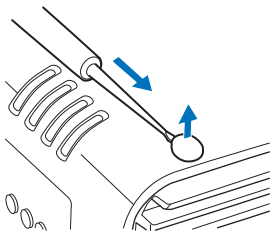
ホールキャップを取り外し、ネジ穴に取り付けます。
ホールキャップは、上面に 4 箇所あります。ホールキャップの場所によって取り外しかたが異なります。

上面



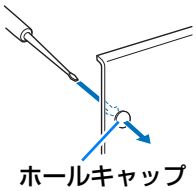
①のホールキャップの外しかた

先端の細いマイナスドライバーなどをくぼみに差し込み、ホールキャップを持ち上げます。



②のホールキャップの外しかた

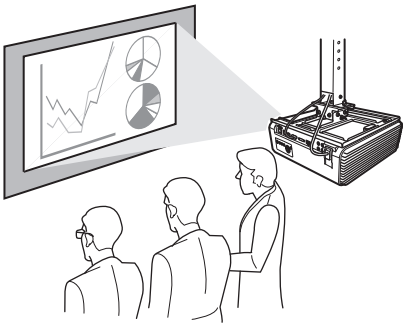
ランプカバーを開け、ホールキャップの後ろからドライバーなどで押します。



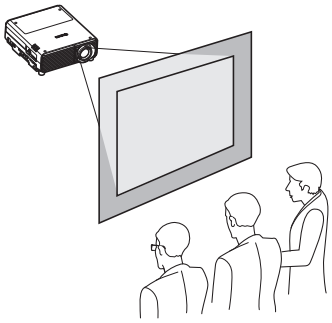
- 取り外したホールキャップはなくさないよう保管してください。
- 調整脚と併用して使用することができます。調整脚で投写位置を調整する場合、底面後方の取り付け穴２箇所にオプション脚を取り付けると、安定して投写することができます。

■ 天吊り / リア投写について

本機は、天井から逆さに吊り下げ（天吊り）て投写したり、透過型スクリーンを使用してスクリーン裏側から投写（リア投写）することもできます。



天吊り投写



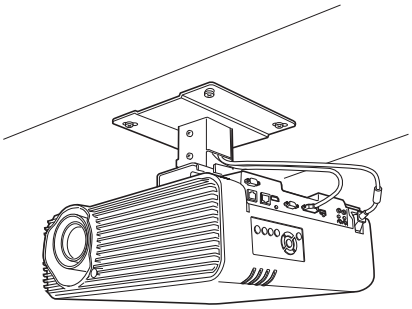
リア投写

天吊りには、専用の天吊り金具を使用します。天吊り金具については、178ページの「別売品」を参照してください。詳しくは、天吊り金具に付属の組立・設置説明書を参照してください。

吊り下げ型の設置について

本機は天井から吊り下げてご利用いただくこともできます。

吊り下げには、オプションの天吊り金具 **（品番：RS-CL16）**が必要です。さらに、設置環境に合わせて、延長パイプ（品番：RS-CL08、またはRS-CL09）が必要になる場合があります。詳しくは、販売店にお問い合わせください。



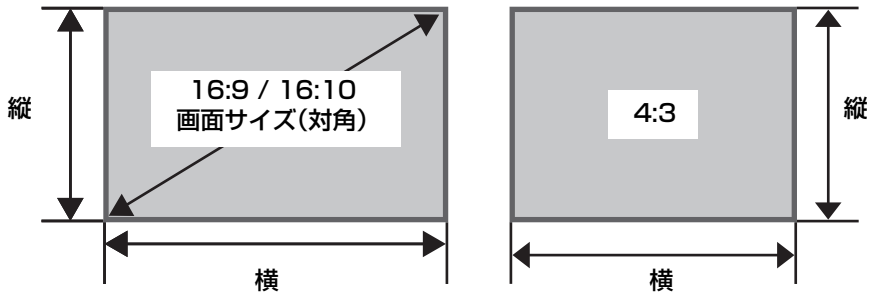
注 意

- **必ず専用の天吊り金具を使用してください。**
- **お客様による天吊り金具の設置は絶対におやめください。**

本機を吊り下げてご使用になる際は、メニューの［反転表示］で映像を反転する必要があります。（P76）

投写距離と画面サイズの関係

投写画面のサイズは、本機からスクリーンまでの距離（投写距離）とズーム位置（電子的なズーム）で決まります。次の表を参考に、本機のスクリーンからの距離を決めてください。



投写距離［m］

画面サイズ(型)	16：10	16：9	4：3
30	0.35	0.36	0.40
40	0.47	0.49	0.54
50	0.60	0.61	0.68
60	0.72	0.74	0.81
80	0.96	0.99	1.09
100	1.20	1.24	1.36
150	1.81	1.86	2.05
200	2.42	2.49	2.74
250	3.03	3.11	3.43
300	3.64	—	—

画面サイズの性能保証範囲は、50 型～ 200 型です。

レンズシフト機能について

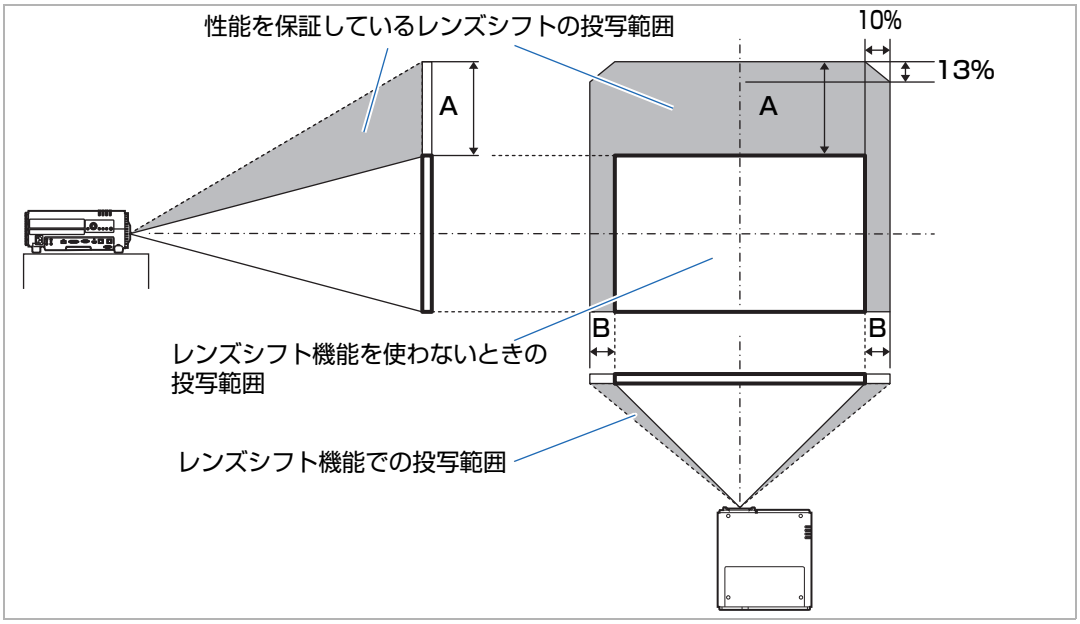
本機の側面についているレンズシフトダイヤルを回して投写レンズを上下左右にスライドさせ、画面位置を上下左右に移動することができます。操作のしかたについては、「画面の位置を調整する」（P45）を参照してください。

■ レンズシフト移動量について

レンズシフト量は、画面の高さおよび幅に対する移動量をパーセンテージで表したものです。本機におけるレンズシフト量は、次の通りです。

A 上方向のシフト量	＋ 75%
B 左右方向のシフト量	± 10%

本機では、上と左右方向のレンズシフト操作が可能です。以下は、本機のレンズシフト操作の性能を保証している範囲です。この範囲を外れた場合、周辺光量が低下したり、解像感が劣化する場合があります。この場合、許容範囲内まで、レンズシフト位置をずらしてご使用ください。



レンズシフトによる上方向（A）と左右方向（B）の最大移動量（参考値）[cm]

[cm]

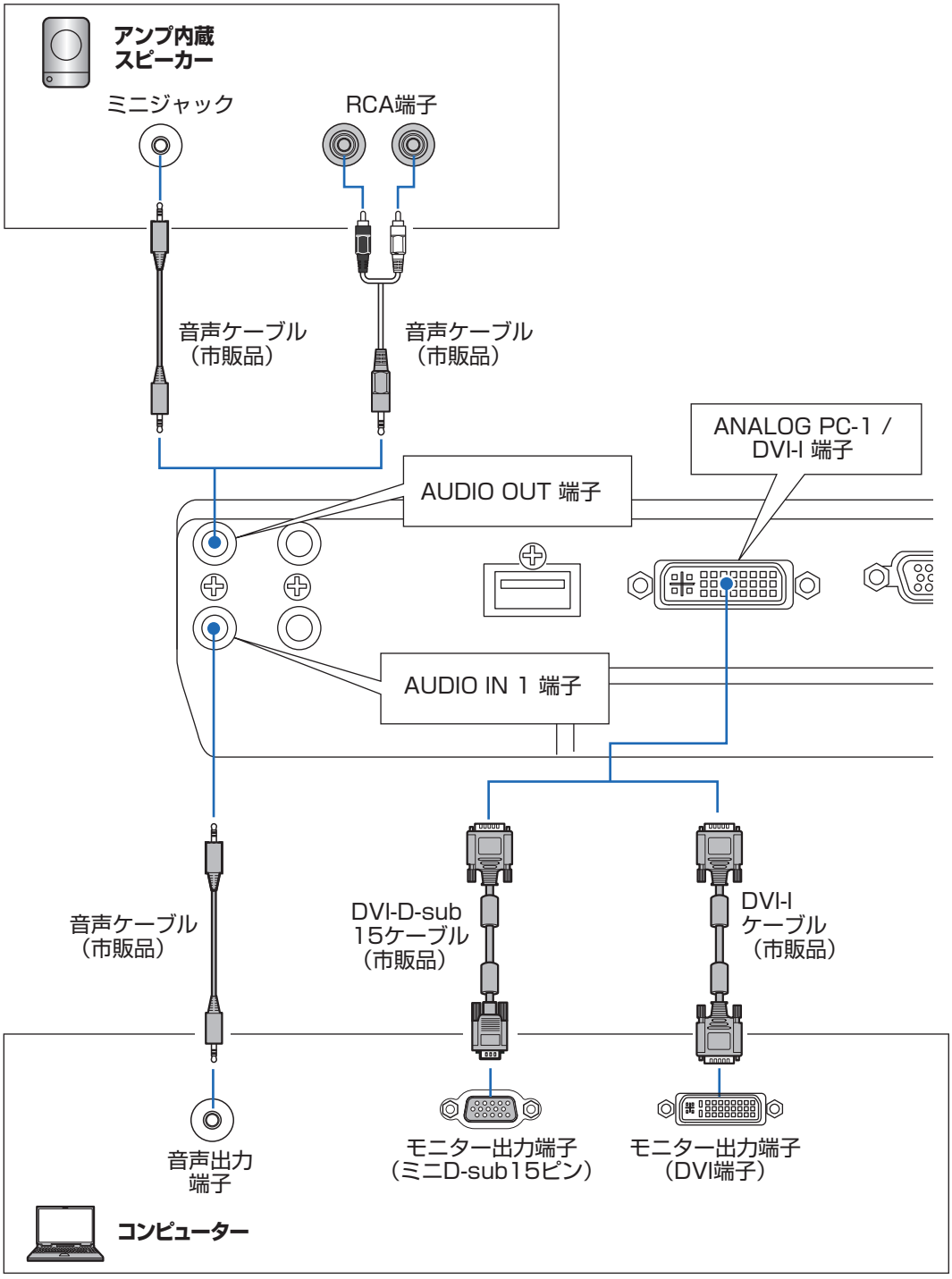
画面サイズ（型）	16:10		16：9		4：3	
	A	B	A	B	A	B
30	30	6	28	7	34	6
40	40	9	37	9	46	8
50	50	11	47	11	57	10
60	61	13	56	13	69	12
80	81	17	75	18	91	16
100	101	22	93	22	114	20
150	151	32	140	33	171	30
200	202	43	187	44	229	41
250	252	54	233	55	286	51
300	303	65	280	66	343	61

- A の数値は、レンズシフト機能でスクリーンに対し垂直方向に移動したとき、映像が一番下になったときからのおおよその移動量です。
- B の数値は、レンズシフト機能でスクリーンに対し水平方向に移動したとき、映像が移動できる範囲の中心の位置からのおおよその移動量です。

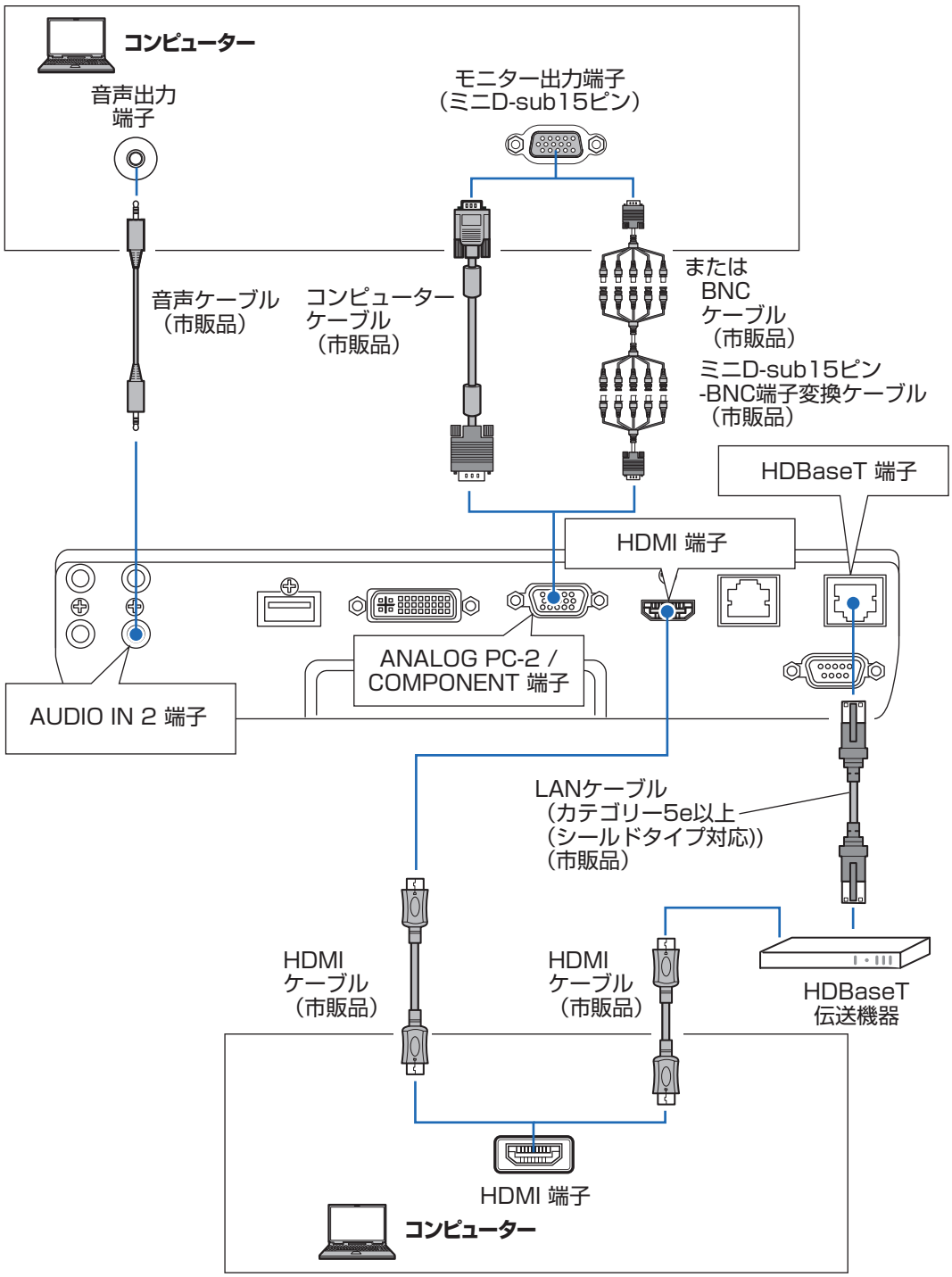
- レンズシフトの操作は映像を投写し、見ながら行ってください。
- レンズシフトの操作中、映像が移動しなくなったら移動範囲の限界です。続けて同じ方向にレンズシフトダイヤルを無理に回さないでください。故障の原因となることがあります。

注 意 **プロジェクターと接続機器の電源を切ってから接続してください。**

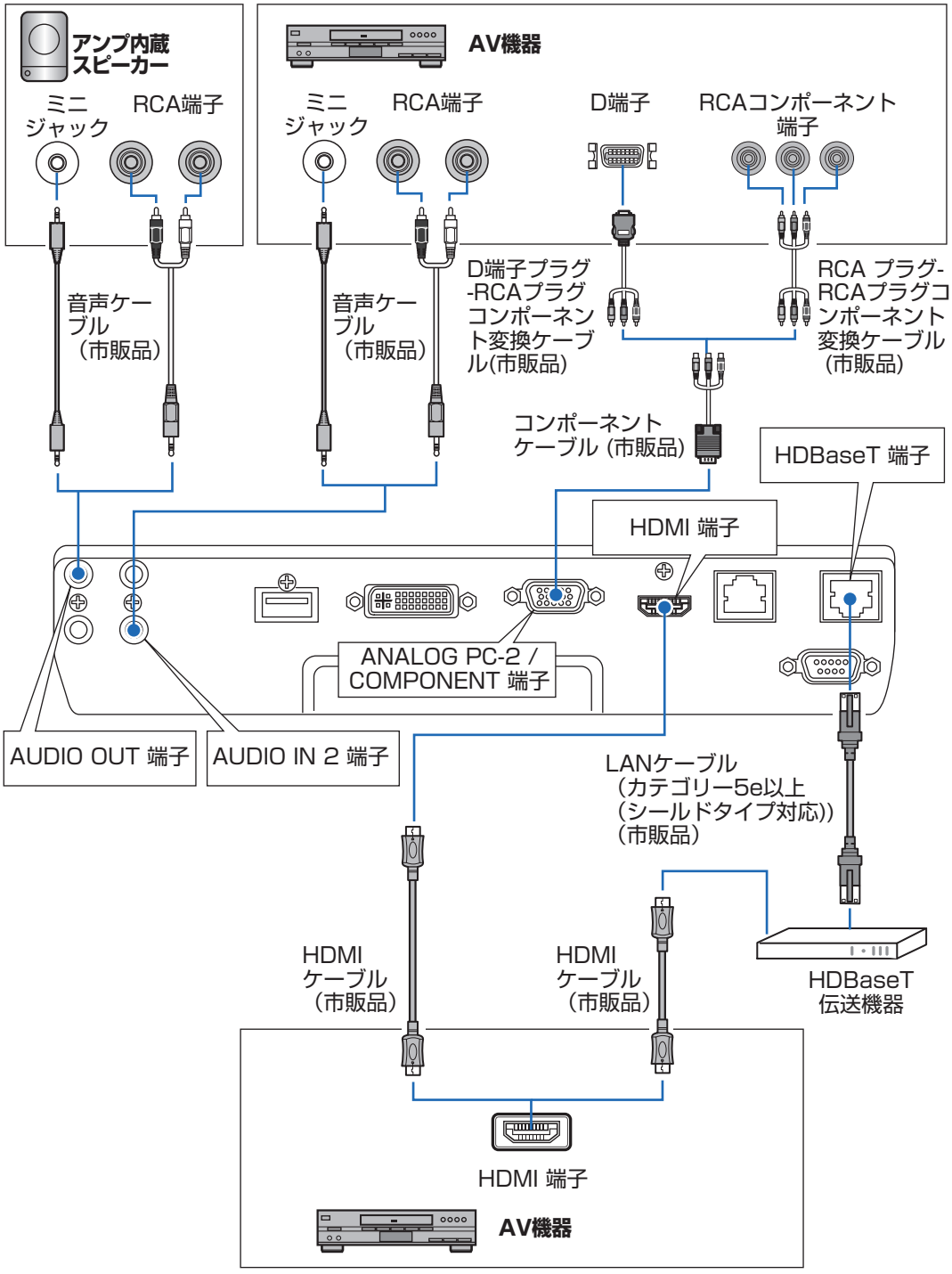
コンピューターを接続する



コンピューターを接続する（つづき）



AV 機器を接続する

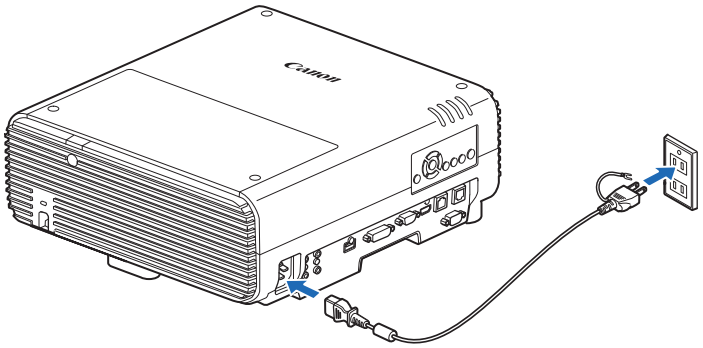

アンプ内蔵
スピーカー
ミニ
ジャック
RCA端子
AV機器
ミニ
ジャック
RCA端子
D端子
RCAコンポーネント
端子
音声ケー
ブル
（市販品）
音声ケー
ブル
（市販品）
D端子プラグ
-RCAプラグ
コンポーネン
ト変換ケーブ
ル(市販品)
RCA プラグ-
RCAプラグコ
ンポーネント
変換ケーブル
（市販品）
コンポーネント
ケーブル（市販品）
HDBaseT 端子
HDMI 端子
ANALOG PC-2 /
COMPONENT 端子
AUDIO OUT 端子
AUDIO IN 2 端子
LANケーブル
（カテゴリー5e以上
（シールドタイプ対応））
（市販品）
HDMI
ケーブル
（市販品）
HDMI
ケーブル
（市販品）
HDBaseT
伝送機器
HDMI 端子
AV機器

HDBaseT について

- ケーブルはカテゴリー 5e 以上（シールドタイプ対応）を使用してください。
- 伝送可能な距離は最長 100m です。
- ご使用の環境によって伝送距離が短くなることがあります。
- LAN ケーブルは巻いたり、束ねた状態で使用しないでください。
- 投写中に LAN ケーブルを抜き差しすると、ノイズが発生する場合があります。
- 本機は市販されているすべての HDBaseT 伝送機器との接続を保証するものではありません。
- 一部の HDBaseT 伝送機器を経由して、入力機器を本プロジェクターに接続した場合、正常に表示できないことがあります。

電源コードを接続する

プロジェクターに電源コードを接続します。



警告

- **電源コードのアース線を必ずアースに接続してください。**
- **アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また アース線を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**

- コネクターは奥までしっかりと差し込んでください。
- 電源を切った後に再度電源を入れる場合は、5 分以上経ってから電源を入れるようにしてください。すぐに電源を入れると、ランプの寿命を縮める原因となることがあります。
- 長期間ご使用にならないときは電源プラグを抜いてください。

ステップ 1　電源を入れる

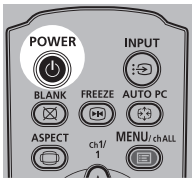
1　コンピューターまたは AV 機器との接続を確認します。(P35 ～ P37)

電源コードの接続については「電源コードを接続する」(P38) を参照してください。

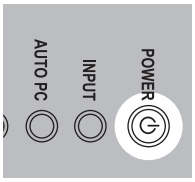
2　【POWER】ボタンを押します。

［POWER ON］インジケーター（緑）が点滅し、点灯に変わります。

リモコン



本体



カウントダウン表示（約 20 秒間）が行われた後、投写をはじめます。なお、カウントダウン表示は【OK】ボタンまたは【EXIT】ボタンを押すと消えます。

- 電源を入れた後、約 40 秒間はネットワーク機能が使えません。
- ご購入後に初めて電源を入れたときは、メッセージやメニューの言語を選ぶ画面が表示されます。方向ボタンで言語を選び、【OK】ボタンを押してください。(P40)
  なお、言語は後からメニューを使って変更することもできます。(P92)

3　コンピューターまたは AV 機器の電源を入れます。

起動時の動作を変更するには

起動時の動作を、次のように変更できます。

- 【POWER】ボタンを使わずに、電源コードを接続するだけで電源を入れることができます。(P91)
- カウントダウン中の表示を変えられます。(P86)
- カウントダウン表示を消すことができます。(P86)

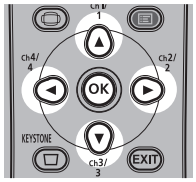
一定時間使用しない場合は

本機は一定時間（出荷時設定では 15 分間）無信号状態、かつ無操作状態が継続すると、パワーマネージメント機能により自動的に電源が切れます。(P90)

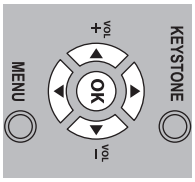
■ 言語を選ぶ画面が表示されたとき

ご購入後に初めて電源を入れたときは、メッセージやメニューの言語を選ぶ画面が表示されます。方向ボタンで言語を選び、【OK】ボタンを押してください。
なお、言語は後からメニューを使って変更することもできます。（P92）
ピントがずれていて言語を選ぶ画面が読めないときは、ピントを調整してください。（P45）

リモコン



本体



オレンジの項目が選ばれます

■ パスワード入力画面が表示されたとき

パスワードを設定しているときは、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力してください。（P93）

■「入力信号がありません」と表示されたとき

ノート型コンピューターの場合は、出力切り換えが必要です。（P41）
【INPUT】ボタンを押して入力信号を選びます。（P42）

■ ノート型コンピューターの画面が表示できないとき

ノート型コンピューターの画面を、外部モニターに出力できるよう切り換えます。詳しくは、次の「ノート型コンピューターの画面出力を切り換える」（P41）を参照してください。

■ 画面を調整するとき

- コンピューター側の表示解像度を最大解像度、または最も近い解像度に設定してください。（P43）
- コンピューターの映像の表示のずれや画面のちらつきは、オートPC で調整してください。（P44）
- 投写画面のサイズは、電子的なズーム（P77）で調整してください。
- ピント調整が不十分なときはフォーカスリングで調整してください。（P45）
- 台形ひずみの補正が不十分なときは【KEYSTONE】ボタンで調整してください。（P49）
- スクリーンの縦横比、入力信号の種類などに合わせて、スクリーンアスペクトとアスペクトを選んでください。（P46～P48）
- 投写する映像の内容に合わせてイメージモード（画質）を選んでください。（P52）

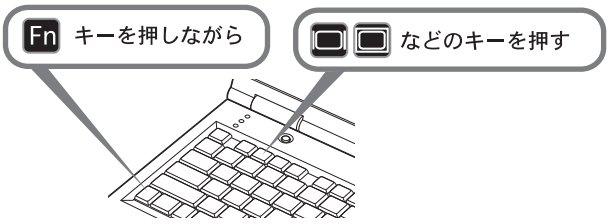
テストパターン（P84、P161）を投写して画面の調整もできます。

ノート型コンピューターの画面出力を切り換える

ノート型コンピューターを使用する場合は、コンピューター側で画面出力の切り換えが必要です。
デスクトップ型コンピューターではこの操作は不要です。

■ 外部モニター切り換え操作

ノート型コンピューターの画面出力は、キーボード操作で外部モニターへ切り換えることができます。
一般的には、［Fn］キーを押しながら、外部モニターを表すアイコンや文字が表記されているファンクションキー（［F1］～［F12］）を押すと、外部モニターへ切り換わります。



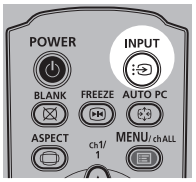
- 機種により使用するファンクションキーや切り換え方法が異なります。ご使用のノート型コンピューターの取扱説明書を参照してください。
- Windows 8.1 / Windows 8 / Windows 7 では Windows ロゴキーを押しながら［P］キーを押すと、画面出力を切り換えることができます。

ステップ２　入力信号を選択する

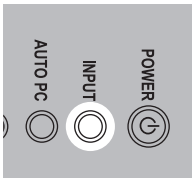
デジタル信号のコンピューターやAV機器で投写するとき、複数のコンピューター、AV機器などを接続して投写を切り換えるときは、［INPUT］メニューで入力信号を選びます。前回と同じ信号を投写するときは、この操作は不要です。

1 **【INPUT】ボタンを押すと、下の画面が表示されます。**

リモコン



本体



現在投写中の信号に○（緑）が点き、オレンジ色の枠で表示されます。
また、投写可能な状態の信号は文字が白で表示され、入力のない信号は文字がグレーで表示されます。ただし［デジタル PC］と［アナログ PC-1］は、投写可能な状態でも文字がグレーで表示されることがあります。

2 **【INPUT】ボタンを押すたびに、入力信号が切り換わります。**

【▲】【▼】ボタンでも入力信号が切り換わります。

3 **【OK】ボタンを押して、入力信号を決定します。**

- 入力信号で［LAN］を選択した場合、ネットワーク上のコンピューターの映像を投写することができます。詳しくは、NMPJ 使用説明書をご覧ください。
- 入力信号として［USB］を選択した場合、USB メモリ内の画像を投写することができます。詳しくは「USB メモリの画像を投写する」(P136) を参照してください。
- 2 画面表示の場合、操作権のない画面の入力信号が○（白）で表示されます。

ステップ 3　画面を調整する

コンピューターの表示解像度を設定する

本機の最大解像度に合わせて、コンピューター側の表示解像度を最も近い解像度に設定してください。（P162）

最大解像度

1920 × 1200 ドット

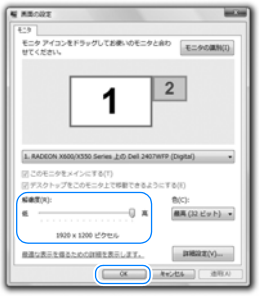
■ Windows 8 / 8.1 の場合

1. マウスポインターを画面の右上、または右下の外に出し、メニュー画面を表示します。
2. [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
3. [コントロールパネルホーム] の [デスクトップのカスタマイズ] から [画面の解像度の調整] を選びます。
4. [解像度] 欄をクリックし、表示されるスライダを移動して本機の最大解像度に最も近い解像度を選びます。
5. [OK] ボタンをクリックします。

■ Windows 7 の場合

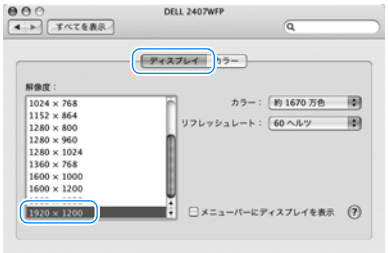
1. スタートメニューから [コントロールパネル] を選び、[コントロールパネルホーム] の [デスクトップのカスタマイズ] から [画面の解像度の調整] を選びます。
2. [解像度] 欄をクリックし、表示されるスライダを移動して本機の最大解像度に最も近い解像度を選びます。
3. [OK] ボタンをクリックします。

■ Windows Vista の場合



1. スタートメニューから［コントロールパネル］を選び、［コントロールパネルホーム］の［デスクトップのカスタマイズ］から［画面の解像度の調整］を表示します。
2. ［解像度］から本機の最大解像度に最も近い解像度を選びます。
3. 【OK】ボタンをクリックします。

■ Mac OS X の場合



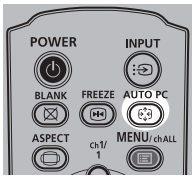
1. アップルメニューを開き、［システム環境設定］を選びます。
2. システム環境設定ウィンドウの［ディスプレイ］アイコンをクリックし、ディスプレイの画面を表示します。
3. ［ディスプレイ］タブを選び、［解像度］の一覧から本機の最大解像度に最も近い解像度を選びます。
4. ［システム環境設定］のウィンドウを閉じます。

オート PC で調整する

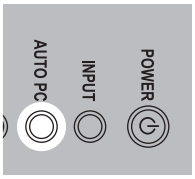
入力信号が［アナログ PC-1］［アナログ PC-2］の場合、映像の表示位置が上下左右にずれていたり、画面がちらつくようなときに、【AUTO PC】ボタンを押すと、本機が最適な状態に調整されます。

調整結果は記憶されますので、同じコンピューターに接続して使用する場合は、入力信号を選ぶだけで前回調整された状態で投写できます。

リモコン



本体



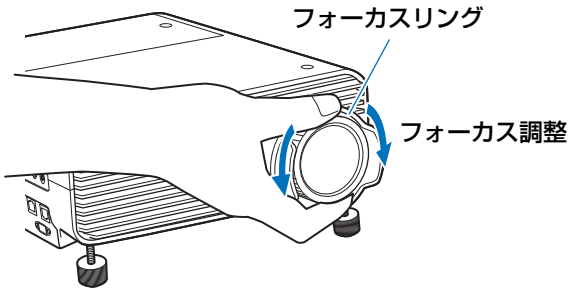
オート PC での調整が不十分なときは、次の操作を行ってください。

- ［入力信号選択］からコンピューターの解像度に合わせて入力信号を選んでください。（P62）
- 上記の操作でも調整が不十分なときは、［入力信号設定］から、［総ドット数］、［トラッキング］、［水平 / 垂直位置］、［水平 / 垂直表示ドット数］を調整してください。（P63）
- 本機が対応している信号形式については、162 ～ 163 ページの表を参照してください。

画面のピント / 画面サイズ / 画面の位置を調整する

■ 画面のピントを合わせる

フォーカスリングを回すことで、ピントを調整することができます。

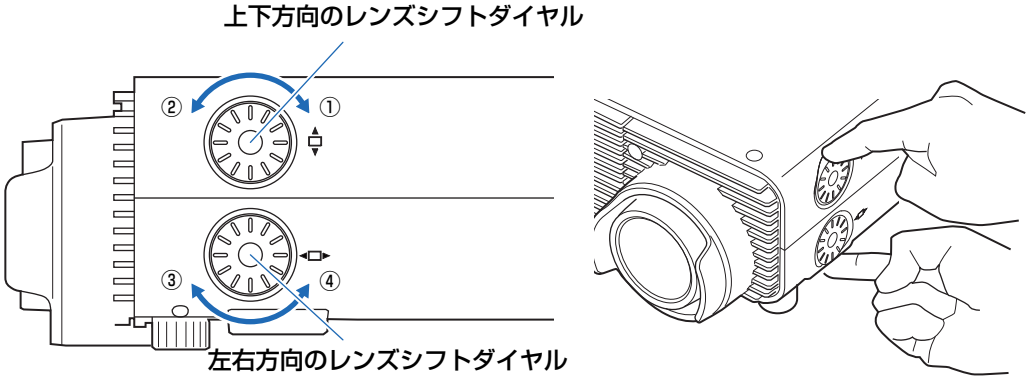


フォーカスリングを回すときに投写画面がゆれます。フォーカスリングの上下部をつかんで、ゆっくり回しながらピントを調整してください。

■ 画面の位置を調整する

レンズシフトダイヤルを操作することで、画面の投写位置を上下左右に調整できます。これを「レンズシフト」といい、レンズの位置を上下左右に移動させることで、投写画面を最適な位置に変更できる機能です。

- レンズの投写位置ではなく、映像の位置を移動することもできます。詳しくは「デジタルイメージシフト」(P78) を参照してください。
- 上側のレンズシフトダイヤルの上部、下側のレンズシフトダイヤルの下部を回すと、微調整ができます。



①上側のレンズシフトダイヤルを時計回りに回す:画面位置が**上方向**に移動します。
②上側のレンズシフトダイヤルを反時計回りに回す:画面位置が**下方向**に移動します。
③下側のレンズシフトダイヤルを時計回りに回す:画面位置が**右方向**に移動します。
④下側のレンズシフトダイヤルを反時計回りに回す:画面位置が**左方向**に移動します。
レンズシフトについては、「レンズシフト機能について」(P33) をご覧ください。

ステップ 4　スクリーンに合わせて縦横比（アスペクト）を選択する

スクリーンのサイズを最大に活かした投写を行うため、スクリーンの縦横比、入力信号の種類などに合わせて、最適なスクリーンアスペクトとアスペクトを選んでください。

［スクリーンアスペクト］　お使いのスクリーンの縦横比と同じものを選んでください。
［アスペクト］　基本的に［オート］を選んでください。

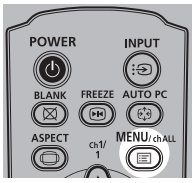
ただし、コンピューターなどの入力機器の解像度によっては設定を変更したほうが良い場合もあります。希望通りの縦横比で投写されないときは、158ページの「アスペクトとスクリーンアスペクトの関係」を参照してください。

スクリーンアスペクトを選ぶ

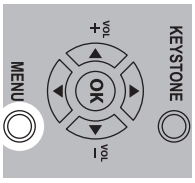
使用するスクリーンの縦横比に合わせて選びます。

1 **【MENU】ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。**

リモコン

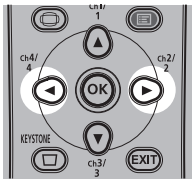


本体

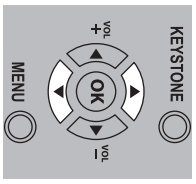


2 **【◀】【▶】ボタンで［設置設定］タブを選びます。**

リモコン

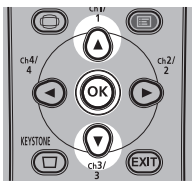


本体

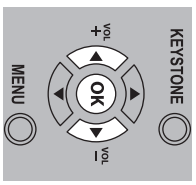


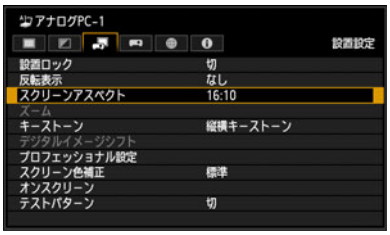
3 **【▲】【▼】ボタンで［スクリーンアスペクト］を選び、【OK】ボタンを押します。**

リモコン

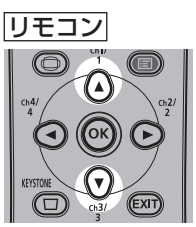


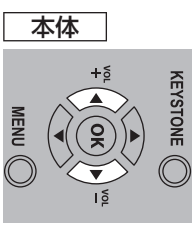
本体





4 【▲】【▼】ボタンで内容を選びます。





16：10

スクリーンの縦横比が16：10のときに選びます。壁に投写するときも、このスクリーンアスペクトを選んでください。このモードは台形ひずみの補正ができます。（P49）

16:10のスクリーン

16：9

スクリーンの縦横比が16：9のときに選びます。
このモードは台形ひずみの補正ができます。（P49）

16:9のスクリーン

4：3

スクリーンの縦横比が4：3のときに選びます。
このモードは台形ひずみの補正ができます。（P49）

4:3のスクリーン

16：9 Dイメージシフト

スクリーンの縦横比が16：9のときに選びます。
このモードは台形ひずみの補正ができませんが、水平に投写したまま、映像を上下方向に移動できます。
映像の移動方法は78ページの「デジタルイメージシフト」を参照してください。

4：3 Dイメージシフト

スクリーンの縦横比が4：3のときに選びます。
このモードは台形ひずみの補正ができませんが、水平に投写したまま、映像を左右方向に移動できます。映像の移動方法は78ページの「デジタルイメージシフト」を参照してください。

5 【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

アスペクトを選択する

入力信号の種類、縦横比、解像度に合わせて［アスペクト］を選びます。アスペクトについて詳しくは、158ページの「アスペクトとスクリーンアスペクトの関係」を参照してください。

アスペクトの種類

■ オート

入力信号の縦横比のまま投写します。一般的な投写のときはこのモードを選んでください。

■ 16:10

入力信号の縦横比を16：10にして投写します。
縦横比16:10の映像ソフトが［オート］で正しく投写できないときに選んでください。

■ 16：9

入力信号の縦横比を16：9にして投写します。縦横比16：9の映像ソフトが［オート］で正しく投写できないときに選んでください。

■ 4：3

入力信号の縦横比を4：3にして投写します。縦横比4：3の映像ソフトが［オート］で正しく投写できないときに選んでください。

■ ズーム

スクリーンアスペクトに合わせて画面の上下または左右をカットし、中央部分を拡大して投写します。映像ソフトで上下に黒帯があるときなどに選んでください。

■ リアル

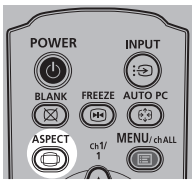
入力信号の解像度のまま投写します。本機より低い解像度のコンピューターを接続する場合、このモードを選択すると画面サイズは小さくなりますが最も鮮明な画像となります。

入力信号や解像度により選択できない場合があります。

アスペクトの選択のしかた

リモコンの【ASPECT】ボタンを押して選びます。【ASPECT】ボタンを押すたびに、アスペクトの種類が切り換わります。アスペクトについて詳しくは、158ページの「アスペクトとスクリーンアスペクトの関係」を参照してください。

リモコン



例）

メニューの［アスペクト］からも選べます。（P62）

入力信号によっては、表示されないアスペクトの種類があります。

ステップ５　台形ひずみを調整する

【KEYSTONE】ボタンで台形ひずみ（キーストーン）の補正ができます。
キーストーン補正の方法には、縦横キーストーン補正と４点補正の２種類があります。
縦横キーストーン補正では、上下、または左右方向の長さ（ひずみ）を個別に調整し、
４点補正では投写画面の４隅の位置をそれぞれ調整します。
キーストーン補正の切り換え方法は、「キーストーン」(P77) をご覧ください。

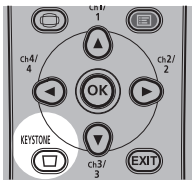
- 台形ひずみの補正は、レンズシフトの位置によっては正しく補正できない場合があります。
- 補正しきれないときは、本機の設置位置をスクリーンに対しまっすぐにしてください。
- 補正時に信号がデジタル処理されるため、元の映像と見えかたが異なることがあります。また、画面の縦横比が変わることがあります。
- スクリーンアスペクトが［4:3 D イメージシフト］か［16:9 D イメージシフト］の場合は、台形ひずみの補正はできません。（P47）

■ 縦横キーストーン補正を行う

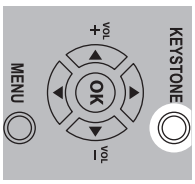
縦横キーストーンの補正中は、［設置設定］メニューの［ズーム］(P77) は使えません。

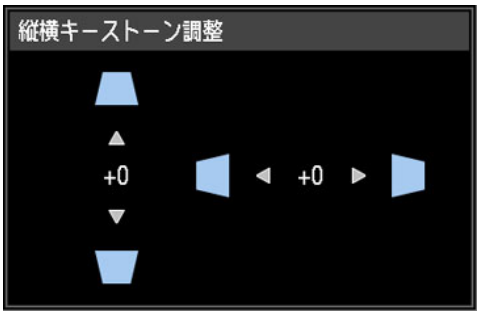
1　リモコンの【KEYSTONE】ボタンを押すか、本体の【KEYSTONE】ボタンを押すと、縦横キーストーン調整画面が表示されます。
（［キーストーン］の設定が［縦横キーストーン］のとき）

リモコン

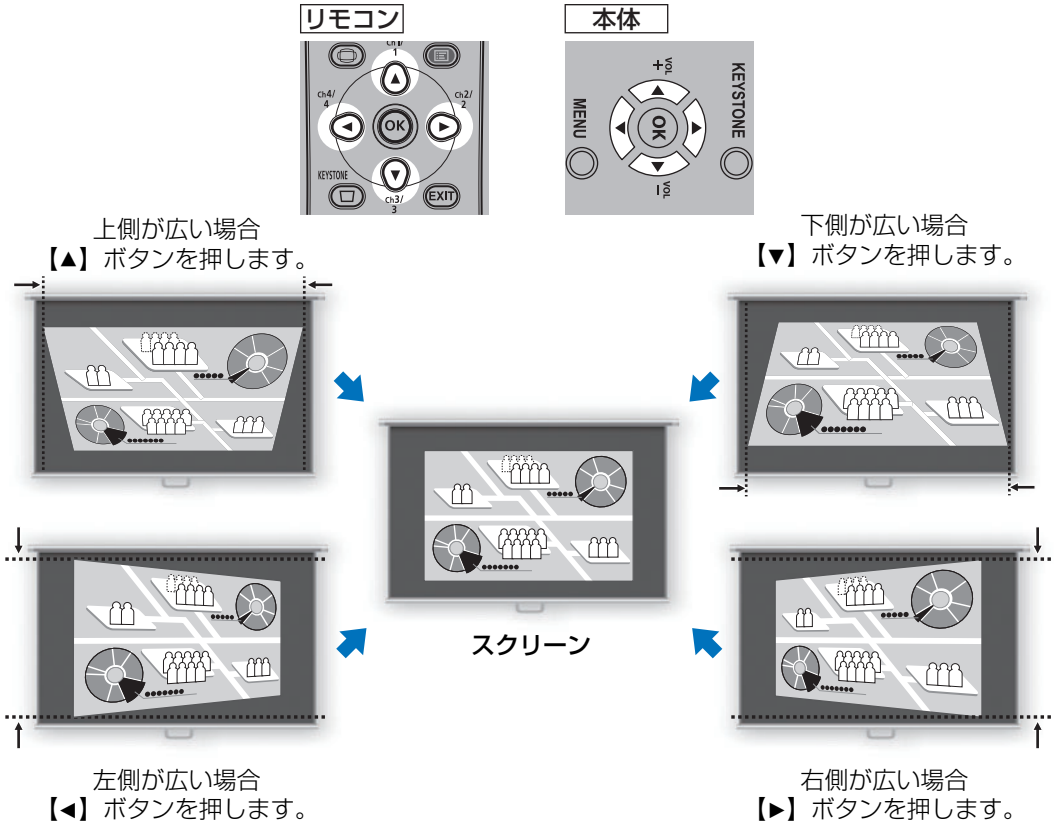


本体





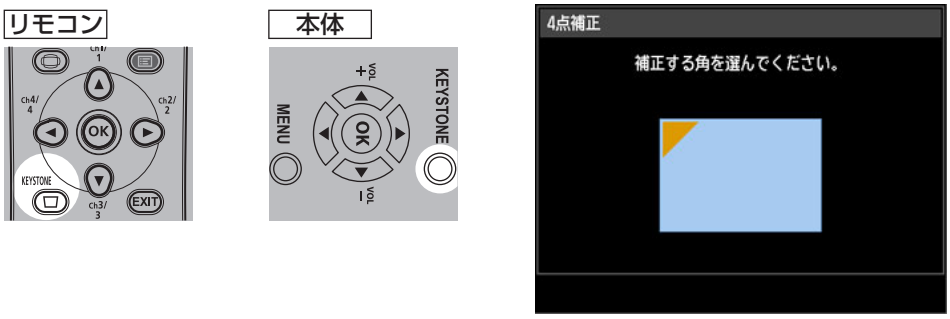
2 方向ボタンで調整します。



3 補正が終わったら、【OK】ボタンを押します。

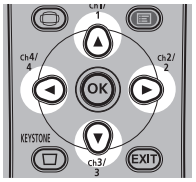
■ 4点補正を行う

1 リモコンの【KEYSTONE】ボタンを押すか、本体の【KEYSTONE】ボタンを押すと、4点補正画面が表示されます。

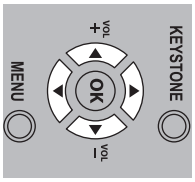


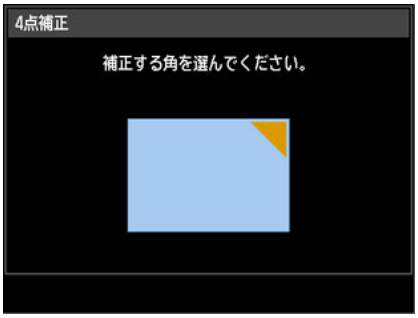
2 方向ボタンで、補正する角を選択し、【OK】ボタンを押します。

リモコン



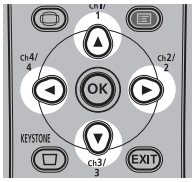
本体



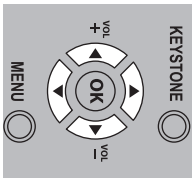


3 方向ボタンで調整します。

リモコン



本体

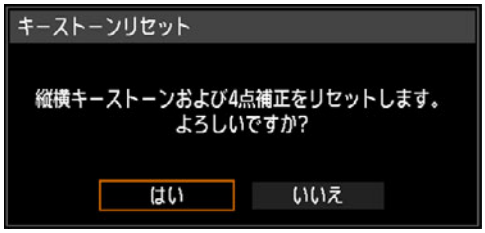


4 補正が終わったら【OK】ボタンを押します。

4 点補正をした後に［設置設定］メニューの［ズーム］(P77) で調整した場合、4 点補正の設定は解除されます。

■ 補正をリセットする

縦横キーストーン・4点補正をリセットすることができます。
まず、リモコンの【KEYSTONE】ボタンを 2 回押して［キーストーンリセット］画面を表示させます。
次に【◀】ボタンで［はい］を選び、【OK】ボタンを押します。
キーストーンで設定した台形ひずみの補正をリセットすることができます。



ステップ 6　画質（イメージモード）を選択する

投写する映像の内容に合わせてイメージモード（画質）を選べます。各イメージモードでは、明るさ、コントラスト、シャープネス、ガンマ、色調整、高度な調整とランプモードの設定ができます。（P69）

イメージモードの種類

選択されている入力信号、および［HDMI 映像入力］（P90）と［HDBaseT 映像入力］（P90）の設定（［オート］/［PC］）により、選べるイメージモードが一部変わります。

○：対応　　—：非対応

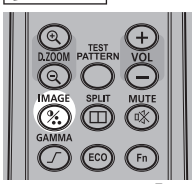
イメージモード	対応する入力信号		機能　（1）部屋の明るさ　（2）画像 / 映像　（3）特長
	・デジタル PC ・アナログ PC-1、2 ・HDMI*1 ・HDBaseT*2 ・LAN ・USB	・コンポーネント ・HDMI*3 ・HDBaseT*4	
スタンダード	○	—	（1）明るい （2）コンピューター画面や映像ソフト（動画） （3）白の色味、自然な彩色
プレゼンテーション	○	—	（1）明るい （2）文字を中心とした画像 （3）画面が明るい
ダイナミック	—	○	（1）明るい （2）映像ソフト（動画） （3）画面が明るい
フォト / sRGB	○	○	（1）やや暗い （2）sRGB 対応のデジタルカメラ画像 （3）sRGB 規格対応
ビデオ	—	○	（1）やや暗い （2）ビデオカメラ映像 （3）テレビに近い色表現
ユーザー 1 ～ 5	○	○	ユーザー自身が画質の設定の組み合わせを5種類までメモリに登録することができます（P69）。保存した設定は、イメージモードとしてここで選択できます。

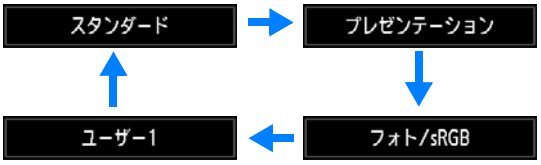
*1　［HDMI 映像入力］が［PC］　　*3　［HDMI 映像入力］が［オート］
*2　［HDBaseT 映像入力］が［PC］　　*4　［HDBaseT 映像入力］が［オート］

■ イメージモードの選びかた

リモコンの【IMAGE】ボタンを押して選びます。
【IMAGE】ボタンを押すたびに、イメージモードの種類が切り換わります 。（表示されるイメージモードの種類は、選択されている入力信号により異なります）

リモコン





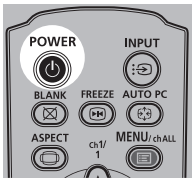
メニューの［イメージモード］からも選べます。（P69）

- ユーザー 1 ～ 5 は、イメージ調整メニューのユーザーメモリ作成でお好みの画面設定を保存したときに表示されます。（P69）

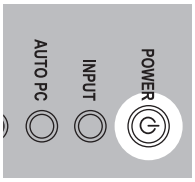
ステップ 7　本機の電源を切る

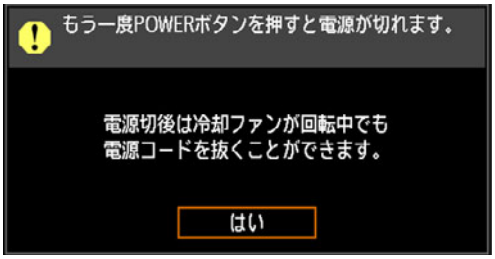
1 【POWER】ボタンを押すと、下の画面が表示されます。

リモコン



本体





2 **画面の表示中に、もう一度【POWER】ボタンを押すと電源が切れます。**
電源を切った後、本機の冷却が終了した状態を「スタンバイ状態」といいます。

電源を切らずになお投写を続ける場合は、【POWER】以外のボタンを押すか、メッセージが消えるまで待ってください。

- 電源を切った後に再度電源を入れる場合は、5 分以上経ってから電源を入れるようにしてください。すぐに電源を入れると、ランプの寿命を縮める原因となることがあります。
- 連続使用は、ランプおよび内部光学部品の寿命を縮める原因となることがあります。
- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

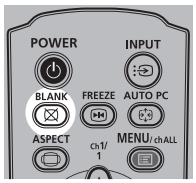
便利な機能

プレゼンテーションなどで便利に使える機能について説明します。

映像を一時的に消す

プレゼンテーションが終了したときや、プレゼンテーション時に出席者の注意をスクリーンからそらすときなど、一時的に映像を消すことができます。

リモコン



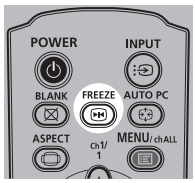
【BLANK】ボタンを押すと映像が消えます。
もう一度【BLANK】ボタンを押すと元の映像が表示されます。

- 映像を消している間の画面の状態を、メニューで設定できます。（P86）
- 映像が消えている間もランプは点灯しています。

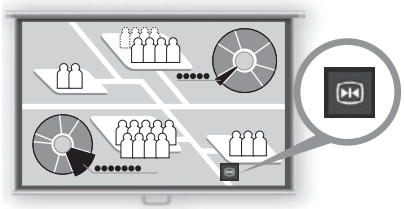
映像を静止させる

コンピューターから離れて操作するときや、変化する映像を途中で止めて見せるときなど、映像を一時的に静止することができます。

リモコン



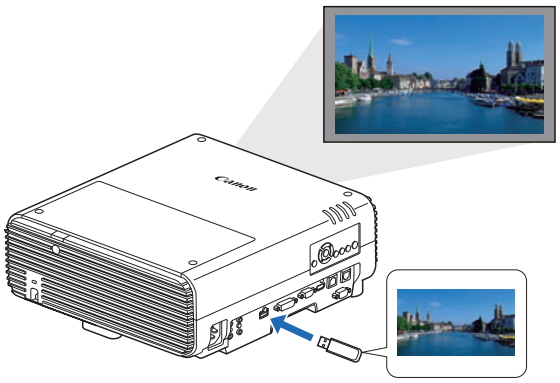
【FREEZE】ボタンを押すと映像が静止し、画面に次のアイコンが表示されます。
もう一度【FREEZE】ボタンを押すと元の映像に戻ります。



スクリーン

•入力信号がなくなると解除されます。

USB メモリ内の画像を投写する



コンピューターを使わず、USB メモリ内の画像を USB 端子に接続するだけで投写することができます。
USBメモリを本機のUSB端子に接続して投写する方法については、「USB メモリの画像を投写する」（P136）をご覧ください。

メニューからテストパターンを投写する

入力信号がなくても、テストパターンを投写することができます。設置時に投写することで、テストパターンを確認しながら設定することができます。
テストパターンの表示ついては、「テストパターン」（P84）または、「表示できるテストパターンについて」（P161）をご覧ください。

エコ設定を行う

省電力に関する機能を設定します。
設定できるのは、以下の４項目です。詳細は、各機能の解説ページを参照してください。

- **ランプモード（P74）**
  イメージモードでのランプとファンの消費電力を切り換えます。

- **パワーマネージメントモード（P90）**
  一定時間入力信号と操作がない状態（無信号 / 無操作状態）が続くと、自動的にランプや電源がオフになる機能です。

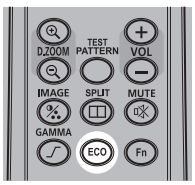
- **パワーマネージメント時間（P91）**
  ［パワーマネージメントモード］の設定を［ランプオフ］、または［スタンバイ］に設定した際、入力信号と操作がない状態（無信号 / 無操作状態）が続くと、自動的にランプや電源がオフになる時間を設定します。

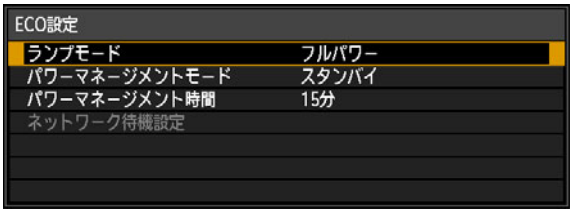
- **ネットワーク待機設定（P105）**
  スタンバイ時の消費電力の設定です。

エコ機能を設定する

1 **リモコンの【ECO】ボタンを押すと、下の画面が表示されます。**

リモコン





2 **【▲】【▼】ボタンでメニューを選択します。**

3 **選択した機能の設定を行います。**

応用編

安全にお使いいただくために

はじめに

基本編

設置のしかた

接続のしかた

投写のしかた

便利な機能

応用編

メニューの使いかた

メニューの説明

高度な投写

その他

メンテナンス

製品の仕様

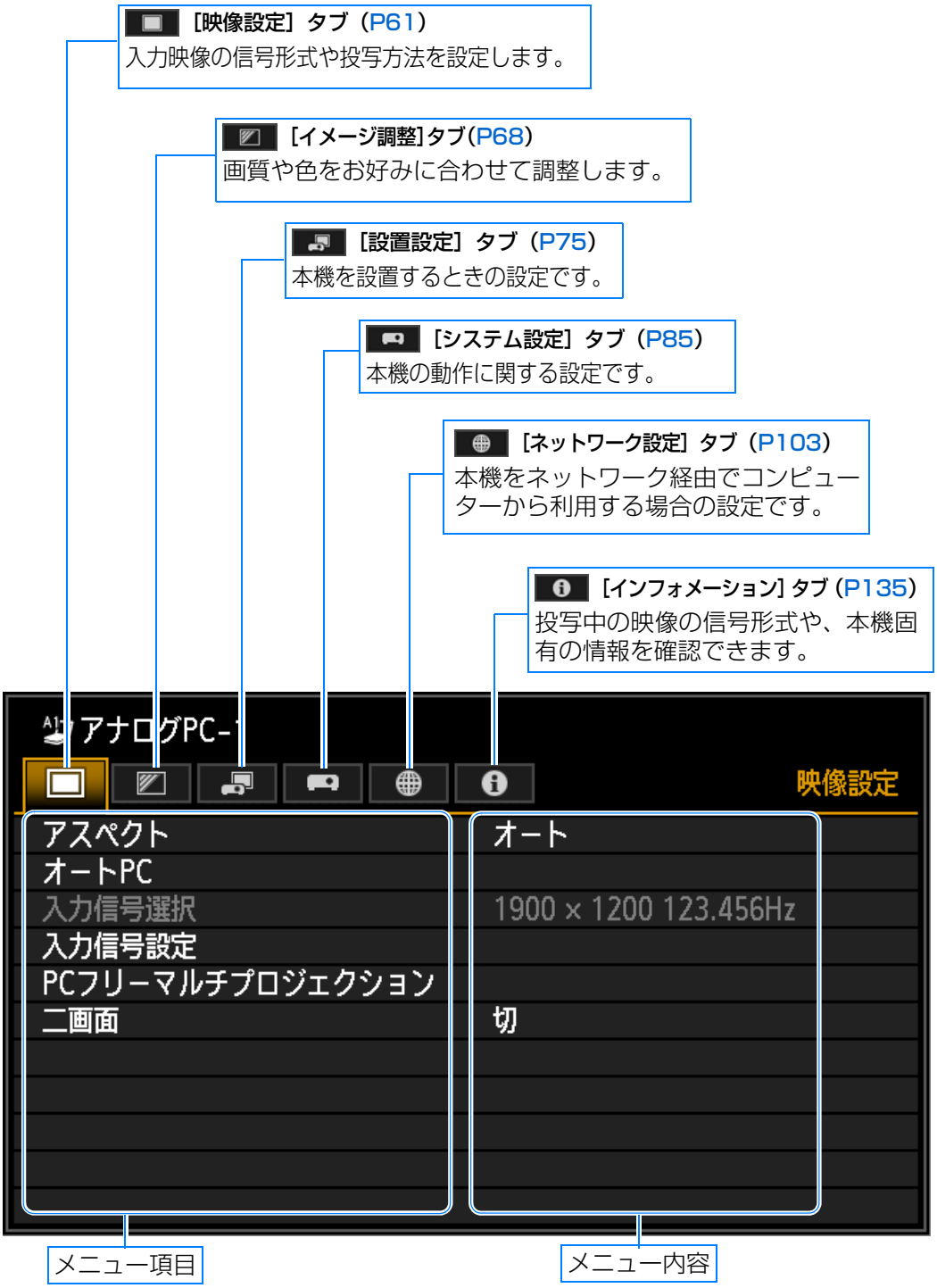
困ったときには

メニューの使いかた

メニュー（MENU）で本機の動作をきめ細かく設定できます。

メニューの構成

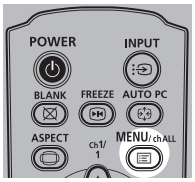
メニュー画面は、次の６つのタブに分かれています。



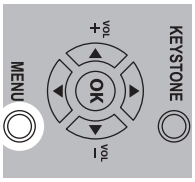
メニューの基本操作

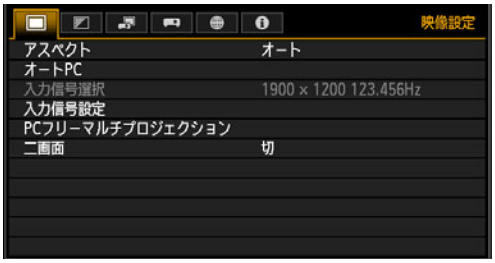
1 【MENU】ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

リモコン



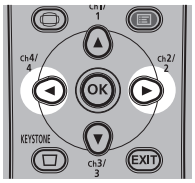
本体



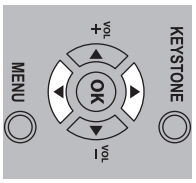


2 【◀】【▶】ボタンでタブを選びます。

リモコン



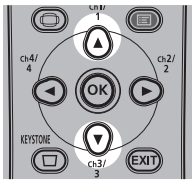
本体



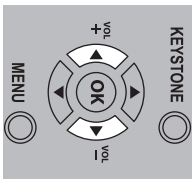
- オレンジの表示がタブ位置にない場合は、【▲】【▼】ボタンで一番上に移動させます。

3 【▲】【▼】ボタンで項目を選びます。

リモコン



本体



4 内容を選びます。

項目により内容の選び方が異なります。

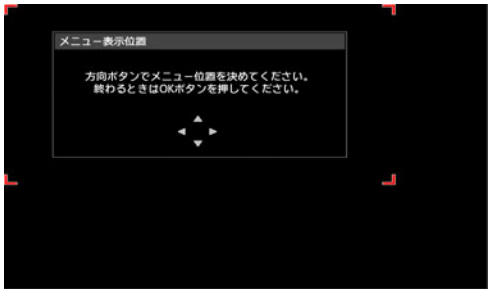
リストから選ぶ　例：アスペクト（P62）

1. アスペクトを選びます。
2. 【OK】ボタンまたは【▶】ボタンを押すと内容のリストが表示されます。
3. 【▲】【▼】ボタンで内容を選びます。
4. 決まったら【OK】または【▶】ボタンを押します。

【◂】【▸】ボタンで調整する　例：コントラスト（P70）

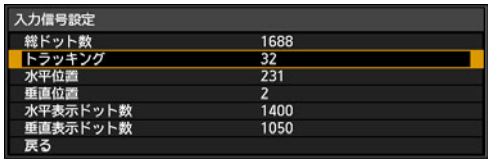
1. コントラストを選びます。
2. 【◂】【▸】ボタンで調整量を変えます。

別画面を表示させて選ぶ（1）例：メニュー表示位置（P83）



1. メニュー表示位置を選びます。
2. 【OK】ボタンを押すと別画面が表示されます。
3. 画面のメッセージに従って操作します。

別画面を表示させて選ぶ（2）例：トラッキング（P63）

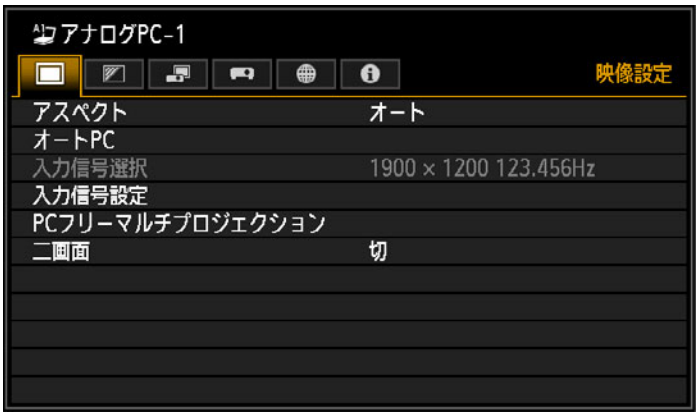


1. 入力信号設定を選びます。
2. 【OK】ボタンを押すと別画面が表示されます。
3. トラッキングを選びます。
4. 【▲】【▼】ボタンで内容を選び、【◂】【▸】ボタンで数値を選びます。

5 **【MENU】ボタンを押すとメニュー画面が消えます。**
【EXIT】ボタンを押しても、メニュー画面が消えます。

映像設定

映像の縦横比や解像度、またUSBメモリを接続して投写するなどの設定について説明します。



（入力信号がアナログPC-1の場合）

メニュー	機能	詳細
アスペクト	映像の縦横比に合わせてアスペクトを設定します。	P62
オートPC	表示位置のずれや画面のちらつきを自動的に調整します。	P62
入力信号選択	コンピューターの映像の解像度を手動で合わせます。	P62
入力信号設定	入力信号の各設定を行います。	P63
PCフリーマルチプロジェクション	USBメモリ内の画像をネットワークに接続した複数台のプロジェクターで投写するときの設定をします。	P64
二画面	2系統の映像を並べて投写します。	P65
入力レベル	HDMI信号、またはHDBaseT信号の入力レベルを選びます。	P66
カラーフォーマット	HDMI信号、またはHDBaseT信号のカラーフォーマットを選びます。	P66
オーバースキャン	HDMI信号、またはHDBaseT信号の映像周辺部の乱れを除去して投写します。	P66
プログレッシブ	フイルム映像の静止画やビデオ映像の動画に合わせて最適な映像処理を設定します。	P67
スライドショー間隔	USBメモリ内の画像をスライドショーで投写するときの画像の切り替え間隔を設定します。	P67
アニメーション効果	USBメモリ内の画像をスライドショーで投写するときのアニメーション効果を設定します。	P67

選択できないメニューはグレーアウト、または非表示になります。

アスペクト

MENU >[映像設定]>**[アスペクト]**

映像の入力信号に対し、どのような縦横比で投写するかの設定をします。

サブメニュー	機能
オート	入力信号の縦横比のまま投写します。
16：10	入力信号の縦横比を 16：10 にして投写します。
16：9	入力信号の縦横比を 16：9 にして投写します。
4：3	入力信号の縦横比を 4：3 にして投写します。
ズーム	スクリーンアスペクトに合わせて画面の上下または左右をカットし、中央部分を拡大縮小して投写します。
リアル	入力信号の解像度のまま投写します。

選択できないメニューは非表示になります。

- LAN、USB の場合は、自動的に［オート］が選択されます。
- スクリーンアスペクトや入力信号の種類により、表示される内容が異なります。
- リモコンの【ASPECT】ボタンでも切り換えができます。

オート PC

MENU >[映像設定]>**[オート PC]**

表示位置のずれや画面のちらつきを自動的に調整します。

オート PC での調整が不十分なときは、次の操作を行ってください。
- ［入力信号選択］からコンピューターの解像度に合わせて入力信号を選んでください。
- 上記の操作でも調整が不十分なときは、［入力信号設定］から、［総ドット数］、［トラッキング］、［水平 / 垂直位置］、［水平 / 垂直表示ドット数］を調整してください。（P63）
- 本機が対応している信号形式については、162 ～ 163 ページの表を参照してください。

入力信号選択

MENU >[映像設定]>**[入力信号選択]**

コンピューターの映像がオート PC 機能（P44）で正しく投写されないときに、解像度を選びます。

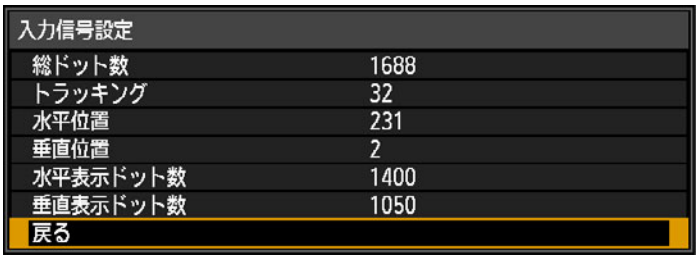
コンピューターの解像度に合わせて入力信号を選んでください。【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

本機が対応している信号形式については、162 ～ 163 ページの表を参照してください。

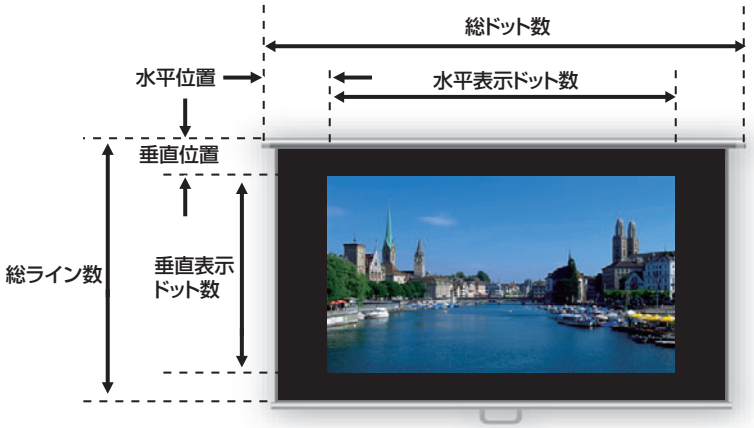
入力信号設定

MENU >[映像設定]>**[入力信号設定]**

入力信号の各設定を行います。【◀】【▶】ボタンで調整量を変えます。



サブメニュー	機能
総ドット数	水平期間の総ドット数を調整します。画面に縞模様が現れるときなどに調整します。
トラッキング	映像信号から画面を構成するタイミングを微調整します。画面がくずれたり、ちらつくときに調整します。
水平位置	画面の水平位置を調整して左右のずれを調整します。
垂直位置	画面の垂直位置を調整して上下のずれを調整します。
水平表示ドット数	画面の水平方向のドット数を調整します。
垂直表示ドット数	画面の垂直方向のドット数を調整します。



オート PC（P62）や入力信号選択（P62）を行っても映像が正しく表示されない場合に調整します。

PC フリーマルチプロジェクション

MENU >[映像設定]>[PC フリーマルチプロジェクション]

USB メモリ内の画像をネットワークに接続された複数台のプロジェクターで投写するときの設定をします。操作の手順については「PC フリーマルチプロジェクション機能を使って投写する」（P140）をご覧ください。

モード設定

Master[*1] または Slave[*2] どちらのモードで PC マルチプロジェクションを行うか設定します。

[*1] USB メモリを接続し、投写する映像を Slave プロジェクターに配信します。
[*2] Master プロジェクターから送られる映像を投写します。

選択	機能
切	PC フリーマルチプロジェクションを実行しません。
Master	Master モードに設定します。
Slave	Slave モードに設定します。

モードの設置をするには、有線でネットワークに接続し、ネットワーク機能（有線 / 無線）を［入 / 切］または［入 / 入（Pj AP)］（P105）にしてください。

配置パターン設定

プロジェクターの台数と配置パターン（P141）を設定します。

選択	機能
台数	プロジェクターの台数（Master および Slave の総数）を設定します。2 台から 9 台まで設定できます。
配置パターン	配置パターンを選択します。各配置パターンの最も左上に Master の投写画面が配置されます。

転送先プロジェクター設定

Slave モードに設定したプロジェクターの IP アドレスを設定します。

選択	機能
IP アドレス	転送先のプロジェクターの IP アドレスを入力します。［1］は Master モードのプロジェクターです。「ネットワーク設定」で設定されている有線 LAN の IP アドレスが表示されます。
確認	IP アドレス欄で設定した Slave モードのプロジェクターに対応する番号（[2 ～ 9]）を、各 Slave モードのプロジェクターで投写します。
確定	転送先のプロジェクターの IP アドレスを確定します。

スライドショー間隔

スライドショーで投写するときの画像の切り換え間隔（分：秒）を最小 5 秒～最大 10 分で設定します。
モード設定が［Master］のときに設定できます。

PC フリーマルチプロジェクション機能で投写中に電源を切り、再度電源を入れた時は、最後に投写していたフォルダ内の先頭の画像から自動でスライドショーを開始します。

アニメーション効果

スライドショーで投写するときのアニメーション効果を設定します。
モード設定が［Master］のときに設定できます。

選択	機能
切	アニメーション効果を使用しません。
クロスフェード	フェードアウトしながら、次の画面をフェードインします。
フェードアウト/イン	フェードアウトし、黒画面を経由して、次の画面をフェードインします。

二画面

MENU >**[映像設定]**>**[二画面]**

プロジェクターに接続した複数の入力信号から 2 系統の映像を並べて投写することができます。

選択	機能
切	2 画面表示を終了します。
入	2 画面表示にします。
設定	**サブメニュー** / **機能** 二画面：2 画面表示を切り替えます。 操作権：操作する画面を選びます。左画面を選んだときは［1］、右画面を選んだときは［2］が表示されます。 左右入れ替え：左画面と右画面の映像を入れ替えます。 レイアウト：モード 3-7 左画面と右画面を横幅比率 30：70 で表示します。 レイアウト：モード 5-5 左画面と右画面を横幅比率 50：50 で表示します。 レイアウト：モード 7-3 左画面と右画面を横幅比率 70：30 で表示します。

LAN 入力と USB 入力または、HDBaseT 入力と HDMI 入力を組み合わせて 2 画面表示にすることはできません。

- 画面中央に△（▶）または△（◀）が出ているときにリモコンの【◀】【▶】ボタンで操作権を移動します。
- 2 画面切り替え時は、インプット画面内に左右二つの信号名と、入力状態を表示します。

二画面表示について詳しくは、「2 画面を並べて表示する」(P143) をご覧ください。

入力レベル

MENU >[映像設定]>[入力レベル]

映像ソフトをデジタルビデオ信号（HDMI信号、またはHDBaseT信号）で投写するときに入力レベルを調整します。

選択	機能
オート	入力信号に応じて入力レベルを自動的に切り替えます。
標準	入力レベルを 16 ～ 235 の制限付きで入力します。
拡張	入力レベルを 0 ～ 255 でフル入力します。

- AV 機器からの信号形式が RGB のときのみ選べます。
- [オート]では信号レベルを自動的に選びます。(AV 機器や HDBaseT の伝送機器によっては対応していないことがあります)
- AV 機器の HDMI 出力が［標準］、［拡張］に切り換えられるときは、［拡張］に設定することをおすすめします。映像のコントラストが向上し、暗部がより忠実に表現されます。なおこの場合の［ 入力レベル］は［オート］または［拡張］を選んでください。
  詳しくは、接続する AV 機器の取扱説明書を参照してください。

カラーフォーマット

MENU >[映像設定]>[カラーフォーマット]

HDMI信号、またはHDBaseT信号のカラーフォーマットを選びます。

選択	機能
オート	入力信号に応じて最適なカラーフォーマットを選びます。
RGB	強制的に RGB 信号として扱います。
YCbCr	強制的に色差信号として扱います。

オーバースキャン

MENU >[映像設定]>[オーバースキャン]

HDMI 信号、またはHDBaseT信号の映像ソフトで、映像周辺が乱れている場合、映像の周辺をカットして投写するときに選びます。

選択	機能
切	入力信号全体（100%）を投写します。 映像がスクリーンより小さめに投写されるときがあります。
入	映像周辺部の乱れを除去して投写します。(映像の中央 95% 部分を投写)

入力信号の解像度によっては映像周辺が一部切り取られることがあります。この場合は［切］にしてください。

プログレッシブ

MENU >[映像設定]>[プログレッシブ]

フイルム映像の静止画やビデオ映像の動画に合わせて最適な映像処理を設定できます。

選択	機能
切	プログレッシブ処理を行いません。
フィルム / オート	静止画や一般的な動画に適しています。フィルム映像やビデオ映像に対しプログレッシブ処理を行います。
ビデオ 1	高画質で動きの遅いビデオ映像に適しています。高精細なビデオ映像に最適なプログレッシブ処理を行います。
ビデオ 2	動きの速いビデオ映像に適しています。動きの速いビデオ映像に対し最適なプログレッシブ処理を行います。
25p/30p (PsF)	1080PsF / 25（25 フレーム / 秒）および 1080PsF / 30（30 フレーム / 秒）の映像に対しプログレッシブ処理を行います。

- 動きの多い映像で、ちらつきや横線が目立つときは［切］にしてください。
- 2 画面時は、プログレッシブ設定はできません。

スライドショー間隔

MENU >[映像設定]>[スライドショー間隔]

USB メモリの画像を自動的に順次表示させることができます。

【◀】【▶】ボタンで画像の切り換え間隔（分：秒）を最小 1 秒～最大 60 分で設定します。

- スライドショーを開始した後、入力信号を［USB］以外に変更した場合は、スライドショーを停止します。再度、［USB］に入力信号を戻した場合は、停止した画像からスライドショーを再開します。
- スライドショー中の D.ZOOM 機能は、表示している画像にのみ有効です。

アニメーション効果

MENU >[映像設定]>[アニメーション効果]

USB メモリ内の画像をスライドショーで投写するときのアニメーション効果を設定します。

選択	機能
切	アニメーション効果を使用しません。
クロスフェード	フェードアウトしながら、次の画面をフェードインします。
フェードアウト / イン	フェードアウトし、黒画面を経由して、次の画面をフェードインします。

イメージ調整

映像の明るさやコントラスト、シャープネスなどの画質の設定について説明します。

（入力信号がアナログPC-1の場合）

メニュー	機能	詳細
イメージモード *	投写する映像に適した画質を選びます。	P69
ユーザーメモリ作成	任意に設定した画質の設定を保存します。	P69
基準イメージモード	ユーザーメモリで使用した元のイメージモードが表示されます。	P69
明るさ *	映像の明るさを調整します。	P70
コントラスト *	映像のコントラストを調整します。	P70
シャープネス *	映像の鮮明度を調整します。	P70
ガンマ *	映像が暗い、または明るくて見えにくい部分を補正します。	P70
色調整 *	映像のより詳細な調整をします。	P70
高度な調整 *	ノイズや色味などについて詳細な設定を行います。	P71
ランプモード *	ランプの光量を選びます。	P74
リセット	現在のイメージ調整の設定を購入時の状態に戻します。	P74
イメージ優先 *	2画面表示のときに、どちらの画面の画像処理条件を適用させるかを選びます。	P74

選択できないメニューはグレーアウト、または非表示になります。

* 投写中の入力信号とイメージモードの設定として記憶されます。

イメージモード

MENU >[イメージ調整]>[イメージモード]

投写する映像に合わせ、画質を選びます。リモコンの【IMAGE】ボタンを押しても選択できます。

選択	機能		
	部屋の明るさ	画像 / 映像	特長
スタンダード	明るい	コンピューター画面や映像ソフト（動画）	白の色味、自然な彩色
プレゼンテーション	明るい	文字を中心とした画像	画面が明るい
ダイナミック	明るい	映像ソフト（動画）	画面が明るい
ビデオ	やや暗い	ビデオカメラ映像	テレビに近い色表現
フォト / sRGB	やや暗い	sRGB 対応のデジタルカメラ画像	sRGB 規格対応
ユーザー 1 ～ 5	ユーザー自身が画質の設定の組み合わせを 5 種類までメモリ（ユーザーメモリ）に保存することができます。保存した設定は、イメージモードとしてここで選択できます。		

選択できないメニューはグレーアウト、または非表示になります。

各イメージモードの画質は、次の各項目が調整できます。
[明るさ]、[コントラスト]、[シャープネス]、[ガンマ]、[色調整]、[高度な調整] の各項目、[ランプモード]

ユーザーメモリ作成

MENU >[イメージ調整]>[ユーザーメモリ作成]

任意に設定した画質の設定を５種類まで保存できます。

- 保存される設定値は、明るさ、コントラスト、シャープネス、ガンマ、色調整、高度な調整、ランプモードです。
- 表示されるユーザーメモリの数は 5 個ですが、接続機器がコンピューター（アナログ PC、デジタル PC、HDMI（[HDMI 映像入力]（P90）が [PC] のとき）、HDBaseT（[HDBaseT 映像入力]（P90）が [PC] のとき））の場合と AV 機器（コンポーネント、HDMI（[HDMI 映像入力]（P90）が［オート］のとき）、HDBaseT（[HDBaseT 映像入力]（P90）が［オート］のとき））の場合とで別々に設定値を保存します。そのため、10 種類の設定値を保存できます。
- ユーザーメモリには、設定変更の元になったイメージモード名も一緒に保存されます。イメージモードでユーザーメモリが選択された場合は、元になったイメージモードが「基準イメージモード」としてメニューに表示されます。

明るさ

MENU >[イメージ調整]>**[明るさ]**

映像の明るさを調整します。

コントラスト

MENU >[イメージ調整]>**[コントラスト]**

明るい部分と暗い部分の差を調整し、メリハリのある映像やソフトな映像に調整します。

シャープネス

MENU >[イメージ調整]>**[シャープネス]**

映像の鮮明度を調整します。

ガンマ

MENU >[イメージ調整]>**[ガンマ]**

映像が暗くて見えにくい、または明るくて見えにくい部分を補正します。リモコンの【GAMMA】ボタンを押しても選択できます。

ガンマ詳細調整（P73）により、より詳細な調整を行うことができます。

色調整

MENU >[イメージ調整]>**[色調整]**

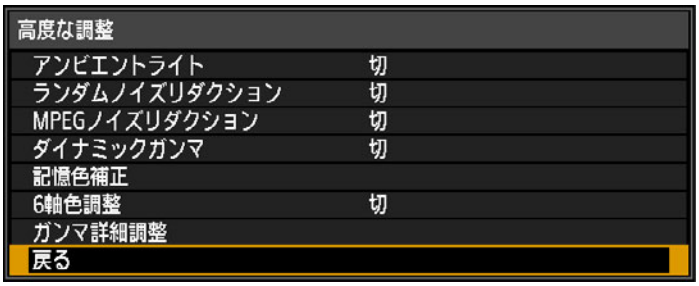
映像の色の濃さ、色合い、色温度などを調整します。

サブメニュー	機能
色の濃さ	色の濃さを調整します。
色合い	紫がかった映像、緑がかった映像の色合いを調整します。
色温度	白の色味を調整します。
赤 / 緑 / 青ゲイン	赤、緑、青の色味のゲインを調整します。
赤 / 緑 / 青オフセット	赤、緑、青のオフセットを調整します。

高度な調整

MENU >[イメージ調整]>**[高度な調整]**

ノイズや色味などについて詳細な設定を行います。



アンビエントライト

スクリーン上に届く環境光による影響を低減させ投写します。

選択	機能		
切	調整せずに投写します。		
調整	**種類**	**電球**	環境光が電球、または電球色蛍光灯の場合。
		蛍光灯	環境光が昼白色蛍光灯の場合。
	レベル	**弱**	環境光が通常の場合。
		強	環境光が明るい場合。

アンビエントライトのレベルの設定例

レベル	場所の目安
弱	映写室、スポーツバーなど
強	会議室、教室

［アンビエントライト］は、イメージモードがフォト /sRGB のときに選ぶことができます。

ランダムノイズリダクション

映像のランダムノイズ * を低減します。

* 周波数や振幅が不規則なノイズです。

選択	機能
切	ランダムノイズリダクションを行いません。
弱 中 強	ランダムノイズリダクションの強度を 3 段階で指定します。

- 動きの速い映像の場合は［弱］を、動きの遅い映像の場合は［強］を選んでください。
- LAN/USB 入力時は、この項目は表示されません。

MPEG ノイズリダクション

映像の MPEG ノイズを低減します。

選択	機能
切	MPEG ノイズリダクションを行いません。
弱 中 強	MPEG ノイズリダクションの強度を 3 段階で指定します。

LAN/USB 入力時は、この項目は表示されません。

モスキートノイズリダクション

映像のモスキートノイズ * を低減します。

* JPEG 形式の画像や MPEG 形式の動画で、輪郭部分や色の変化の激しい部分で起こるノイズです。

選択	機能
切	モスキートノイズリダクションを行いません。
弱 中 強	モスキートノイズリダクションの強度を 3 段階で指定します。

入力信号が、HDMI、デジタル PC、アナログ PC-1、アナログ PC-2、コンポーネントのときは、この項目は表示されまん。

ダイナミックガンマ

明るいところと暗いところの階調表現が自動的に改善されます。

選択	機能
切	ダイナミックガンマを行いません。
弱 中 強	ダイナミックガンマの強度を 3 段階で指定します。

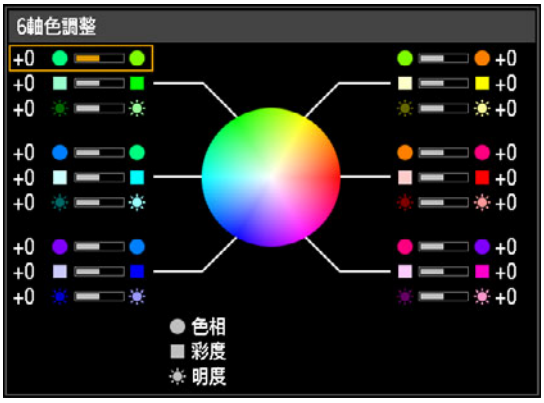
記憶色補正

肌色、空色、緑色を、人の記憶のイメージに合わせて美しく表現します。

選択	機能
肌色	選択：機能 切：補正は行いません。 弱 中 強：補正の強度を指定します。
空色	
緑色	

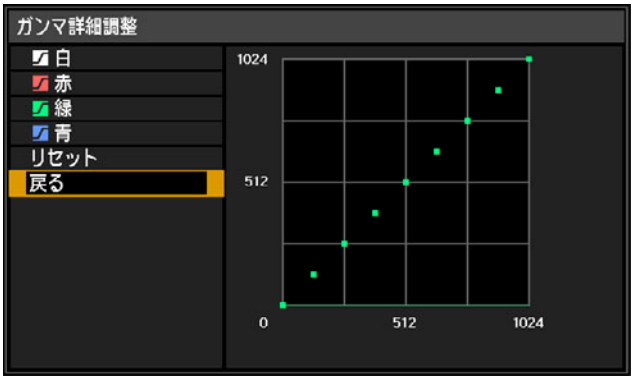
6 軸色調整

映像の色味を RGB（赤、緑、青）および CMY（シアン、マゼンタ、イエロー）できめ細かく調整します。

選択	機能
切	6 軸色調整を行いません。
調整	 【▲】【▼】ボタンで［○色相（色合い）］、［□彩度（色の濃さ）］、［☼明度（色の明るさ）］を選び、【◀】【▶】ボタンで調整します。 • 色調整が終わったら、【OK】ボタンを押します。 表示しているメニュー画面には、調整は適用されません。
リセット	調整を 0 に戻します。

ガンマ詳細調整

白、赤、緑、青の 4 つのガンマ曲線を調整します。赤、緑、青は個別に調整できます。白を調整すると、他の 3 色に調整量が反映されます。どちらで調整を行っても、最後の調整値が上書きされます。



- ガンマ補正については、70 ページを参照してください。
- 入力信号、または内蔵テストパターンを使って調整してください。
- 表示しているメニュー画面には、調整は適用されません。
- 【▲】【▼】ボタンで色を選び、【OK】ボタンを押します。
  次に【◀】【▶】ボタンでガンマ曲線上の点を選び、【▲】【▼】ボタンで点の位置を調整します。調整が終わったら【OK】ボタンを押して確定します。

- ［アンビエントライト］以外の項目は、投写中の入力信号とイメージモードの設定値として記憶されます。
- ノイズリダクションを行うと、解像感の低下を生じることがあります。

ランプモード

MENU >**[イメージ調整]**>**[ランプモード]**

ランプの光量を落とすことで消費電力を抑え、冷却ファンの音を静かにします。リモコンの【ECO】ボタンを押しても表示することができます。

選択	機能
フルパワー	最大の明るさで投写します。
エコ	ランプの光量を落とし、消費電力量を減らします。

リセット

MENU >**[イメージ調整]**>**[リセット]**

現在使用しているイメージ調整の設定を、工場出荷時の状態に戻します。

選択	機能
はい	イメージ調整の設定をリセットします。
いいえ	リセットを中止します。

- ［イメージモード］でユーザー1 ～ 5 を選択しているときにリセットすると、［ユーザー1 ～ 5］に保存されている状態に戻ります。
- 投写中の入力信号とイメージモードの組み合わせの設定内容のみリセットされます。

イメージ優先

MENU >**[イメージ調整]**>**[イメージ優先]**

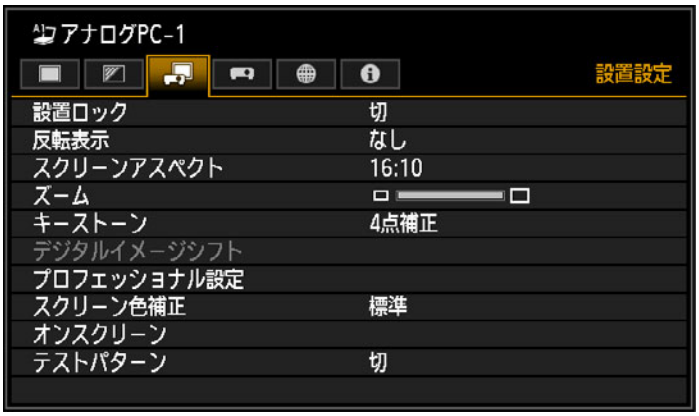
2画面表示のときに、どちらの画面にイメージ調整の設定を適用するかを選びます。

選択	機能
プライマリ	操作権のある画面を［プライマリ］にします。2 画面それぞれの画面に対し個別にイメージ調整メニューが設定できない項目は、［プライマリ］の設定が［セカンダリ］にも反映されます。
セカンダリ	操作権のある画面が［プライマリ］の場合は、選択できません。左画面と右画面でイメージ優先を逆にする場合は操作権をもう一方の画面に移し、［セカンダリ］⇒［プライマリ］に変更します。

- **個別に設定できる項目**
  明るさ（P70）、コントラスト（P70）、ガンマ（P70）、色調整（P70）、ガンマ詳細調整（P73）
- **［プライマリ］の設定が［セカンダリ］にも反映される項目**
  イメージモード（P69）、ガンマ詳細調整以外の高度な調整（P71 ～ P73）、ランプモード（P74）

設置設定

スクリーンや投写する映像の補正、プロジェクターの設置方向など設置に関する設定をします。



（入力信号がアナログPC-1の場合）

メニュー	機能	詳細
設置ロック	設置に関連する機能の操作を禁止することができます。	P76
反転表示	天吊り投写やリア投写の設定をします。	P76
スクリーンアスペクト	投写するスクリーンの縦横比に応じて選びます。(P46)	P76
ズーム	電子的に映像を縮小して投写します。	P77
キーストーン	キーストーン補正の調整方法を設定します。	P77
デジタルイメージシフト	表示している映像の位置を移動します。	P78
プロフェッショナル設定	投写している映像の位置や高地で使用するなどの設定をします。	P78
スクリーン色補正	スクリーンの色に合わせて映像の色味を調整します。	P82
オンスクリーン	メニューやガイド、警告や注意を示すアイコンの表示位置などの設定をします。	P82
テストパターン	本機設置時に解像度や色の確認をするため、テストパターンを投写します。	P84

設置ロック

MENU >[設置設定]>【設置ロック】

設置に関連する機能の操作を禁止することができます。

- 反転表示　• スクリーンアスペクト　• ズーム　• キーストーン
- デジタルイメージシフト　• プロフェッショナル設定

選択	機能
切	設置ロックを使用しません。
入	設置関連の機能の設定変更ができなくなります。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

反転表示

MENU >[設置設定]>【反転表示】

プロジェクターの設置向きを設定します。

選択	機能
なし	床置きや台に載せて投写するときに選びます。
天吊り	天井から逆さに吊り下げるときに選びます。 上下左右が反転します。
リア	スクリーンの裏から投写するときに選びます。 左右が反転します。
リア・天吊り	天井から逆さに吊り下げてリア投写するときに選びます。 上下が反転します。

- 天井から吊り下げるときは、オプションの天吊り金具を使用します。詳しくは、販売店にお問い合わせください。
- 反転表示を行うと台形ひずみの補正はリセットされるため、改めて補正してください。

スクリーンアスペクト

MENU >[設置設定]>【スクリーンアスペクト】

投写するスクリーンの縦横比に応じて選びます。

選択	機能
16：10	スクリーンの縦横比が 16:10 のときに選びます。
16：9	スクリーンの縦横比が 16：9 のときに選びます。
4：3	スクリーンの縦横比が 4：3 のときに選びます。
16：9 D イメージシフト	スクリーンの縦横比が 16：9 のときに選びます。 このモードはキーストーン補正ができませんが、映像を上下方向に移動させることができます。(P47)
4：3 D イメージシフト	スクリーンの縦横比が 4：3 のときに選びます。 このモードはキーストーン補正ができませんが、映像を左右方向に移動させることができます。(P47)

- スクリーンアスペクトを変更すると、キーストーン補正とデジタルイメージシフトはリセットされます。
- スクリーンアスペクトの種類によっては、アスペクトが自動的に［オート］に切り換わることがあります。

ズーム

MENU >**[設置設定]>[ズーム]**

投写画面がスクリーンに入りきらないときに、映像を電子的に小さくして表示します。床置きの場合は上端を基準に縮小され、天吊りの場合は下端を基準に縮小されます。
リモコンの【◀】ボタンを押すと映像が縮小して投写され、【▶】ボタンを押すと拡大して投写します。100%～75%の間で設定できます。

- リモコンの【D.ZOOM】ボタンでは［ズーム］は使用できません。
- 以下の操作をしているときは、［ズーム］が使えません。
  - ［キーストーン］の設定が［縦横キーストーン］のとき
  - 2 画面表示時（P143）
- キーストーンの 4 点補正 (P50) 後に［ズーム］を使うと 4 点補正値が解除され、［ズーム］の設定値になります。［ズーム］で設定した後に、4 点補正で微調整してください。
- ［ズーム］で投写画面がスクリーンに入りきらないときは、キーストーンの 4 点補正 (P50) を行うと画角の微調整ができます。

キーストーン

MENU >**[設置設定]>[キーストーン]**

キーストーン補正として縦横キーストーンと 4 点補正のどちらを使用するかを設定します。キーストーン補正のリセットも行えます。【KEYSTONE】ボタンを押すと実行できます。

サブメニュー	機能
縦横キーストーン	縦横キーストーン補正を実行します。上下、左右方向の長さを変更します。
4 点補正	4 点補正を実行します。それぞれの角ごとに位置を調整します。
リセット	設定したキーストーンの値をリセットします。

スクリーンアスペクトが 16:9 D イメージシフト、4:3 D イメージシフトの場合、【KEYSTONE】ボタンを押すとデジタルイメージシフト調整を実行できます。

デジタルイメージシフト

MENU >**[設置設定]**>**[デジタルイメージシフト]**

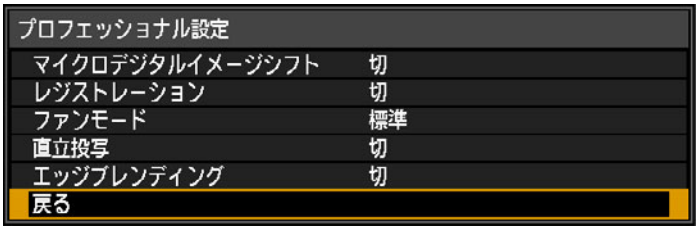
表示している映像の位置を移動します。
16:9 D イメージシフト時は【▲】【▼】ボタンで垂直方向、4:3 D イメージシフト時は【◀】【▶】ボタンで水平方向の補正をします。

スクリーンアスペクトが 16:9、16:10、4:3 のときは選べません。

プロフェッショナル設定

MENU >**[設置設定]**>**[プロフェッショナル設定]**

プロジェクターを設置するときの詳細な設定をします。



マイクロデジタルイメージシフト

表示画面位置の微調整を行います。

サブメニュー	機能	
切	マイクロデジタルイメージシフトを行いません。	
調整	**調整**	【▲】【▼】ボタンで垂直方向の、【◀】【▶】ボタンで水平方向のシフトを行います。
	チャート	調整を補助するチャートを表示します。チャートを表示しながら微調整します。
	戻る	チャートを消します。

レジストレーション

色ずれを調整します。赤、緑、青の色ずれを別々に調整できます。

サブメニュー	機能	
切	レジストレーションを行いません。	
調整	**赤 / 緑 / 青**	【▲】【▼】ボタンで垂直方向の、【◀】【▶】ボタンで水平方向のシフトを行います。
	チャート	調整を補助するチャートを表示します。チャートを表示しながら微調整します。
	戻る	チャートを消します。

ファンモード

冷却用のファンの動作を、低地の場合と、海抜 2,300m を超える高地の場合とで切り換えます。

選択	機能
標準	海抜 2,300m 未満で使用する場合の設定です。

高地	海抜 2,300m 以上で使用する場合の設定です。

設定をまちがえると、ランプの寿命や他の部品の寿命が縮まる可能性があります。

直立投写

冷却用のファンの動作を、上向きで使用する場合と、下向きで使用する場合とで切り換え、適切に冷却できるようにします。

選択	機能
切	ファンの動作を変更しません。
上向き	本機を上向きにして使用する場合の設定です。
下向き	本機を下向きにして使用する場合の設定です。

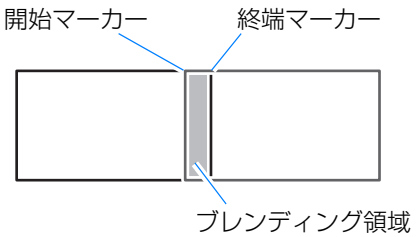
- 直立投写をする場合は、必ずこの設定を行ってください。
- この設定を行わずに直立投写をするとランプの寿命や他の部品の寿命がより縮まります。
- この設定を行っても、水平投写に比較してランプの寿命や他の部品の寿命が縮まります。

エッジブレンディング

複数台のプロジェクターを並べて投写するとき、映像の重なった部分（ブレンディング領域）の明るさと色を調整して重なった部分を目立たなくします。詳細な調整方法については「エッジブレンディング機能を使って投写する」（P144）を参照してください。

［切］　ブレンディング領域の調整を行いません。

［調整］ブレンディング領域の調整を行うメニューを表示します。



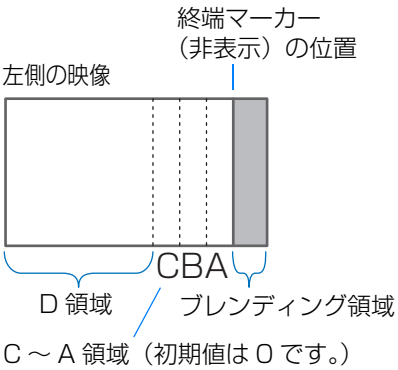
右側の投写画面を調整する場合

調整を行ってもブレンディング領域に色つきや輝度差が残る場合があります。

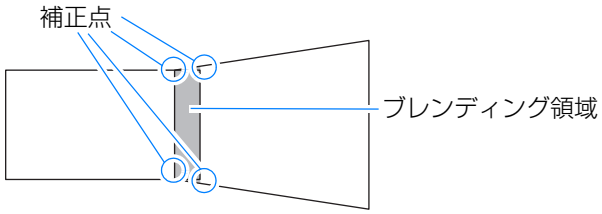
各プロジェクターのイメージモードを揃えたり、以下の調整を行うことでエッジブレンディングの効果を高めることができます。

① 明るさ、コントラスト、赤 / 緑 / 青ゲイン、赤 / 緑 / 青オフセット、黒レベル、ブレンディング色、色温度、色の濃さ、色合い、シャープネス、ガンマ（P70）
② 6 軸色調整を用いた色調整（P73）
③ 詳細なガンマを用いたガンマ調整（P73）
④ キーストーンを用いた 4 点補正（P50）

<table>
<tr><th>サブメニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td rowspan="3">サイド</td><td>左 / 右 / 上 / 下</td><td>調整を行うブレンディング領域の方向を選択します。</td></tr>
<tr><td>幅</td><td>開始マーカーから終端マーカーまでの幅を指定します。</td></tr>
<tr><td>開始位置</td><td>開始マーカーの位置を移動させます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">• ブレンディング領域を大きく設定すると入力信号ダイアログなどが隠れてしまう場合があります。そのときは一時的にエッジブレンディングを［切］にして表示を確認してください。
• 開始マーカーは通常映像の端部に合わせますが、内側に動かすこともできます。そのとき開始マーカーの外側は黒映像と同じになります。</td></tr>
<tr><td>ブレンディング色調整</td><td colspan="2">ブレンディング領域の色つき、色ずれを調整します。
<table>
<tr><th>サブメニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>切</td><td>ブレンディング色調整は行いません。</td></tr>
<tr><td>調整</td><td>ブレンディング領域の色つき、色ずれを調整します。
<table>
<tr><th>選択</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>白</td><td>ブレンディング領域の赤 / 緑 / 青の色つき、色ずれを同時調整します。</td></tr>
<tr><td>赤 / 緑 / 青</td><td>ブレンディング領域の赤 / 緑 / 青それぞれの色つき、色ずれを個別に調整します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>サブメニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td rowspan="4">黒レベル調整</td><td>ブレンディング領域では黒色が他の部分よりも明るく投写されるため、重ならない部分の黒レベルを調整して輝度差を目立たなくします。
 

A 領域：黒レベルの調整はできません。
B 領域：D 領域とは別に黒レベルを調整します。
C 領域：B 領域と D 領域の黒レベルを滑らかにつなげます。</td></tr>
<tr><td>切
黒レベル調整は行いません。</td></tr>
<tr><td>領域
ブレンディング領域と接するつなぎ目をよりなめらかにするため C ～ A 領域の調整をします。
<table>
<tr><th>選択</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>サイド</td><td>調整を行う方向を左右上下から選択します。</td></tr>
<tr><td>A 幅 /B 幅 / C 幅</td><td>A/B/C それぞれの領域の幅を調整します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>黒レベル
B 領域と D 領域の黒レベルの明るさと色味を調整します。
<table>
<tr><th>選択</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>B/D 領域基準</td><td>B/D 領域の黒レベルの明るさを調整します。</td></tr>
<tr><td>B/D 領域赤 / 緑 / 青</td><td>B/D 領域の黒レベルの赤 / 緑 / 青それぞれの色味を個別に調整します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>マーカー</td><td>調整範囲を示すマーカーを表示します。
<table>
<tr><th>選択</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>切</td><td>調整範囲を示すマーカーは表示しません。</td></tr>
<tr><td>入</td><td>調整範囲を示すマーカーを表示します。
赤は開始マーカー、緑は終端マーカーです。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>リセット</td><td>調整結果をリセットします。</td></tr>
</table>

サブメニュー	機能
4 点補正	基準となるプロジェクターに合わせてブレンディング領域の 4 隅の位置をそれぞれ調整することで、画面ひずみを補正します。すでにキーストーン調整された基準となるプロジェクターのブレンディング領域に重なるように調整することで、マルチ投影の位置調整ができます。 
	左右上下 調整を行うブレンディング領域の方向を選択します。選択した領域の 4 隅の位置調整に合わせて画面全体が変化します。 • ［キーストーン］の設定が［4 点補正］でかつ、スクリーンアスペクトが［16：10］のとき、エッジブレンディングの幅が 12 以上のサイドについて調整できます。 • リセットは［キーストーン］（P51）から実行してください。

スクリーン色補正

MENU >**[設置設定]**>**[スクリーン色補正]**

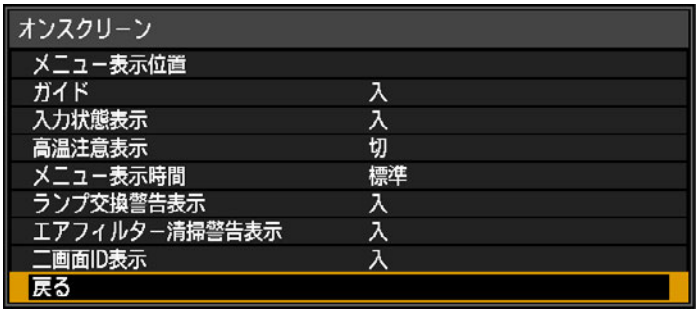
投写するスクリーンの色に応じて、投写する映像の色味を調整できます。

サブメニュー	機能
標準	標準的なスクリーンのときに選びます。自然光に近い色調で投写します。
黒板	黒板（濃緑色）をスクリーンにするときに選びます。黒板上でも［標準］に近い色味になります。
調整	赤 / 緑 / 青の色味をそれぞれ細かく調整するときに選びます。

オンスクリーン

MENU >**[設置設定]**>**[オンスクリーン]**

操作の補助となるガイドやメニュー、警告や注意を示すアイコンの設定をします。



メニュー表示位置

メニュー表示の位置を変えます。
【▲】【▶】【▼】【◀】ボタンでメニューの位置を移動します。

ガイド

ガイド画面を表示します。

選択	機能
切	ガイド画面を表示しません。
入	ガイド画面を表示します。

ガイド画面は次の場合に表示されます。
- 入力信号が確認できない場合。
- [BLANK]、[FREEZE]、[D.ZOOM] 時に無効なボタンが押された場合。(P25)
- 設置ロック (P76) が [入] に設定されており、設置ロック中の操作禁止のボタンが押された場合。
- 電源が ON の場合に、【POWER】ボタンを押した場合。

入力状態表示

無信号時や信号設定時に入力信号の状態を画面に表示するかどうかを設定します。

選択	機能
切	入力状態を表示しません。
入	入力状態を表示します。

高温注意表示

本機内部の温度が上がり、異常温度に近づいたときに、高温注意アイコンを表示するかどうかを設定します。

選択	機能
切	高温注意アイコンを表示しません。
入	高温注意アイコンを表示します。

メニュー表示時間

通常は 10 秒または 30 秒のメニュー表示時間を 3 分に延長します。

選択	機能
標準	表示時間は 10 秒または 30 秒です。
延長	表示時間は 3 分です。

以下の表示時間が変わります。

項目	[標準]	[延長]
MENU 画面	30 秒	3 分
- インプット (P42) - キーストーン調整 (P49) - キーストーンリセット (P51) - D イメージシフト調整 (P47) - D イメージシフトリセット - アスペクト (P48) - イメージモード (P52) - 音量の調整	10 秒	3 分

ランプ交換警告表示

ランプの使用時間が所定の時間に達した場合に、交換を促す警告を表示させます。

選択	機能
切	ランプ準備のメッセージとランプ交換警告を画面に表示しません。
入	ランプ準備のメッセージとランプ交換警告を画面に表示します。

- ランプ交換時期が近づいたときは本体の［LAMP］インジケーターが点滅します。詳しくは、「LED インジケーターの表示について」（P23）をご覧ください。
- ランプ交換警告表示を［切］にした場合、ランプ準備のメッセージとランプ交換警告は表示されません。ランプカウンター（P94）で交換時期を確認してください。
- ランプの交換時期を過ぎて使い続けると、ランプが破裂する可能性が高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。

エアフィルター清掃警告表示

エアフィルターの清掃が必要な場合に、清掃を促す警告を表示させることができます。

選択	機能
切	エアフィルター清掃警告を表示しません。
入	エアフィルター清掃警告を表示します。

エアフィルター清掃警告表示「切」を選択した場合、エアフィルター清掃の警告が表示されません。エアフィルターカウンター（P94）で交換時期の確認をお勧めします。

二画面 ID 表示

2 画面表示時に、「1」または「2」の数字（2 画面 ID）を表示するかどうかを設定します。画面 ID の表示を［切］にした場合でも、操作権を表す 4 隅のマーカーは表示されます。

選択	機能
切	画面 ID を表示しません。
入	画面 ID を表示します。

テストパターン

MENU >**[設置設定]**>**[テストパターン]**

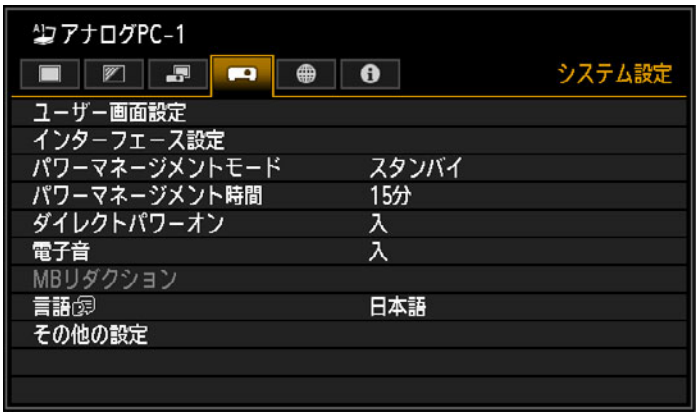
映像信号入力を接続しなくてもテストパターン（P161）を投写することができます。本機の設置時に解像度や色の確認をすることができます。

選択	機能
切	テストパターンの表示をしません。
入	テストパターンの表示をします。

- テストパターン・ダイレクトメニュー表示中は、**【▲】【▼】**ボタンで他のテストパターンに切り換えることができます。また、テストパターンにオプションの設定がある場合は、**【◀】【▶】**ボタンで設定を変更できます。
- テストパターン・ダイレクトメニューは一定時間後に消えます。**【▲】【▼】**ボタンを押すことにより再表示されます。

システム設定

電源投入時やスタンバイ時、操作音など、本機やリモコンの動作に関する設定をします。



（入力信号がアナログPC-1の場合）

メニュー	機能	詳細
ユーザー画面設定	電源を入れたときや入力信号が検出されなくなったときに表示する画面などの設定をします。	P86
インターフェース設定	接続した機器の入力信号などについての設定を行います。	P87
パワーマネージメントモード	映像入力信号がなくなり（無信号状態）、リモコンや本体操作部の操作がない（無操作状態）場合、所定時間が経過した後に、ランプや電源をオフにできます。	P90
パワーマネージメント時間	［パワーマネージメントモード］で設定したランプオフやスタンバイの状態になるまでの時間を設定します。	P91
ダイレクトパワーオン	【POWER】ボタンを押さずに、電源コードの接続だけで電源が入るようにできます。	P91
電子音	操作時の電子音の無効、有効を選べます。	P91
MB リダクション	MB（モーションブラー）とは、動画の再生時に生じるブレのことです。MB リダクションにより、動画のブレを軽減することができます。	P92
言語	メニューに表示する言語を選べます。	P92
その他の設定	パスワードの登録やランプ、エアフィルターの交換時期の表示などの設定をします。	P93

ユーザー画面設定

MENU >[システム設定]>**[ユーザー画面設定]**

画像の登録や表示の設定をします。

ユーザー画像登録

現在表示している画面をユーザー画像として登録します。登録したユーザー画像は、無信号時の画面、BLANK 時の画面、起動時の画面として使用することができます。

選択	機能
はい	登録する画像を画面に表示します。 赤い枠に読み込む範囲を合わせ、【OK】ボタンを押します。枠の中の画像が登録されます。
いいえ	ユーザー画像の登録を中止します。

ユーザー画像として登録できるのは、スクリーンアスペクトが 16：10 の場合のみです。

ユーザー画像位置

登録したユーザー画像の表示位置を設定します。
ユーザー画面を登録したときに設定することができます。左上、右上、中央、左下、右下から選びます。

無信号時画面

入力信号がないときの表示画面の設定をします。

選択	機能
黒	黒画面になります。
青	青画面になります。
ユーザー画面	ユーザー画像が表示されます。

BLANK 時画面

リモコンの【BLANK】ボタンを押して画像を一時的に消したときに表示する画面を選びます。

選択	機能
黒	黒画面になります。
青	青画面になります。
ユーザー画面	ユーザー画像が表示されます。

起動時画面

電源を入れてから投写準備ができるまでの間に表示する画面を選びます。

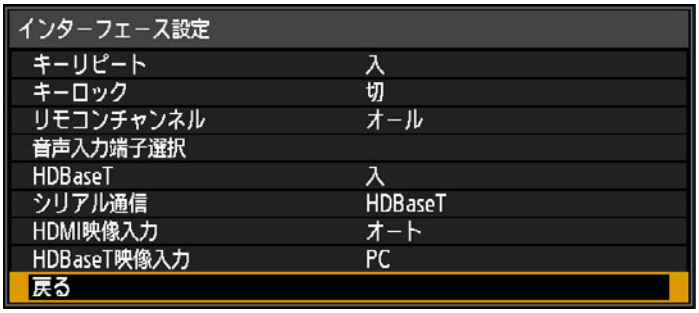
選択	機能
表示しない	電源を入れるとすぐに入力信号の映像が投写されます。

Canon ロゴ	あらかじめ登録されているキヤノンのロゴを表示します。
ユーザー画像	ユーザー画像が表示されます。

インターフェース設定

MENU >[システム設定]>**[インターフェース設定]**

接続した機器の入力信号などについての設定を行います。



キーリピート

本体やリモコンのボタンを押したままにしたとき、連続して押した状態と同じ動作をさせること（キーリピート）ができます。

選択	機能
切	キーリピートを行いません。
入	キーリピートを行います。

キーロック

本体またはリモコンのいずれかでの本機の操作をできないようにします。

選択	機能
切	キーロックを使用しません。
本体	本体操作部が使用できなくなります。 リモコン側で操作してください。
リモコン （ワイヤレス）	赤外線でのリモコン操作ができなくなります（P28）。本体側で操作してください。 別売品のリモコン（RS-RC05）をケーブルに接続して操作することはできます 。

キーロックを強制解除するには

本機の電源を切り、電源コードをいったん抜いてください。次に、本体の【OK】ボタンを押しながら電源コードを差し込み、そのまま【OK】ボタンを離さないでください。しばらくして電子音が鳴り、キーロックが解除されます。

キーロックは、本体操作部を用いて［本体］を設定することはできません。リモコンを用いて［リモコン（ワイヤレス）］も同様にできません。

リモコンチャンネル

ひとつのリモコンで複数台（最大 4 台）のプロジェクターを同時に使用するとき、操作するプロジェクターを使い分けのためリモコンのチャンネル設定をします。

本体側のチャンネルを選ぶ

別売品のリモコン（RS-RC05）をケーブル接続して使用する場合は、リモコンのチャンネル設定は不要です。

選択	機能
Ch1 Ch2 Ch3 Ch4	このプロジェクターで使用するリモコンのチャンネルを選びます。
オール	すべてのチャンネルのリモコンが使用できるようになります。

リモコン側のチャンネルを選ぶ

メニューで本体側のチャンネル切り換えを行ったら、リモコンで以下の操作をし、必ずリモコン側のチャンネルも切り換えてください。

Ch1	【OK】ボタンと【▲】ボタンを同時に 3 秒間押します。
Ch2	【OK】ボタンと【▶】ボタンを同時に 3 秒間押します。
Ch3	【OK】ボタンと【▼】ボタンを同時に 3 秒間押します。
Ch4	【OK】ボタンと【◀】ボタンを同時に 3 秒間押します。
オール	【OK】ボタンと【MENU】ボタンを同時に 3 秒間押します。

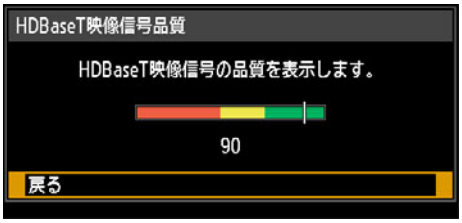
音声入力端子選択

音声を出力する入力端子を選びます。

選択	機能
切	音声出力を行いません。
オーディオイン 1	AUDIO IN 端子 1 から入力される音声信号を出力します。
オーディオイン 2	AUDIO IN 端子 2 から入力される音声信号を出力します。
HDMI	HDMI の音声信号を出力します。
HDBaseT	HDBaseT の音声信号を出力します。
LAN	LAN の音声信号を出力します。NMPJ アプリケーションにより音声転送されます。 ［通信設定］の［有線ネットワーク］（P89）で選んだポートの音声が転送されます。

HDBaseT

HDBaseT 入力の無効、有効を切り換えます。HDBaseT の接続については、映像と音声の場合は「接続のしかた」（P36、P37）、ネットワークの場合は「接続方法について」（P98）を参照してください。

選択	機能	
切	HDBaseT を無効にします。	
入	HDBaseT を有効にします。	
映像信号品質	白線は実際の HDBaseT 入力信号値です。  	
	高	緑色。推奨レベルです。
	中	黄色。信号が不安定です。ケーブルの配線状況の見直しをお薦めします。
	低	赤色。使用できません。ケーブルを配線し直すか、ケーブルを交換してください。

ケーブルは重ねたり、まとめて束ねたりしないでください。

通信設定

シリアル通信機能、有線ネットワーク機能で使用するポートを選びます。また、シリアル通信機能で選択したポートの設定値を確認することができます。

サブメニュー	機能	
シリアル通信	サービスポート	RS-232 端子（サービスポート）を使用します。
	HDBaseT	HDBaseT シリアルポートを使用します。
	詳細	

選択	機能
ストップビット	データビットの終了を示すマークの長さを表します。
ボーレート	変調速度（単位はビット / 秒）を表します。
データビット長	データのビット数を表します。
パリティ	パリティのビット数を表します。

有線ネットワーク	LAN ポート	RJ45 端子を使用します。
	HDBaseT	HDBaseT 端子を使用します。

- ［HDBaseT］の設定（P89）が［切］になっていると、［HDBaseT］は選択できません。
- ［ネットワーク（有線 / 無線）］の設定（P105）で有線 LAN 機能が［切］のとき、［有線ネットワーク］の設定は選べません。
- 有線ネットワーク設定は、すぐには反映されません。［有線ネットワーク］の設定を有効にするには、本機の電源を一度切り、再度電源を入れてください。

HDMI 映像入力

HDMI に接続する機器の種類を設定します。［HDMI 映像入力］の設定により、選べるイメージモードが一部変わります。（P52）

選択	機能
オート	AV 機器を接続する場合に選びます。画像処理やメニュー表示などがビデオ機器に合わせて調整されます。
PC	コンピューターを接続する場合に選びます。画像処理やメニュー表示などがコンピューターに合わせて調整されます。

HDBaseT 映像入力

HDBaseT に接続する機器の種類を設定します。［HDBaseT 映像入力］の設定により、選べるイメージモードが一部変わります。（P52）

選択	機能
オート	AV 機器を接続する場合に選びます。画像処理やメニュー表示などがビデオ機器に合わせて調整されます。
PC	コンピューターを接続する場合に選びます。画像処理やメニュー表示などがコンピューターに合わせて調整されます。

パワーマネージメントモード

MENU >**［システム設定］>［パワーマネージメントモード］**

映像入力信号がなくなり（無信号状態）、しかもリモコンや本体操作部の操作がない（無操作状態）場合、所定時間が経過した後に、ランプや電源をオフにできます。

選択	機能
無効	パワーマネージメントモードを使用しません。
ランプオフ	ランプのみを消灯します。
スタンバイ	電源を切り、スタンバイ状態にします。

- ランプオフから復帰するのは、映像信号（ランプオフ前と同じ入力信号）が復活した場合、またはリモコン／本体ボタンを操作した場合です。
- スタンバイから復帰するには、通常の電源を入れる操作が必要です。
- ［無効］に設定した場合は、［ダイレクトパワーオン］（P91）は使用できません。
- リモコンの【ECO】ボタンを押して、エコ設定画面から設定することができます。

パワーマネージメント時間

MENU >[システム設定]>**[パワーマネージメント時間]**

[パワーマネージメントモード] で設定したランプオフやスタンバイの状態になるまでの時間を設定します。

選択	機能
5 分～ 60 分	入力信号がなくなって 30 秒が経過し、かつ操作がない状態が継続すると、選択した時間のカウントダウン表示を開始します。

- ブランク中にカウントダウンを開始する条件になると、ブランクは解除されます。
- カウントダウンを開始すると、音声出力は停止します。
- リモコンの【ECO】ボタンを押して、エコ設定画面から設定することができます。

ダイレクトパワーオン

MENU >[システム設定]>**[ダイレクトパワーオン]**

【POWER】ボタンを押さずに、電源コードの接続だけで電源が入るようにできます。

選択	機能
切	電源を入れるために【POWER】ボタンの操作が必要です。
入	電源コードの接続だけで電源が入ります。

- ダイレクトパワーオンを［入］にするときは、［パワーマネージメントモード］の設定を［無効］以外に設定してください。［無効］にするとダイレクトパワーオンは使用できません。
- 電源を切った後に再度電源を入れる場合は、5 分以上経ってから電源を入れるようにしてください。すぐに電源を入れると、ランプの寿命を縮める原因になります。

電子音

MENU >[システム設定]>**[電子音]**

操作時の電子音の無効、有効を選べます。

選択	機能
切	電子音を鳴らしません。
入	電子音を鳴らします。

リモコンの【MUTE】ボタンで音を消しているときは、電子音は鳴りません。

MB リダクション

MENU >[システム設定]>**[MB リダクション]**

MB（モーションブラー）とは、動画の再生時に生じるブレのことです。MB リダクションにより、動画のブレを軽減することができます。

選択	機能
切	MB リダクションを実行しません。
入	MB リダクションを実行します。

- ［入］にしたときにノイズが気になる場合は、［切］に設定してください。
- メニューを表示しているときは、MB リダクションの効果を確認することはできません。
- CG 画像等の高精細な画像の動きに対し、特に効果があります。

言語

MENU >[システム設定]>**[言語]**

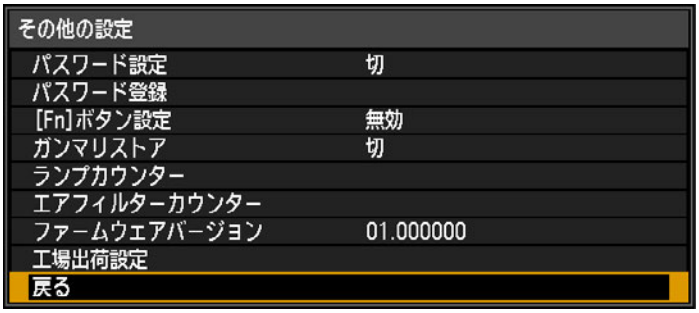
メニューに表示する言語を選びます。

言語		
English 英語	Русский ロシア語	Čeština チェコ語
Deutsch ドイツ語	Nederlands オランダ語	Dansk デンマーク語
Français フランス語	Suomi フィンランド語	إنجليزي アラビア語
Italiano イタリア語	Norsk ノルウェー語	中文简体 中国語（簡体）
Español スペイン語	Türkçe トルコ語	中文繁體 中国語（繁体）
Português ポルトガル語	Polski ポーランド語	한국어 韓国語
Svenska スウェーデン語	Magyar ハンガリー語	日本語 日本語

その他の設定

MENU >[システム設定]>**[その他の設定]**

パスワードの登録や設定、ランプやエアフィルターのカウンターのリセットなどの設定をします。



パスワード設定

パスワードを入力しないと投写ができないようにします。

選択	機能
切	パスワードを入力しなくても投写できます。
入	パスワードを入力しないと投写できません。

パスワードを強制解除するには

本体側で解除する方法	本機の電源を切り、電源コードをいったん抜いてください。 次に、本体の【MENU】ボタンを押しながら電源コードを差し込みます。電子音が鳴るまで【MENU】ボタンを押し続けてください。 電子音が鳴るとパスワードの解除は完了です。（登録したパスワードもリセットされます）
リモコン側で解除する方法	リモコンからパスワードを強制解除するには、スタンバイ状態で【MENU】ボタンを 3 回押し、【POWER】ボタンを押してください。

- ［パスワード登録］を行わないとパスワード設定を［入］にできません。
  パスワード機能を使用すると、電源を入れたときにパスワードの入力画面が表示されます。
  パスワードは 4 桁で入力します。
  【▲】、【▶】、【▼】、【◀】ボタンの組み合わせで設定します。
  パスワードが一致すれば投写が始まります。パスワードを 3 回間違えると、電源が切れます。
- パスワードの入力画面のまま無操作状態で 3 分間経過した場合も電源が切れます。

パスワード登録

投写を始めるためのパスワードを登録します。

パスワードは 4 桁で入力します。
方向ボタン【▲】1、【▶】2、【▼】3、【◀】4 のボタンの組み合わせで設定します。
左の桁から順番に入力し、入力が終わると自動的に登録されます。
パスワードの登録を中止するときは【MENU】ボタンを押してください。

[Fn] ボタン設定

リモコンの【Fn】ボタンに割り当てる機能を選択します。

選択	機能
無効	リモコンの【Fn】ボタンに機能を設定しません。
二画面	リモコンの【Fn】ボタンに二画面表示の切り換え機能を設定します。

ガンマリストア

長期使用によって、階調特性の変化や無彩色の色づきが気になった時に使用します。ガンマリストアはランプ点灯後、約 30 分以上経過しないと使用可能となりません。

選択	機能
切	ガンマリストアを実行せず、工場出荷時の設定に戻します。
調整	ガンマリストアを実行し、結果を適用します。

- ガンマリストアを実行すると、階調特性や無彩色の色づきを購入時の状態に近づけられますが、完全に元の状態に戻すことはできません。
- ガンマリストアを実行すると、約 150 秒間、調整画面が投写されます。
- ガンマリストアを中断するには、【POWER】ボタンを押してください。

ランプカウンター

ランプの交換時期を知らせるカウンターをリセットします。
ランプカウンターの表示については、「ランプを交換する」（P153）をご覧ください。

- ランプを交換したとき以外はリセットしないでください。ランプの交換時期を正しく知らせることができなくなります。
- ランプ交換の指示が出た（P153）場合、ランプが破裂する可能性が高くなっています。すみやかに新しいランプと交換してください。

- ランプカウンターはランプの交換時期の目安を知らせる機能です。ここに表示している時間（H）は、使用時間と点灯中のランプの負荷状態から算出しています。
- ランプカウンターに表示される時間（H）は［直立投写］（P79）が［切］で、［ランプモード］（P74）が［フルパワー］のときのランプ使用時間として換算値を表示しています。

エアフィルターカウンター

エアフィルターの掃除および交換時期を知らせるカウンターをリセットします。

フィルターの交換および掃除については 150 ～ 153 ページを参照してください。

ファームウェアバージョン

ファームウェア（本機の内蔵プログラム）を新しいバージョンに更新します。アップデートプログラムは弊社のウェブサイトからダウンロードし、USB メモリのルートディレクトリに保存してください。
表示されるバージョンを確認した上でバージョンアップを実行してください。

- ここに記載されているバージョンは実際のものとは異なります。
- アップデートプログラムがダウンロードできない場合があります。詳しくはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

更新処理には数分かかります。ファームウェアの更新中は、赤い LED が点滅します。LED 点滅中は電源を切らないでください。更新完了後は、自動的に本機の電源が切れ、スタンバイ状態になります。

工場出荷設定

メニューで設定した内容を購入時（工場出荷時）の状態に戻します。

選択	機能
はい	工場出荷時の状態に戻します。
いいえ	工場出荷時の状態に戻しません。

おもな工場出荷設定値

映像設定

サブメニュー	設定値
アスペクト	オート
PC フリーマルチプロジェクション	
モード設定	切
配置パターン設定	
台数	2
配置パターン	1x2
スライドショー間隔	--:--
アニメーション効果	切

サブメニュー	設定値
二画面	切
入力レベル	オート
カラーフォーマット	オート
オーバースキャン	切
プログレッシブ	フィルム / オート
スライドショー間隔	--:--
アニメーション効果	切

おもな工場出荷設定値

イメージ調整

サブメニュー	設定値
イメージモード	※ 1
高度な調整	
アンビエントライト	切
ランダムノイズリダクション	切
MPEG ノイズリダクション	切
モスキートノイズリダクション	切
ダイナミックガンマ	※ 2
記憶色補正	※ 2
6 軸色調整	切
ランプモード	フルパワー

設置設定

サブメニュー	設定値
設置ロック	切
反転表示	なし
スクリーンアスペクト	16：10
ズーム	100%
キーストーン	縦横キーストーン
プロフェッショナル設定	
マイクロデジタルイメージシフト	切
レジストレーション	切
ファンモード	標準
直立投写	切
スクリーン色補正	標準
オンスクリーン	
ガイド	入
入力状態表示	入
高温注意表示	切
メニュー表示時間	標準
ランプ交換警告表示	入
エアフィルター清掃警告表示	入
二画面 ID 表示	入
テストパターン	切

※1 ・ HDMI（[HDMI 入力] が [PC]）、デジタルPC、アナログPC-1、2、USB、LANの場合は［スタンダード]。
・ HDMI（[HDMI 入力] が［オート］のとき）、コンポーネントの場合は［フォト/sRGB]。

※2 ・ HDMI（[HDMI入力] が [PC]）、デジタルPC、アナログPC-1、2、HDBaseT（[HDBaseT 入力] が [PC]）、USB、LANの場合は［切]。
・ HDMI（［HDMI 入力］が［オート］のとき）、コンポーネント、HDBaseT（[HDBaseT 入力] が［オート]）の場合は［弱]。

おもな工場出荷設定値

システム設定

サブメニュー	設定値
ユーザー画像設定	
ユーザー画像登録	いいえ
ユーザー画像位置	中央
無信号時画面	青
BLANK 時画面	黒
起動時画面	Canon ロゴ
インターフェース設定	
キーリピート	入
キーロック	切
リモコンチャンネル	オール
音声入力端子選択	
HDMI	HDMI
デジタル PC	オーディオイン 1
アナログ PC-1	オーディオイン 1
アナログ PC-2	オーディオイン 2
コンポーネント	オーディオイン 2
HDBaseT	HDBaseT
LAN	LAN
USB	オーディオイン 1
HDBaseT	切
通信設定	
シリアル通信	サービスポート
有線ネットワーク	LAN ポート
HDMI 映像入力	PC
HDBaseT 映像入力	PC

サブメニュー	設定値
パワーマネージメントモード	スタンバイ
パワーマネージメント時間	15 分
ダイレクトパワーオン	切
電子音	入
MB リダクション	切
その他の設定	
パスワード設定	切
[Fn] ボタン設定	無効
ガンマリストア	切

ネットワーク設定

サブメニュー	設定値
ネットワーク設定変更	ロック
ネットワークパスワード設定	入
ネットワーク待機設定	省電力
ネットワーク（有線 / 無線）	切 / 切
詳細設定（有線）	
DHCP	切
詳細設定（無線）	
DHCP	切
PJLink	入
AMX Device Discovery	切
Crestron RoomView	切

以下の内容はリセットされません。
- 入力選択
- ランプカウンター
- 言語
- リモコンチャンネル
- ネットワーク設定
- エアフィルターカウンター
- マイクロデジタルイメージシフト
- レジストレーション
- ファンモード
- 直立投写
- HDBaseT
- シリアル通信
- 有線ネットワーク
- ユーザーメモリ
- ガンマリストア

ネットワーク設定

ネットワーク接続の概要

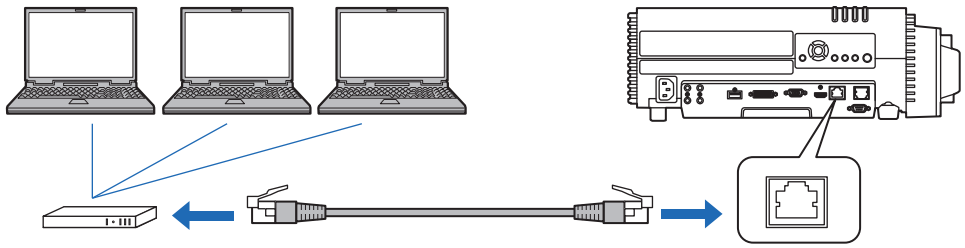
本機（プロジェクター）をネットワークに接続することで、プロジェクターのエラー通知メールをコンピューターで受信したり、コンピューターからプロジェクターを制御したりすることができます。
ネットワークへの接続方法により、コンピューター側で準備が必要になる場合があります。

接続方法について

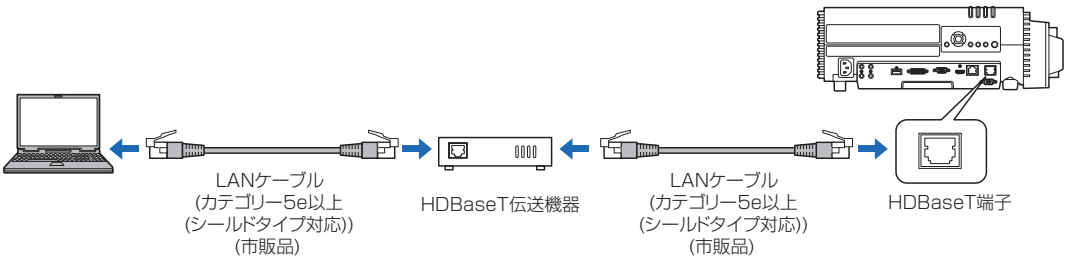
本機を LAN 環境に接続するには、LAN ケーブルを使用して接続する有線 LAN と、無線 LAN で接続することができます。

有線 LAN

LAN ケーブルを使用して LAN 環境に接続し、プロジェクターとコンピューターを接続します。LAN ケーブルは、プロジェクターの LAN 接続端子または HDBaseT 端子に接続できます。
LAN端子を使用する場合は、次のように接続します。



HDBaseT端子を使用する場合は、次のように接続します。



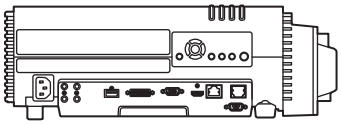
- ネットワークへの接続にLAN端子とHDBaseT端子は、同時に使用できません。
- HDBaseT端子を使用すると転送速度が100Mbps（上限値）になります。また、PCフリーマルチプロジェクションが使用できなくなります。
- ［通信設定］＞［有線ネットワーク］の設定（P89）で、どちらの端子を使用するか選択してください。

無線 LAN

- **PJ AP（プロジェクターアクセスポイント）モード**

  プロジェクターをアクセスポイントとして動作させ、無線LAN機能を有するコンピューターとダイレクトで通信することができます。
  同時に最大５台までの機器が接続できます。

無線LAN機能を
搭載したコンピューター



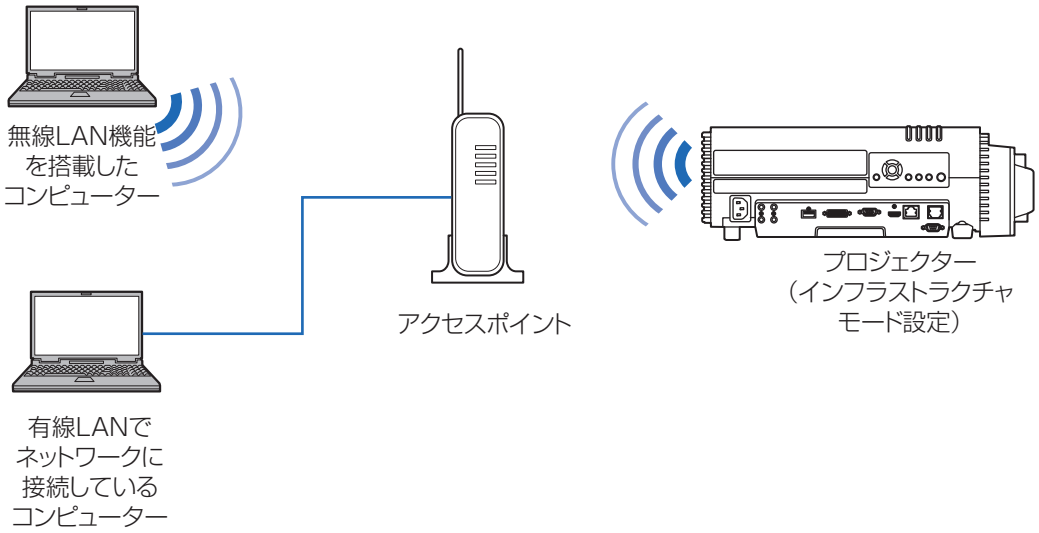
プロジェクター
（Pj APモード設定）

PJ AP モードで使用できるネットワーク機能は、以下の項目です。

- Web 機能
- NMPJ 機能（ネットワーク画面転送）
- ユーザーコマンド機能

上記以外のネットワーク機能（SNMP、PJLink、Mail、AMX、Crestron RoomView、Firm Update）は使用できません。

- **インフラストラクチャモード**
  プロジェクターを無線 LAN クライアントとして動作させ、無線 LAN アクセスポイントに接続することができます。
  コンピューターとプロジェクターは、無線LANアクセスポイントを介して通信します。



- インフラストラクチャモードで使用できるネットワーク機能は、以下の項目です。
  - Web 機能
  - Mail 機能
  - NMPJ 機能（ネットワーク画面転送）
  - ユーザーコマンド機能

  上記以外のネットワーク機能（SNMP、PJLink、AMX、Crestron　RoomView、Firm Update）は使用できません。
- インフラストラクチャモードを使用する場合、以下の制約があります
  - SSID に半角英数字以外の文字を使用されている場合、検索結果が文字化けします。
  - SSID に半角英数字以外の文字が使用されている場合、接続の保証はできません。

  同じ SSID を使用しているアクセスポイントが複数あった場合、電波強度の強いアクセスポイントだけが検索結果に表示されます。

- 有線LANと無線インフラストラクチャモードは、同時に使用できません。
- 本機がスタンバイ状態のとき、無線LAN機能は使用できません。
- PJ APモードとインフラストラクチャモードは同時に使用できません。
- 有線LANとPJ APモードは同一のサブネットワーク内では使用できません。
- プロジェクターの［ネットワーク（有線/無線）］の設定が［切/切］（ネットワーク接続が無効）になっている場合は、使用する有線 LAN または無線 LAN を［入］に変更してください。（P105）無線LANは、接続する方法を選んでください。
- 「インフォメーション」(P135) を参照して、プロジェクターのIPアドレス（有線）またはIPアドレス（無線）が、LAN上にある他のコンピューターなどと重複していないことを確認してください。プロジェクターのIPアドレスを設定する場合は、「コンピューター

の設定」（P114）の手順に従ってウェブ画面で行うか、プロジェクターのTCP / IP設定機能（P106、P110）を使用して行います。

- 新しくネットワークにコンピューターを接続する場合は、コンピューターの設定も行う必要があります。この場合は、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

接続するネットワーク環境で DHCP サーバーが稼動している場合は、プロジェクターの［DHCP］画面で［入］を選択し、DHCP 機能を有効にして接続することができます。（P106、P110）

無線 LAN（Wi-Fi）について

■ 無線 LAN が使える国や地域について

無線LAN機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線LAN機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。
なお、それ以外の国や地域で無線LAN機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

WUX450ST（無線モジュールモデル：ZC-ST）

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
  「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- 本機には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

■ 電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠くへ離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

プロジェクターでの設定

有線LANや無線LANへの接続の設定や、ネットワーク使用時のパスワードの登録など、ネットワークを使用するときの設定について説明します。

（入力信号がアナログPC-1の場合）

メニュー	機能	詳細
ネットワーク設定変更	ネットワークの設定が変更できないようにします。	P104
ネットワーク パスワード設定	ネットワークの設定を変更する際のパスワードの有無を設定します。	P104
ネットワーク パスワード登録	ネットワークパスワードの登録をします。	P104
ネットワーク待機設定	スタンバイ状態時の有線 LAN 機能の設定をします。	P105
ネットワーク （有線 / 無線）	有線 LAN 機能の入／切と、無線 LAN 機能の入／切およびモードを設定します。	P105
詳細設定（有線）	有線 LAN で接続するときの詳細な情報を表示および設定をします。	P106
詳細設定（無線）	無線 LAN で接続するときの詳細な情報の表示および設定をします。	P108
PJLink*	プロジェクターの PJLink 機能の使用の有無を設定します。	P112
AMX Device Discovery*	AMX 社の AMX Device Discovery の検出の設定をします。	P113
Crestron RoomView*	Crestron RoomView の使用設定をします。	P113

*有線LANでのみ有効です。

ネットワーク設定変更

MENU >[ネットワーク設定]>**[ネットワーク設定変更]**

ネットワーク設定が変更できないようロックしたり、ロックを解除したりします。

選択	機能
ロック解除	ロックを解除し、他のネットワーク設定項目を変更できるようにします。ロック解除にはパスワードの入力が必要です。**【▲】【▼】【◀】【▶】**ボタンを使い、4 桁のネットワークパスワードを入力します。
ロック	ロックします。

ネットワークのロックを強制解除するには

【▲】【OK】**【▶】**【OK】**【▼】**【OK】の順にボタンを押すと、ロックが解除されます。これによりネットワークパスワードは**【▲】【▲】【▲】【▲】**に初期化されます。

「ネットワークパスワード設定」を「切」に設定すると、常にロックが解除された状態となります。

ネットワークパスワード設定

MENU >[ネットワーク設定]>**[ネットワークパスワード設定]**

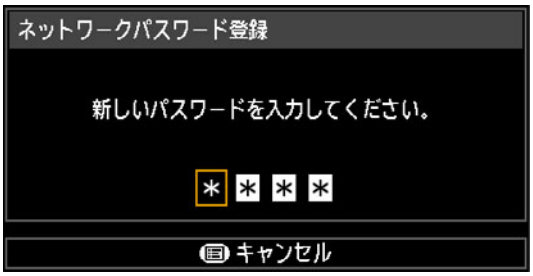
プロジェクターのネットワーク設定を変更する際にパスワードを必要とするかどうかを切り換えます。

選択	機能
切	ネットワークパスワードを使用しません。
入	ネットワークパスワードを使用します。

ネットワークパスワード登録

MENU >[ネットワーク設定]>**[ネットワークパスワード登録]**

【▲】【▶】【▼】【◀】ボタンを使い、プロジェクターのネットワークパスワードを登録します。



ネットワーク待機設定

MENU >[ネットワーク設定]>**[ネットワーク待機設定]**

スタンバイ時の有線LAN機能の動作状態を設定します。

選択	機能
通常	スタンバイ時も、ウェブ設定、LAN 経由の操作、PJLink などすべてのネットワーク機能が動作します。
省電力	スタンバイ時も、すべてのネットワーク機能が動作します。ただし、機能によっては、最初に使用したときの反応時間が、通常と比べて長くなるものがあります。

- ［省電力］を選んだ場合、機能によってはネットワークでのアクセスに時間がかかるものがあります。アクセスを速くしたい場合は、［通常］を選択してください。
- ネットワーク機能［入］を選んだ場合、ネットワーク待機設定の通常 / 省電力で消費電力が変わります。
- リモコンの【ECO】ボタンを押して、エコ設定画面から設定することができます。

ネットワーク（有線 / 無線）

MENU >[ネットワーク設定]>**[ネットワーク(有線 / 無線)]**

有線LAN機能の入 / 切と、無線LAN機能の入 / 切およびモードを設定します。
［切］に設定すると、消費電力を抑えることができます。

選択	機能
切 / 切	ネットワーク機能を無効にします。
入 / 切	有線 LAN 機能のみを有効にします。
入 / 入（Pj AP）	有線 LAN 機能、無線 LAN 機能（PJ AP モード）を有効にします。
切 / 入（Pj AP）	無線 LAN 機能（PJ AP）のみを有効にします。
切 / 入（Infra）	無線 LAN 機能（インフラストラクチャモード）のみを有効にします。

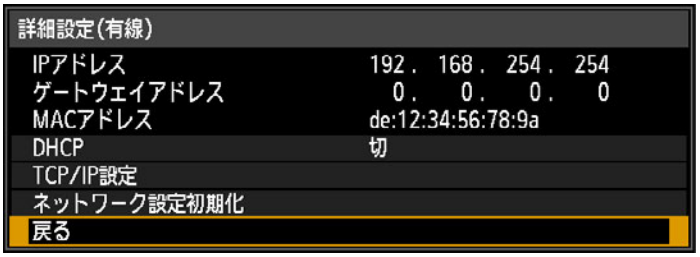
無線 LAN を使用して接続する場合

- PC フリーマルチプロジェクションのモード設定を［Master］もしくは［Slave］に選択時は、［ネットワーク（有線 / 無線）］は設定変更できません。
- PJ AP モード（P99）で接続した場合、初回起動時にセキュリティキーの設定を確認する画面が表示されます。

詳細設定（有線）

MENU >[ネットワーク設定]>**[詳細設定(有線)]**

有線LAN で接続したときのIP アドレス、ゲートウェイアドレス等を表示したり、手動で変更します。有線LAN機能が［入］のときのみ有効です。



メニュー	機能
IP アドレス	本機の有線側 IP アドレスです。
ゲートウェイアドレス	本機の有線側ゲートウェイアドレスです。
MAC アドレス	本機の有線側 MAC アドレスです。
DHCP	選択：切 — DHCP 機能を無効にします。TCP / IP の設定が可能になります。 選択：入 — DHCP 機能を有効にします。DHCP サーバーが探索されます。IP アドレスは DHCP サーバーから取得されるため、TCP / IP 設定の各項目（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス）の入力ができなくなります。
TCP / IP 設定	接続するときの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの変更、設定を行います。

- ［DHCP］が［入］の場合は設定不要です。
- 無効な値を入力した場合は、「入力が正しくありません。」と表示されます。その場合は、正しい値を入力し直してください。
- ［ネットワーク（有線 / 無線）］の設定が［入 / 入（Pj AP）］の時に PJ AP モードと同一のサブネットワークに設定すると、「同一セグメント IP は設定できません」と表示されます。異なるサブネットワークに設定し直すか、［ネットワーク（有線 / 無線）］の設定を［入 / 切］に変更してから有線 LAN の IP アドレスを設定し直して下さい。

メニュー	機能

ネットワーク設定初期化	ネットワークに関する以下の項目を初期化します。
	
	本機のメニューから設定する項目
	• ネットワーク設定変更（P104）
	• ネットワークパスワード設定（P104）
	• ネットワークパスワード登録（P104）
	• ネットワーク待機設定（P105）
	• ネットワーク（有線 / 無線）（P105）
	• 詳細設定 （有線）(P106）
	  • IP アドレス（有線）(P106）
	  • ゲートウェイアドレス（有線）（P106）
	  • DHCP（有線）(P106）
	  • サブネットマスク（有線）（P106）
	• PJLink（P112）
	• AMX Deveice Discovery（P113）
	• Crestron RoomView（P113）
	• PC フリーマルチプロジェクション機能で設定した転送先のプロジェクターのIPアドレス
	
	ウェブ画面から設定する項目
	• [Password]（P120）
	• [Wired]（P121）
	  • DHCP（P121）
	  • IP address（P121）
	  • Subnet mask（P121）
	  • Default gateway（P121）
	• [NMPJ Password]（P123）
	• [Mail]（P124）
	• [Mail auth]（P125）
	• [SNMP]（P127）
	• [Projector info.]（P128）

詳細設定（無線）

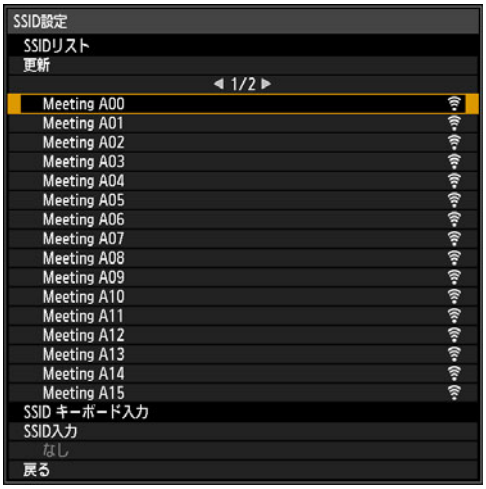
MENU >[ネットワーク設定]>[詳細設定(無線)]

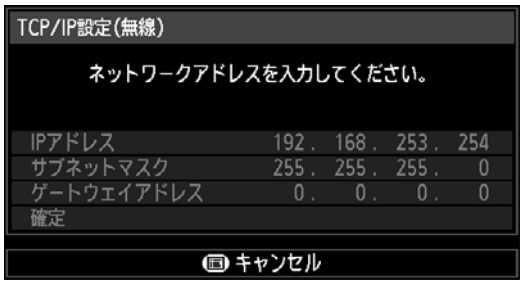
無線LAN で接続したときのIP アドレス、ゲートウェイアドレス等を表示したり、手動で変更します。無線LAN機能が［入］のときのみ有効です。

メニュー	機能
モード	無線 LAN のモードを表示します。（P99、P100）
SSID	アクセスポイントの SSID を表示します。
セキュリティ	セキュリティ設定を表示します。
チャンネル	接続先のチャンネルを表示します。
信号強度	信号強度の実測値を表示します。
IP アドレス	本機の無線側 IP アドレスです。
ゲートウェイアドレス	本機の無線側ゲートウェイアドレスです。
MAC アドレス	本機の無線側 MAC アドレスです。
Wi-Fi protected Setup	インフラストラクチャモードを使用するときの接続方法を選びます。

サブメニュー	機能
PBC	PBC（プッシュボタン）方式で接続します。 画面の表示に従い、無線 LAN の親機（アクセスポイント）のプッシュボタンを押してから 2 分以内に、画面の［OK］を選びます。
PIN	PIN 方式で接続します。 画面に表示された 8 桁の PIN コードを無線 LAN の親機（アクセスポイント）に入力し、10 分以内に画面の［OK］を選びます。

<table>
<tr><th>メニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>手動設定</td><td>
プロジェクターの無線 LAN を手動で設定します。

<table>
<tr><th>サブメニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>モード</td><td>無線 LAN のモードを表示します。（P99、P100）</td></tr>
<tr><td>SSID</td><td>接続できるアクセスポイントの SSID 一覧が表示されます。周辺で使用できるアクセスポイントを探したり、接続先の名前を変えることができます。

</td></tr>
<tr><td>セキュリティ</td><td>無線 LAN のセキュリティを［Open］、［WEP］、［WPA2 AES］、［WPA / WPA2 TKIP / AES］から選びます。PJ AP モードのときは、［Open］または［WPA2 AES］を選択できます。</td></tr>
<tr><td>チャンネル</td><td>無線 LAN の接続が完了したときに無線 LAN のチャンネルを 1 ～ 11 で表示します。</td></tr>
<tr><td>キー ID</td><td>無線 LAN の WEP キー ID を選択します。セキュリティが［WEP］の場合のみ選択できます。</td></tr>
<tr><td>キータイプ</td><td>無線 LAN のセキュリティキーの入力タイプを選択します。セキュリティが［Open］の場合は選択できません。</td></tr>
<tr><td>キー</td><td>セキュリティが［Open］、もしくはネットワーク機能設定が［入 / 入（Pj AP）］、［切 / 入（Pj AP）］の場合は選択できません。</td></tr>
<tr><td>確定</td><td>設定した内容で接続します。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>メニュー</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>DHCP</td><td>プロジェクターの無線 LAN の DHCP 機能の無効、有効を切り換えます。
<table>
<tr><th>選択</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>切</td><td>DHCP 機能を無効にします。TCP / IP の設定が可能になります。</td></tr>
<tr><td>入</td><td>DHCP 機能を有効にします。DHCP サーバーが探索されます。IP アドレスは DHCP サーバーから取得されるため、TCP / IP 設定の各項目（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス）の入力ができなくなります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>TCP / IP 設定</td><td>プロジェクターの無線 LAN の TCP / IP の設定を行います。
• ［DHCP］（P110）が［入］の場合は設定できません。
• 無効な値を入力した場合は、「入力が正しくありません。」と表示されます。その場合は、正しい値を入力し直してください。
 
</td></tr>
</table>

メニュー	機能
ネットワーク設定初期化	ネットワークに関する以下の項目を初期化します。 **本機のメニューから設定する項目** • ネットワーク設定変更（P104） • ネットワークパスワード設定（P104） • ネットワークパスワード登録（P104） • ネットワーク待機設定（P105） • ネットワーク（有線 / 無線）（P105） • 詳細設定（無線）（P108）の以下の項目 　• IP アドレス（無線）（P108） 　• ゲートウェイアドレス（無線）（P108） 　• DHCP（無線）（P110） 　• サブネットマスク（無線）（P110） **ウェブ画面から設定する項目** • [Password]（P120） • [Wireless]（P122）の以下の項目 　• DHCP（P122） 　• IP address（P122） 　• Subnet mask（P122） 　• Default gateway（P122） • [NMPJ Password]（P123） • [Mail]（P124） • [Mail auth]（P125） • [Projector info.]（P128）

PJLink

MENU >[ネットワーク設定]>[PJLink]

プロジェクターのPJLink機能の無効、有効を切り換えます。
［入］にすると、LAN経由でPJLink規格にそったコマンドによる制御が行えます。

選択	機能
切	PJLink 機能を無効にします。
入	PJLink 機能を有効にします。

- このプロジェクターは JBMIA（Japan Business Machine and Information System Industries Association：社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）の PJLink 標準定義の Class1 に準拠しています。このプロジェクターは、PJLink Class1 によって定義されたすべてのコマンドをサポートして、PJLink 標準定義 Class1 との適合を検証しています。
- PJLink の利用については「PJLink を設定する［PJLink］」（P128）を参照してください。
- 有線 LAN でのみ有効です。

PJLinkとは

2003 年 9 月、データプロジェクター部会の中に、PJLink 分科会が設立されました。この PJLink 分科会の第 1 期の活動において、プロジェクターの新たなインターフェース仕様として PJLink が規定されました。
PJLink はプロジェクターを操作・管理するための統一規格です。

メーカーを問わずに、プロジェクターの集中管理やコントローラーからの操作を実現します。今後主流となるネットワーク経由のプロジェクター監視・制御において、早期の体系化を JBMIA による推進で実現し、ユーザーの利便性をあげ、プロジェクターの普及促進を図ることを目的としています。

Class 1：プロジェクターの基本機能の制御・監視仕様を標準化
基本的なプロジェクター制御：電源制御、入力切り換えなどプロジェクターの各種情報・状態を取得：電源状態、入力切り換え状態、エラー状態、ランプ使用時間など

JBMIA：社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
1960 年に発足した日本事務機械工業会が、2002 年 4 月 1 日より改称した団体です。

PJLink サイト URL　　http://pjlink.jbmia.or.jp

PJLink™

PJLink は JBMIA の登録商標です。
PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。

AMX Device Discovery

MENU >[ネットワーク設定]>[AMX Device Discovery]

ネットワーク環境で、AMX社のAMX Device Discoveryによる検出をするときに設定します。ネットワーク環境にAMX Device Discoveryがないときは、［切］を選びます。

選択	機能
切	AMX Device Discovery を無効にします。
入	AMX Device Discovery を有効にします。ネットワーク経由で定期的に AMX ビーコンパケットがプロジェクターから発行されます。

- AMX Device Discovery の詳細については AMX 社の Web ページを参照してください。
  http://www.amx.com/
- 有線 LAN でのみ有効です。

Crestron RoomView

MENU >[ネットワーク設定]>[Crestron RoomView]

Crestron RoomViewとは、ネットワークに接続している複数のプロジェクターを遠隔から操作してシステムの診断や、ランプ寿命の把握、電源 ON / OFF などを、一括に管理できるシステムです。Crestron RoomViewを使用するかどうかを設定します。

選択	機能
切	Crestron RoomView を使用しません。
入	Crestron RoomView を使用します。RoomView 用ポートが開き、CIP パケット応答を行います。これにより RoomView Express / Server アプリケーション、または Crestron Controller 経由での通信が可能になります。（P129）

- Crestron RoomViewの詳細については、Crestron™社のWebページを参照してください。
  http://www.crestron.com/
- 有線 LAN でのみ有効です。

コンピューターの設定

IP アドレスを設定する

コンピューターのIPアドレス（有線）またはIPアドレス（無線）を設定する方法をOSごとに説明します。

■ Windows 8 / 8.1 の場合

1 **スタート画面の背景部分で右クリックし、画面右下の［すべてのアプリ］をクリックします。**

- Windows 8.1 をご利用の場合
  スタート画面左下の下向き矢印をクリックします。

2 **［コントロールパネル］をクリックします。**

- デスクトップ画面から操作する場合
  キーボードの［Windows ロゴ］キー と［X］キーを同時に押します。
  画面左下に表示されるショートカットメニューから［コントロールパネル］をクリックします。

3 **［ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックします。**

- アイコン表示の場合
  ［ネットワークと共有センター］をクリックします。

4 **［アダプターの設定の変更］をクリックします。**

5 **有線LANの場合は［イーサネット］、無線LANの場合は［Wi-Fi］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。**

6 **「この接続は次の項目を使用します」の一覧から［インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）］を選んで［プロパティ］ボタンをクリックし、変更する前のネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等）をメモしておきます。**

7 **［次の IP アドレスを使う］を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。**
プロジェクターの工場出荷時の IP アドレス（有線）は「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」なので、これと重複しないよう設定してください。

8 **設定が終わったら［OK］ボタンをクリックし、［イーサネットのプロパティ］画面の［閉じる］ボタンをクリックして閉じます。**

■ Windows 7 の場合

1 コンピューターの［スタート］メニューで［コントロールパネル］を開きます。

2 ［ネットワークとインターネット］をクリックし、［ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックします。

3 ウィンドウの左側のメニューにある［アダプターの設定の変更］をクリックします。

4 有線LANの場合は［ローカルエリア接続］、無線LANの場合は［ワイヤレスネットワーク接続］を右クリックして［プロパティ］を開きます。

5 ［インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）］を選んで［プロパティ］ボタンをクリックし、変更する前のネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等）をメモしておきます。

6 ［次のIP アドレスを使う］を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
プロジェクターの工場出荷時の IP アドレスは（有線）「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」なので、これと重複しないよう設定してください。

7 設定が終わったら［OK］ボタンをクリックし、［ローカルエリア接続］のプロパティ画面の［閉じる］ボタンをクリックして閉じます。

■ Windows Vista の場合

1 コンピューターの［スタート］メニューで［コントロールパネル］を開きます。

2 ［ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックします。

3 ウィンドウの左側のメニューにある［ネットワーク接続の管理］をクリックします。

4 有線LANの場合は［ローカルエリア接続］、無線LANの場合は［ワイヤレスネットワーク接続］を右クリックして［プロパティ］を開きます。

5 ［インターネット プロトコル バージョン　4（TCP/IPv4）］を選んで［プロパティ］ボタンをクリックし、変更する前のネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等）をメモしておきます。

6 ［次のIPアドレスを使う］を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
プロジェクターの工場出荷時の IP アドレス（有線）は「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」なので、これと重複しないよう設定してください。

7 設定が終わったら［OK］ボタンをクリックし、［ローカルエリア接続］のプロパティ画面の［閉じる］ボタンをクリックして閉じます。

■ Mac OS X の場合

1 アップルメニューを開き、[システム環境設定] を選びます。

2 システム環境設定ウィンドウの [ネットワーク] をクリックし、ネットワーク画面を表示します。

3 有線LANの場合は [内蔵Ethernet]、無線LANの場合は [Wi-Fi] を選び、[TCP/IP] タブをクリックして、表示される変更前のネットワーク設定（IP アドレスやサブネットマスク、ルーター、DNS サーバーなど）をメモします。

4 新しいネットワーク環境を作成し、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。
プロジェクターの工場出荷時の IP アドレス（有線）は「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」なので、これと重複しないよう設定してください。

5 [適用] をクリックして、ネットワーク画面を閉じます。

■ コンピューターの IP アドレスの設定を戻すとき

変更時と同じ手順で、メモしておいた内容に従って変更前の値を設定してください。

ネットワークを設定する

■ ネットワーク設定画面の表示

1 コンピューターとプロジェクターの電源を入れます。

プロジェクターの電源を入れた後、約 40 秒間はネットワーク機能が使えません。

2 ウェブブラウザを起動し、アドレスに「http://（プロジェクターのIPアドレス）」を入力して [Enter] キーを押します。
プロジェクターのウェブ画面が表示されます。

表示される情報は次の通りです。

Network Multiple Projection Download	ネットワーク・マルチ・プロジェクション（NMPJ）のアプリケーションをダウンロードします。*
Projector control	プロジェクターコントロール画面を表示します。
Settings	セッティング画面を表示します。
Projector name	ネットワーク上でのプロジェクター名
Comment	プロジェクターの設置場所などのコメント
MAC address（Wired）	プロジェクターの有線 LAN の MAC アドレス
IP address（Wired）	プロジェクターの有線 LAN の IP アドレス
MAC address（Wireless）	プロジェクターの無線 LAN の MAC アドレス
IP address（Wireless）	プロジェクターの無線 LAN の IP アドレス
PowerStatus	プロジェクターの電源の状態
LampModeFullPower	ランプモード［フルパワー］でのランプの使用時間
LampModePowerSaver	ランプモード［エコ］でのランプの使用時間
LampTimeConverted	ランプの使用時間（換算値）
FilterTime	エアフィルターの使用時間
Alert	エラーメッセージ（エラーが発生した場合） Temperature abnormality：温度エラー Faulty lamp：ランプエラー Faulty cooling fan：ファンエラー Faulty air filter unit：エアフィルターエラー Faulty power supply：電源エラー Unknown error：原因不明のエラー

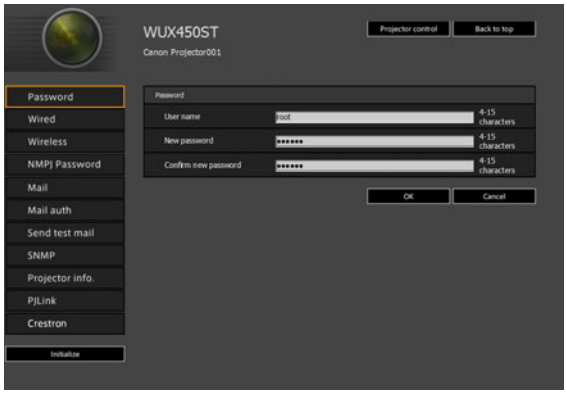
* ネットワーク・マルチ・プロジェクション（NMPJ）のダウンロードについて詳しくは、NMPJ使用説明書をご覧ください。

工場出荷時の IP アドレス（有線）は「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」です。DHCP 設定の場合はネットワーク管理者にプロジェクターの IP アドレスをお問い合わせください。プロジェクターのメニューから、IP アドレスを確認することができます。（P106、P108）

3 ウェブ画面の［Settings］をクリックします。

パスワードの入力画面が表示されます。

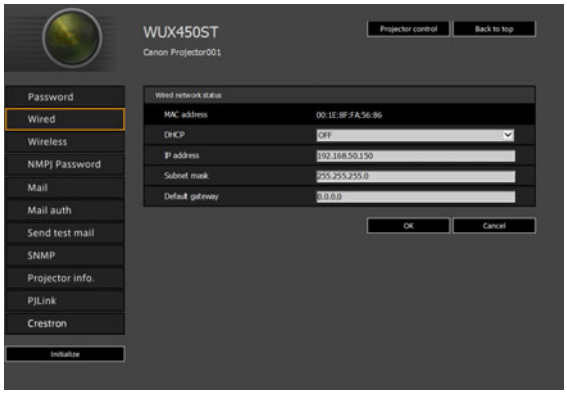
4 **パスワード入力画面にユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。**
工場出荷時のユーザー名は「root」、パスワードは「system」です。
セッティング画面が表示されます。この画面でネットワークの設定を行います。



コンピューターからプロジェクターを制御する場合は［Projector control］をクリックします。（P133）

■ ネットワークの設定

1 **セッティング画面のメニューから、設定したい機能を選択します。**



2 表示された各欄に設定内容を入力し（①）、[OK] をクリックします（②）。

①

②

3 確認画面が表示されるので内容を確認し、問題がなければ［Apply］をクリックします。

設定内容がプロジェクターに反映されます。
メニューで「Wired」や「Wireless」、「Password」を選択していた場合、「Save completed. Please change setting and reconnect.」と表示されます。
それ以外の機能を選択している場合は、「Save completed」と表示されます。[Back to top］をクリックし、ウェブ画面のトップ画面に戻ります。

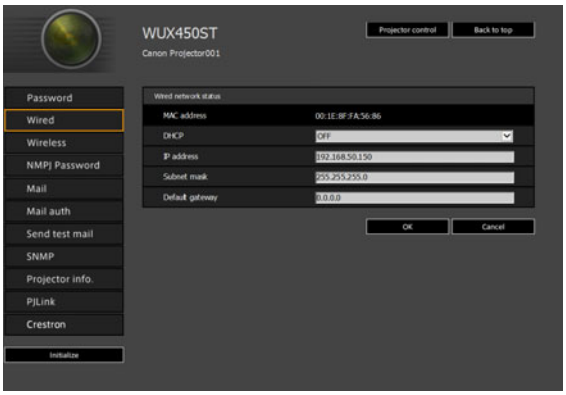
パスワードの設定［Password］

セッティング画面の［Password］では、ウェブ画面にログインする際のユーザー名やパスワードの設定をします。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。

項目	説明	工場出荷時の設定
User name	ウェブ画面にログインする際のユーザー名を半角の英数字・記号（4 ～ 15 文字）で入力します。	root
New password	ウェブ画面にログインする際のパスワードを半角の英数字・記号（4 ～ 15 文字）で入力します。	system
Confirm new password	確認のため、［New password］と同じパスワードを入力します。	system

有線LAN基本情報の設定［Wired］

セッティング画面の［Wired］では、有線LANの基本情報についての設定をします。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。

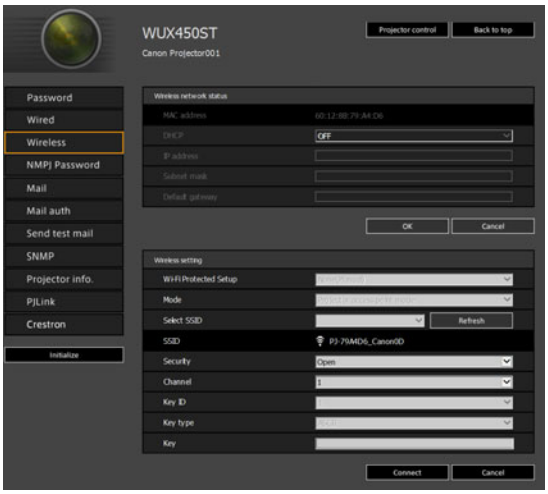


項目	説明	工場出荷時の設定
MAC address	プロジェクターの有線 LAN の MAC アドレスを表示します。	プロジェクターの有線 LAN の MAC アドレス
DHCP	有線 LAN の DHCP 機能の ON / OFF を選択します。ON の場合、IP アドレスはサーバーから取得されるため、以下の項目は入力できなくなります。 [IP address] [Subnet mask] [Default gateway]	OFF
IP address	プロジェクターの有線 LAN の IP アドレスを半角数字で入力します。	192.168.254.254
Subnet mask	有線 LAN のサブネットマスクを半角数字で入力します。	255.255.255.0
Default gateway	有線 LAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを半角数字で入力します。	0.0.0.0

TCP / IP に関する設定を変更した場合は、ネットワークに接続し直す必要があります。
ネットワークのサブネットマスクを変更した場合は、上記の画面で［Subnet mask］を選び、新しいサブネットマスクを設定してください。

無線LAN基本情報の設定［Wireless］

セッティング画面の［Wireless］では、無線LANの基本情報についての設定をします。設定の手順については「ネットワークの設定」（P118）を参照してください。



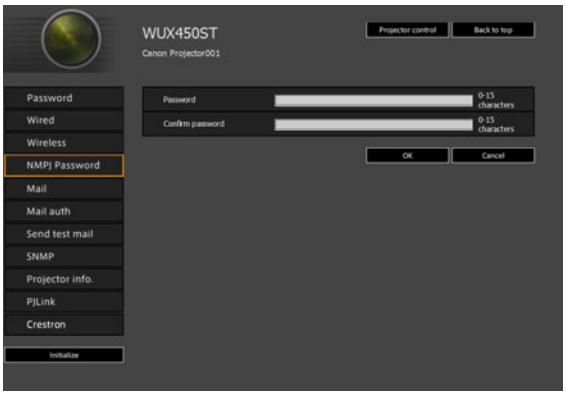
項目	説明	工場出荷時の設定
MAC address	プロジェクターの無線LANのMACアドレスを表示します。	プロジェクターの無線LANのMACアドレス
DHCP	無線LANのDHCP機能のON / OFFを選択します。ONの場合、IPアドレスはサーバーから取得されるため、以下の項目は入力できなくなります。 [IP address] [Subnet mask] [Default gateway]	OFF
IP address	プロジェクターの無線LANのIPアドレスを半角数字で入力します。	192.168.253.254
Subnet mask	無線LANのサブネットマスクを半角数字で入力します。	255.255.255.0
Default gateway	無線LANのデフォルトゲートウェイのIPアドレスを半角数字で入力します。	0.0.0.0
Wi-Fi Protected Setup	無線LAN簡単接続方法を選択します。	None（マニュアル設定）
Mode	無線LANの接続モードを選択します。	infrastructure mode

項目	説明	工場出荷時の設定
Select SSID	無線 LAN のアクセスポイントの SSID を選択します。[Refresh] ボタンをクリックすると、リストが更新されます。リストに SSID が表示されない場合は、半角の英数字（1 ～ 32 文字）で入力します。	＜空欄＞
Security	無線 LAN のセキュリティ設定を選択します。	Open
Channel	無線 LAN のチャンネル数を表示します。[Mode] が Projector access point mode の場合は、チャンネルを選択できます。	1
Key ID	無線 LAN の WEP キー ID を選択します。	1
Key type	無線 LAN のセキュリティキーの入力タイプを選択します。	ASCII
Key	無線 LAN のセキュリティキーを入力します。	＜空欄＞

TCP/IP に関する設定を変更した場合は、ネットワークに接続し直す必要があります。ネットワークのサブネットマスクを変更した場合は、上記の画面で［Subnet mask］を選び、新しいサブネットマスクを設定してください。

ネットワーク・マルチ・プロジェクションの設定［NMPJ Password］

セッティング画面の［NMPJ Password］では、ネットワーク・マルチ・プロジェクションの認証に必要な項目を設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。



項目	説明	工場出荷時の設定
Password	ネットワーク･マルチ・プロジェクションの接続時に必要なパスワードを半角の英数字（0 ～ 15 文字）で設定します。	＜空欄＞
Confirm password	確認のため、［Password］と同じパスワードを入力します。	＜空欄＞

ネットワーク・マルチ・プロジェクション（NMPJ）について詳しくは、NMPJ 使用説明書をご覧ください。

メールを設定する［Mail］

セッティング画面の［Mail］では、エラーメール送信およびテストメール送信を行うために必要な項目を設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。

項目	説明	工場出荷時の設定
To:	エラーメールの送信先メールアドレスを半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	MailUserAccount
Cc:	エラーメールの Cc 送信先メールアドレスを半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	＜空欄＞
From:	エラーメールの送信元メールアドレスを半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	Projector@canon.co.jp
SMTP server IP address	SMTP サーバーの IP アドレスを半角数字で入力します。	0.0.0.0

項目	説明	工場出荷時の設定
SMTP server port number	SMTP サーバーのポート番号を半角数字（1 ～ 65535）で入力します。	25
SNTP server IP address	SNTP サーバーの IP アドレスを半角数字で入力します。	0.0.0.0
Time zone	プロジェクターを使用する場所のタイムゾーンを選択します。	(GMT) Dublin, Lisbon, London
Mail resend interval*	エラーメール再送間隔（秒単位）を 0 ～ 59 秒の範囲で半角の数字で入力します。	10
Mail resend times	エラーメール再送回数を 0 ～ 255 回の範囲で半角の数字で入力します。	3
Error report	エラーメール送信機能の ON / OFF を選択します。	OFF

* 0秒を設定した場合、待機時間なしで指定されたエラーメール再送回数の再送を繰り返します。

メール認証を設定する［Mail auth］

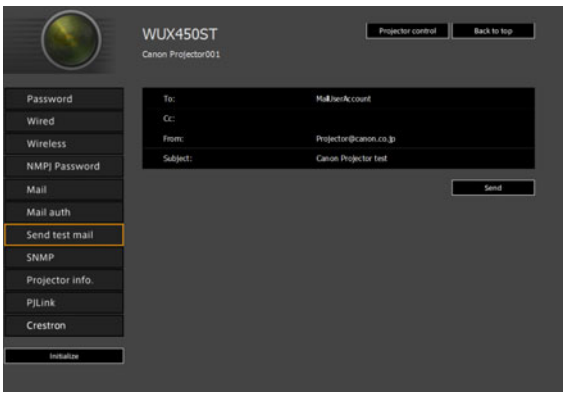
セッティング画面の［Mail auth］では、エラーが発生したときに送信されるメールの認証について設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。

項目	説明	工場出荷時の設定
Mail authentication	メール認証方式を選択します。OFF の場合は、メール認証の他の項目は変更できません。	OFF
User name	メール認証を行うためのユーザー名を半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	＜空欄＞

項目	説明	工場出荷時の設定
Password	メール認証を行うためのパスワードを半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	＜空欄＞
Confirm password	確認のため［Password］と同じパスワードを入力します。	＜空欄＞
POP3 server IP address	POP3 サーバーの IP アドレスを半角数字で入力します。	0.0.0.0
POP3 server port number	POP3 サーバーのポート番号を半角数字（1 ～ 65535）で入力します。	110
POP before SMTP response time	POP3 認証終了から SMTP 認証までの待機時間（ミリ秒単位）を半角数字（0 ～ 9999 ミリ秒）で入力します。	300

テストメールを送信する［Send test mail］

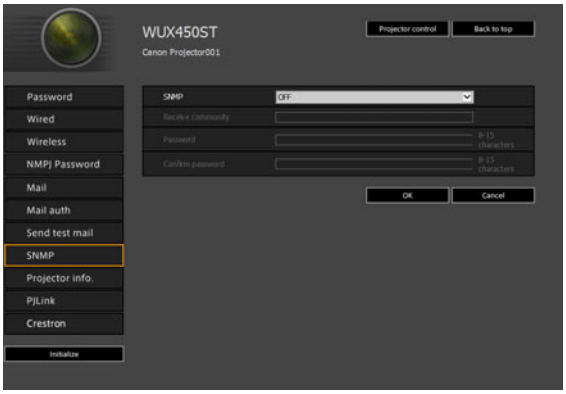
セッティング画面の［Send test mail］では、［Mail］で設定したメールアドレスに対し、テストメールを送信することができます。この画面では各項目の内容を変更することはできません。



項目	説明
To:	セッティング画面の［Mail］（P124）で設定した送信先メールアドレスが表示されます。
Cc:	セッティング画面の［Mail］（P124）で設定した Cc 送信先メールアドレスが表示されます。
From:	セッティング画面の［Mail］（P124）で設定した送信元メールアドレスが表示されます。
Subject:	固定のメールタイトル「Canon Projector test」が表示されます。

SNMPを設定する［SNMP］

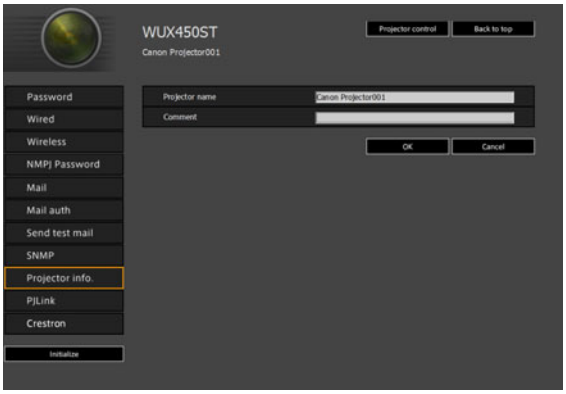
セッティング画面の［SNMP］では、SNMP（Simple Network Management Protocol）を利用したプロジェクターの管理について設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。



項目	説明	工場出荷時の設定
SNMP	SNMP 機能のバージョンを選択します。OFF の場合、SNMP 機能はオフになり、この画面の他の項目は変更できなくなります。	OFF
Receive community	プロジェクター情報を受信するコミュニティ名を半角の英数字・記号（1 ～ 15 文字）で入力します。	＜空欄＞
Password	コミュニティ設定のパスワードを半角の英数字・記号（8 ～ 15 文字）で入力します。SNMP のバージョンが V3 の場合のみ設定できます。	＜空欄＞
Confirm password	確認のため、［Password］と同じパスワードを入力します。	＜空欄＞

プロジェクター情報を設定する［Projector info.］

セッティング画面の［Projector info.］では、複数のプロジェクターがネットワーク上にある場合の識別を行うための名前と設置場所を設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。



項目	説明	工場出荷時の設定
Projector name	プロジェクター名を半角の英数字・記号（1 ～ 63 文字）で入力します。	Canon Projector001
Comment	プロジェクターの設置場所などのコメントを入力します。	＜空欄＞

［Projector name］と［Comment］には，＃など使用できない文字があります。

PJLink を設定する［PJLink］

セッティング画面の［PJLink］では、ネットワークでのプロジェクター管理の規格であるPJLink 機能について設定します。設定の手順については「ネットワークの設定」(P118) を参照してください。また、PJLink については「PJLink とは」(P112) を参照してください。

項目	説明	工場出荷時の設定
PJLink	PJLink 機能の ON / OFF を選択します。OFF の場合、PJLink 機能はオフになり、この画面の他の項目は変更できなくなります。	ON
PJLink authentication	PJLink 認証機能の ON / OFF を選択します。OFF の場合、以下の項目は変更できません。 [Password] [Confirm password]	ON
Password	PJLink 認証パスワードを半角の英数字（1 ～ 32 文字）で入力します。	system
Confirm password	確認のため［Password］と同じパスワードを入力します。	system

クレストロン社製のコントローラーの設定をする［Crestron Controller］

Crestron e-Control 画面が開きます。詳しくはクレストロン社のWebページをご覧ください。http://www.crestron.com

設定時のエラーについて

設定に関してエラーが発生した場合は、画面にエラー名が表示され、エラーの原因となっている入力欄に「！」マークが表示されます。

エラーの意味は以下の通りです。

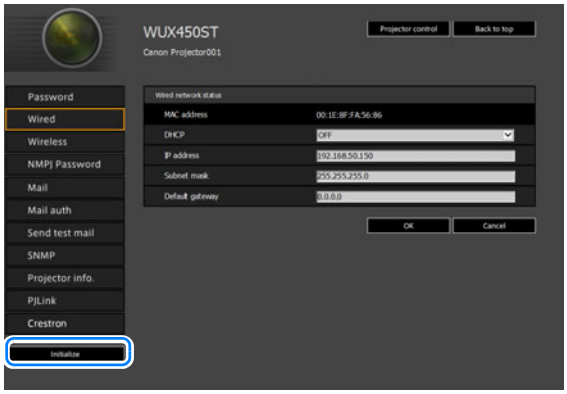
エラー	意味
Input error	各設定画面で有効範囲外の設定がされた。
Password setting error	設定したパスワードと確認パスワードが一致しない。
Invalid SMTP	SMTP サーバーの IP アドレスが設定されていない。
System failed to connect SMTP server.	テストメール送信時に SMTP サーバーとの接続に失敗した。
System failed to connect POP3 server.	テストメール送信時に POP3 サーバーとの接続に失敗した。

エラー	意味
System doesn't support this auth type.	サーバー側でサポートしていない認証タイプを設定した。
System failed to authenticate.	テストメール送信時に認証が失敗した。
The system failed to send the test mail.	SMTP サーバーとの接続または通常発生しないエラーによりテストメール送信が失敗した。
Unknown error	原因不明のエラー。

ネットワークの設定を工場出荷時の設定に戻す

1 「ネットワーク設定画面の表示」(P116) の手順 1 ～ 3 を行い、セッティング画面を表示します。

2 [Initialize] をクリックします。



3 確認画面が表示されるので、[OK] をクリックします。

■ エラー通知メール

プロジェクターにエラーが発生したときは、次のエラー表のメッセージが英文で送信されます。

エラー表

温度に関するエラー	件名	Temperature abnormality
	本文	The temperature inside the projector is too high for some reason or the outside air temperature is higher than the specified one. If the problem is inside the projector, check whether the projector is installed and operated normally, turn off the projector to cool its inside, and retry projection. If the same warning occurs again, the projector may be defective. Contact your dealer.
	内容	プロジェクター内部の温度が何らかの異常で高温になっているか、外気温度が規定以上になっています。プロジェクター側の異常の場合は、設置や操作が正しく行われているか確認し、電源プラグをコンセントから抜き、プロジェクターの内部をしばらく冷やしてから投写してください。吸気口または排気口がふさがれているときは、ふさいでいるものを取り除いてください。再度、同じワーニングが出る場合は、本体の故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
ランプに関するエラー	件名	Faulty lamp
	本文	The lamp has burnt out. Replace the lamp with a new one. If the same warning occurs again, the lamp drive circuit may be defective. Contact your dealer.
	内容	ランプが切れました。新しいランプに交換してください。ランプを交換しても同じワーニングが表示される場合は、ランプの駆動回路などの故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
ファンに関するエラー	件名	Faulty cooling fan
	本文	The cooling fan or another component may be defective. Contact your dealer.
	内容	冷却ファンまたはその他の故障が考えられます。電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに接続して電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

エアフィルターに関するエラー	件名	Faulty air filter unit
	本文	The air filter unit is not installed properly. Check whether the air filter unit is installed properly. If it is installed properly, the air filter unit detection switch may be defective. Contact your dealer.
	内容	エアフィルターの装着異常です。エアフィルターを正しく装着し電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが表示される場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
電源に関するエラー	件名	Faulty power supply
	本文	The voltage of part of the power supply is abnormally high or any other problem has occurred in the power supply. Contact your dealer.
	内容	電源異常です。電源ユニットの電圧異常か、MAIN 基板・RGB 基板の起動エラーが考えられます。電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに接続して電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

コンピューターからプロジェクターを制御する

本機を有線 LAN または無線 LAN に接続することで、ネットワーク経由でコンピューターから本機の制御が行えます。

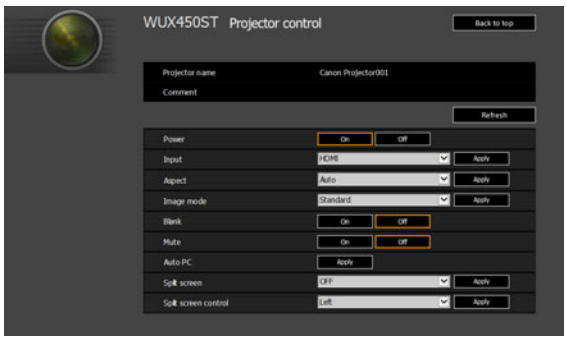
1 **コンピューターとプロジェクターの電源を入れます。**

2 **ウェブブラウザを起動し、アドレスに「http://（プロジェクターのIPアドレス）」を入力して［Enter］キーを押します。**
プロジェクターのウェブ画面が表示されます。

工場出荷時の IP アドレス（有線）は「192.168.254.254」、IP アドレス（無線）は「192.168.253.254」です。DHCP 設定の場合はネットワーク管理者にプロジェクターの IP アドレスをお問い合わせください。プロジェクターのメニューから、IP アドレスを確認することができます。

3 **ウェブ画面の［Projector control］をクリックします。**
パスワードの入力画面が表示されます。

4 **パスワード入力画面にユーザー名とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。**
工場出荷時のユーザー名は「root」、パスワード「system」です。
プロジェクターコントロール画面が表示されます。



この画面でプロジェクターの制御を行います。

項目	説明
Projector name	接続しているプロジェクター名が表示されます。(P128)
Comment	プロジェクターの設置場所などのコメントを表示します。(P128)
Refresh	表示内容を最新の情報に更新します。
Power	プロジェクターの電源をオン / オフします。
Input	入力信号を選択し、[Apply] をクリックすると、入力信号が切り換わります。(P42)
Aspect	アスペクトを選択し、[Apply] をクリックすると、アスペクトが切り換わります。(P48)
Image mode	イメージモードを選択し、[Apply] をクリックすると、イメージモードが切り換わります。(P52)
Blank	ブランク設定のオン / オフを切り換えます。(P54)
Mute	ミュート設定のオン / オフを切り換えます。(P26)
Auto PC	[Apply] をクリックすると、オート PC が実行されます。(P44)
Split screen	2 画面機能の設定を選び、[Apply] をクリックすると、2 画面表示に切り換わります。(P65、P143)
Split screen control	2 画面の操作権設定を選び、[Apply] をクリックすると、操作権の対象が切り換わります。(P65)
Information	画面上部に制御結果や制御エラーの情報が表示されます。

5 **作業が終わったら、[Back to top] をクリックし、最初のウェブ画面に戻ります。**

インフォメーション

投写中の映像の信号形式や、本機固有の情報を確認できます。

メニュー	機能
モデル名	機種名が表示されます。
入力信号	選択中の入力信号の詳細です。 「信号種別」「信号解像度」「周波数」「カラーフォーマット」などの情報が表示されます。
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアのバージョンです。
シリアル No.	本機固有のシリアルナンバーです。
IP アドレス（有線）*	有線でネットワーク接続しているときの IP アドレスです。
IP アドレス（無線）*	無線でネットワーク接続しているときの IP アドレスです。
メール送信元アドレス *	エラーメールの送信元メールアドレスです。（P124）
メール送信先アドレス *	エラーメールの送信先メールアドレスが設定されているかを、「未設定」または「設定済み」で表示します。（P124）
プロジェクター名 *	ネットワーク上での本機の識別名です。
コメント *	本機の設置場所などのコメントが表示されます。（P128）
システム情報 ID	システムの情報です。通常は表示されません。

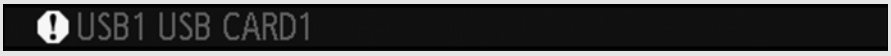
* ネットワーク機能が［切］のとき、値は表示されません。
有線 LAN、無線 LAN の機能が「入」の設定と「切」の設定によって値が表示されない場合があります。（○表示、×非表示）

メニュー 有線 / 無線	切 / 切	入 / 切	入 / 入（Pj AP）	切 / 入（Pj AP）	切 / 入（Infra）
IP アドレス（有線）	×	○	○	×	×
IP アドレス（無線）	×	×	○	○	○
メール送信元アドレス	×	○	○	○	○
メール送信先アドレス	×	○	○	○	○
プロジェクター名	×	○	○	○	○
コメント	×	○	○	○	○

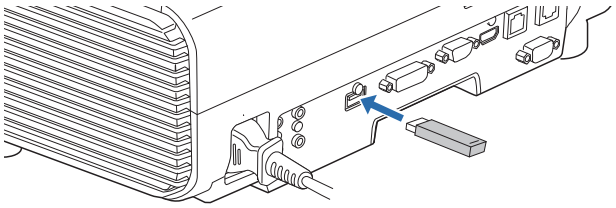
USB メモリの画像を投写する

USB端子に接続したUSBメモリ内のJPEG画像を投写することができます。
選択した画像を投写したり、スライドショーで投写することができます。
表示できるJPEG画像のサイズは**最大10912×8640**ドットです。

- セキュリティ機能付きの USB フラッシュメモリは、本機で認識できず、ドライブ選択できない場合があります。
- ファイルシステムへのマウントに失敗した場合、ドライブ名がグレー表示となり、以下のアイコンが表示されます。その場合、その USB ドライブは使用できません。

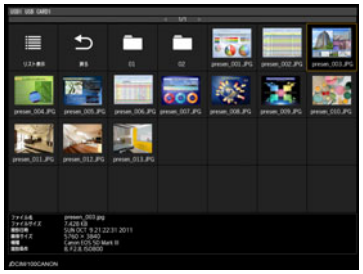


1 **USBメモリをUSB端子に接続します。**



USB メモリは、本機の USB 端子に直接接続するか、USB ケーブルで USB マルチカードリーダを接続します。USB ハブを介して接続した場合は、USB メモリを認識しません。

2 **【INPUT】ボタンを押し、［USB］を選びます。**
USB メモリ内の JPEG ファイルのサムネイル一覧が表示されます。



- 表示できるのは、最大 6 ドライブ、999 フォルダ、9999 ファイルです
- 複数のドライブが設定されている場合は、ドライブ選択画面が表示されるので、**【▲】【▼】**ボタンでドライブを選択し、**【OK】**ボタンを押してください。そのドライブ内のファイル一覧が表示されます。
- ファイル選択画面とドライブ選択画面は、サムネイル表示とリスト表示の切り換えができます。
- 入力信号を［USB］にした場合、LAN 入力との 2 画面表示は無効になります。

3 **投写するファイルを選択します。**

USB メモリ内の JPEG ファイルの投写時は、MB リダクションの設定はできません。(P92)

4 **必要に応じて表示を切り換えます。**

【▲】ボタンで、前の画像に切り換わります。
【▼】ボタンで、次の画像に切り換わります。
【◀】ボタンで、画像が左 90° 回転します。
【▶】ボタンで、画像が右 90° 回転します。

5 **表示を終了するには、USB メモリを抜き取ります。**

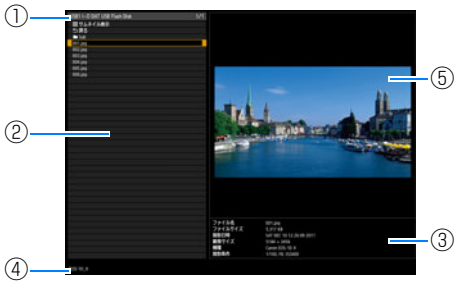
USB メモリ内の画像を自動的に順次表示していくスライドショー機能もあります。(P139)

USB ファイルブラウザの見かた

USB メモリをプロジェクターに接続すると、USB ファイルブラウザが表示されます。USB ファイルブラウザでは、メモリ内のファイルリストを操作して、投写する画像ファイルを選びます。

サムネイル表示

リスト表示



①リストタイトル

現在選択されているドライブ名と表示中のファイルリストのページ数が表示されます。（表示ページNo. ／総ページ数）

②ドライブ / ファイルリスト

認識された USB メモリやフォルダ内のファイルリストがファイル名順に表示されます。方向ボタンで画像ファイルまたはフォルダを選びます。表示されるアイコンは、以下になります。

アイコン	機能
	正常に認識された USB メモリ
	認識に失敗した USB メモリ（サムネイル表示時）
	認識に失敗した USB メモリ（リスト表示時）
	カードリーダなどにリムーバブルメディアが接続されていないとき
	リスト表示に切り替え（サムネイル表示時）
	サムネイル表示に切り替え（リスト表示時）
	上位フォルダに移動
	フォルダ
	サポートされていない JPEG 形式のファイル（サムネイル表示時）

ファイル名、およびフォルダ名にアラビア語が使用されている場合、正しく表示されません。

③ファイル情報エリア

ファイルリストで選んだ画像の情報が表示されます。

- ファイル名
- ファイルサイズ
- 撮影日時
- 画像サイズ
- 機種
- 撮影条件

④ファイルパスエリア

ファイルリストで選んだ画像のパス名が表示されます。

⑤プレビューエリア（リスト表示時）

ドライブ / ファイルリストで選んだ画像が縮小表示されます。サポートされていない JPEG 形式を選んだ場合、? が表示されます。

フォルダを選んでいるときは、フォルダアイコンが表示されます。

画像を選んで投写する

USBファイルブラウザで画像を選び、投写する操作を説明します。

■ ドライブを選ぶ

USB端子に直接USBメモリを接続した場合、この操作が不要な場合があります。
メモリスロットを複数持つUSBメモリカードリーダーを接続すると、ファイルリストにドライブ（メモリスロット）のリストが表示されます。
メモリカードをセットしたドライブを【▲】【▼】ボタンで選び、【OK】ボタンを押します。

- 使用できるドライブは白、使用できないドライブはグレーで表示されています。

■ フォルダを選ぶ

画像ファイルがフォルダ内にあるときは、フォルダを選択できます。

- 上位のフォルダに戻るときは、[⮌]を選択します。

■ 画像ファイルを選んで投写する

リスト表示のときは、画像ファイルを選ぶと画像がプレビューエリアに縮小表示されます。
【OK】ボタンを押すと画像をスクリーン全面に投写します。
上位のフォルダに戻るときは、[⮌]を選択します。

■ 表示形式を変更する

ドライブリストまたはファイルリストの［サムネイル表示］または［リスト表示］を選び、【OK】ボタンを押すと表示形式が切り替わります。

投写された画像を操作する

画像投写中は、次の操作ができます。
【▲】【▼】ボタンで前後の画像を投写できます。
【◀】【▶】ボタンで画像を左右に90°回転できます。
【OK】ボタンを押すと、USB ファイルブラウザに戻ります。

- スライドショー表示中でも、ボタン操作は反映されます。ただし、アニメーション効果中を除きます。
- 画像に回転情報が含まれているときは、自動的に適切な向きに回転して表示します。

USB メモリからスライドショーで投写する

USBメモリに保存されている複数の画像を、一定の間隔で連続して投写できます。

■ 画像ファイルのフォルダを用意する

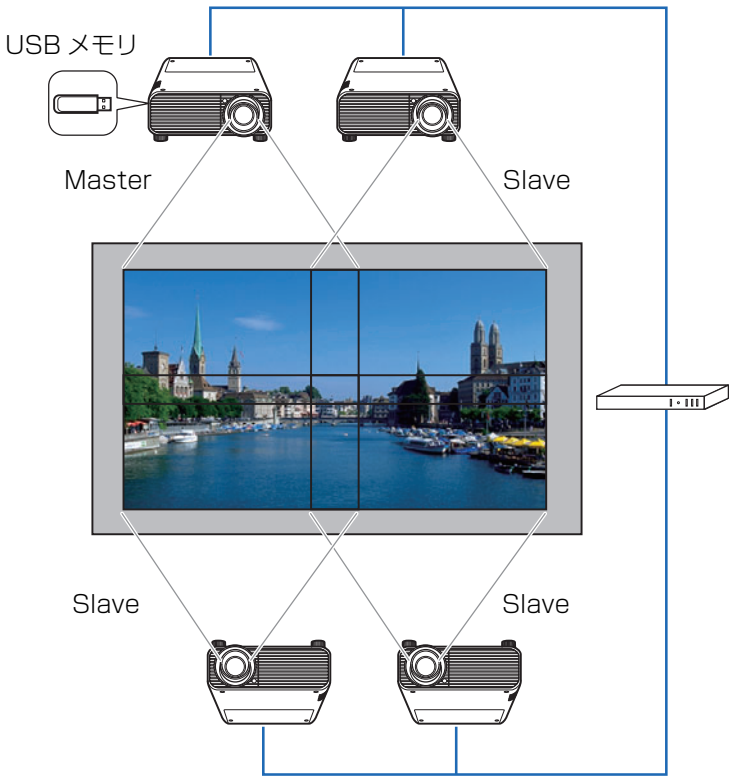
スライドショーでは、同一フォルダ内の画像ファイルをファイル名順に表示します。USBメモリにフォルダを作成し、投写する画像ファイルを保存しておいてください。

■ スライドショーの投写間隔を設定する

メニューの［スライドショー間隔］（P67）で投写間隔を設定してください。

PC フリーマルチプロジェクション機能を使って投写する

USBメモリに保存されたJPEG画像を最大9台のプロジェクターで分割して大画面に投写します。
本機能では、投写画面の左上の部分を投写するプロジェクター 1 台を Master、それ以外のプロジェクター 1 ～ 8 台を Slave と定義して、Master プロジェクターで全体の操作をします。



■ 投写準備をする

1 プロジェクターの設置をします。
エッジブレンディング（P79）やキーストーン補正（P77）などの［設置設定］や［イメージ調整］を実行して画面の重なり部分を調整してください。

2 ネットワーク機能を有効にします。
有線でネットワークに接続し、ネットワーク機能（有線 / 無線）を［入 / 切］または［入 / 入（Pj AP)］（P105）にしてください。

3 Slave プロジェクターの設定をします。
［映像設定］メニューから［PC フリーマルチプロジェクション］、［モード設定］、［Slave］の順に選びます。

Slave に設定するすべてのプロジェクターを設定してください。

4 Masterプロジェクターの設定をします。

［映像設定］メニュー、［PC フリーマルチプロジェクション］から以下の設定を行います。

- ［配置パターン設定］
  プロジェクターの台数と配置パターンを設定します。

台数	配置パターン（行×列）
2	【1 × 2】 1 2　【2 × 1】 1 / 2
3	【1 × 3】 1 2 3
4	【1 × 4】 1 2 3 4　【2 × 2】 1 2 / 3 4
5	【1 × 5】 1 2 3 4 5
6	【1 × 6】 1 2 3 4 5 6　【2 × 3】 1 2 3 / 4 5 6　【3 × 2】 1 2 / 3 4 / 5 6
7	【1 × 7】 1 2 3 4 5 6 7
8	【1 × 8】 1 2 3 4 5 6 7 8　【2 × 4】 1 2 3 4 / 5 6 7 8
9	【1 × 9】 1 2 3 4 5 6 7 8 9　【3 × 3】 1 2 3 / 4 5 6 / 7 8 9

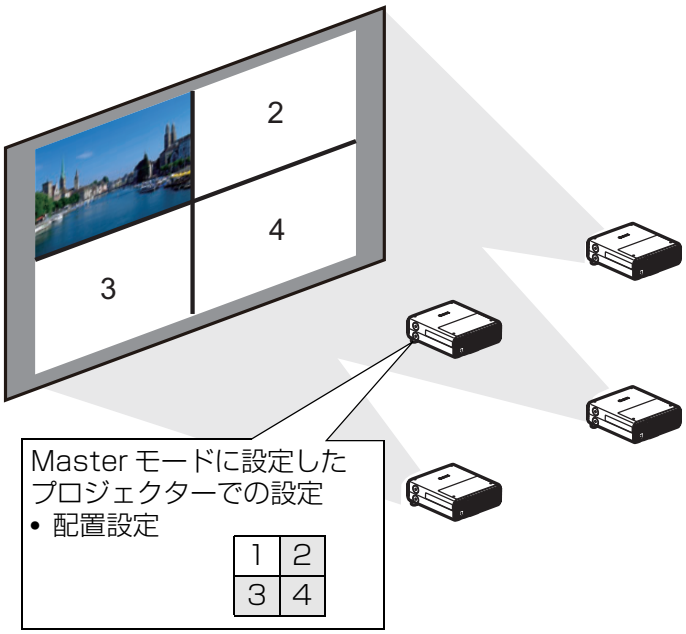
Master は常に画面左上を投写し、配置番号は 1 となります。

- ［転送先プロジェクター設定］
  Slave プロジェクターの IP アドレスを設定します。
- ［スライドショー間隔］
  スライドショー間隔を設定します。（最小 5 秒～最大 10 分）
- ［アニメーション効果］
  スライドショー時のアニメーション効果を設定します。

5 **転送先プロジェクターの確認をします。**

Master プロジェクターから各プロジェクターの配置番号を確認します。

［映像設定］メニューから［PC フリーマルチプロジェクション］、［転送先プロジェクター設定］、［確認］の順に選択してください



対応する番号に切り換わらない場合、IP アドレスの設定を見直してください。

投写中に電源を切り、もう一度電源を入れたときは、最後に投写していたフォルダ内の画像を先頭から自動でスライドショーで投写します。

2 画面を並べて表示する

2 系統の映像入力を並べて投写することができます。これを**「2 画面表示」**といいます。2 画面表示にすると、それまで表示していた画面が左側に表示され、新しく右側に別の画面が表示されます。【INPUT】ボタンにより、各画面の映像入力を変更することができます。ただし、左画面と右画面に同一の入力信号（端子）を指定できません。

- LAN 入力と USB 入力を組み合わせて 2 画面表示にすることはできません。
- 2 画面表示中は、［設置設定］メニューの［ズーム］(P77) は使えません。

1 本機に 2 系統の映像を入力します。

2 リモコンの【SPLIT】ボタンを押すか、【MENU】ボタンを押し、［映像設定］タブを選びます。

リモコンの【SPLIT】ボタンを押した場合は、手順 4 へ進んでください。

3 ［二画面］を選び、［入］にしてください。

- 画面の中央に数字が表示されます。左画面は 1、右画面は 2 です。数字の表示されているほうに「画面の操作権」があり、映像の音声が出力されます。
- 2 画面のイメージ調整の設定は［イメージ優先］（P74）から行ってください。
- ［反転表示］（P76）、［スクリーンアスペクト］（P76）、［キーストーン］（P77）、［デジタルイメージシフト］（P78）、［プロフェッショナル設定］（P78）、［ユーザー画像登録］（P86）など一部の機能が使用できません。
- 一画面で表示しているときと比べ、イメージモードの色味が異なります。

4 画面中央に ▷ または ◁ が出ているときに、操作権を移動することができます。

5 【INPUT】ボタンを押し、操作権のある画面の入力信号を選択します。

操作権のある側
オレンジ色表示
（入力信号の切り換え対象）

現在の入力信号
●緑色表示
（操作権のある側）

現在の入力信号
○白色表示
（操作権のない側）

- ［LAN］または［USB］の入力時は、左画面と右画面の横幅比率が 50：50 で表示されます。（P65）
- 2 画面表示中にプロジェクターがいったんスタンバイ状態やランプオフ状態になると、次に起動した場合、1 画面の表示（操作権のある画面の入力信号）に戻ります。

エッジブレンディング機能を使って投写する

複数台のプロジェクターを並べて投写するとき、各プロジェクターから投写される映像の重なった部分の明るさを調整して目立たなくし、投写します。

■ 基本的な使いかた

2台のプロジェクターを左右に並べて投写する場合について説明します。

1 **［設置設定］メニューから、［プロフェッショナル設定］、［エッジブレンディング］、［調整］の順に選びます。**

- すでにエッジブレンディングの設定を行っている場合、［調整］を選んだときに機能します。
- 調整を初めから行う場合は、［リセット］を選んでください。

2 **［マーカー］を［入］にします。**

映像に赤（調整の開始位置を示す開始マーカー）と緑（調整の終端位置を示す終端マーカー）の線（マーカー）が表示されます。

初期状態では緑と赤のマーカーが重なり、赤の線しか見えません。

3 **映像が重なっているサイドの［開始位置］を変更し、重なっている映像の外側端に開始マーカーを移動します。**

4 **［幅］を変更し、重なっている映像の内側端に終端マーカーを移動します。**

開始マーカーと終端マーカーの間をブレンディング領域と呼びます。この領域がグラデーション加工され、重なった状態で他の部分と同じ明るさになるように調整されます。片側の映像の設定が終わったら、もう片側の映像も同様にブレンディング領域を設定してください。その際、それぞれの映像のブレンディング領域が同じになるよう調整してください。

5 **［マーカー］を［切］にします。**

■ 色を調整する

映像を重ねて投写すると、重なった部分の色つき、色ずれが目立つことがあります。ブレンディング色調整により、映像の重なり部分を目立たなくすることができます。

1 **［設置設定］メニューから、［プロフェッショナル設定］、［エッジブレンディング］、［調整］、［ブレンディング色調整］、［調整］の順に選びます。**

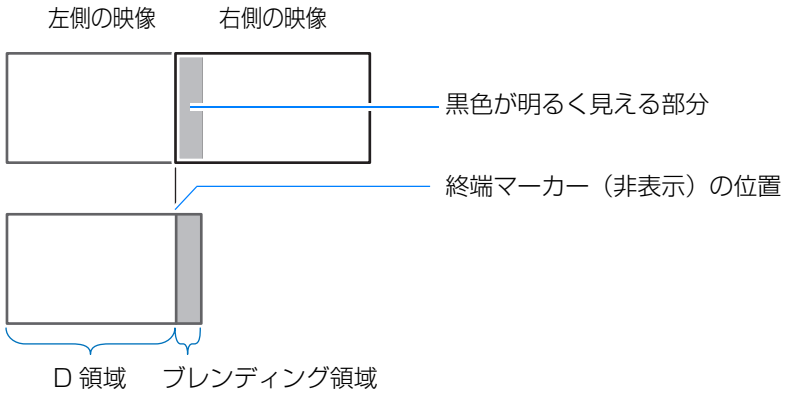
2 **投写映像を見ながら、重なり部分の色つきが残らないように各色調整します。**

まず［白］で赤・緑・青を同時調整し、さらに［赤］、［緑］、［青］でそれぞれの色味を個別に調整します。

3 **すべてのプロジェクターについて同様の調整を行います。**

■ 黒レベルを合わせる

映像を重ねて投写すると、重なった部分の黒色が他の部分よりも明るく投写されます。重なっていない部分の黒レベル調整をすることで、重なり部分を目立たなくすることができます。



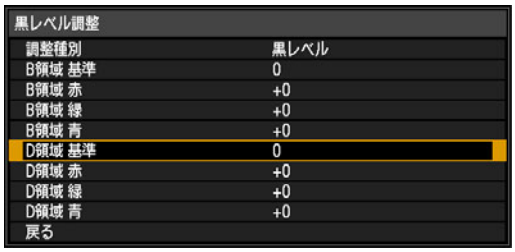
映像の重なっていない終端マーカーの内側部分をD領域と呼び、調整します。
本来は終端マーカーから順にA、B、Cの領域があります。
ここでは、A、B、Cの幅を初期値の0にしたまま、D領域のみを調整する場合について説明します。

調整を行う前に［無信号時画面］を［黒］に設定し、入力信号のない映像を投写した状態で照明を消すなどして、黒色の画像が確認できるようにしてください。（P86）

1 **[設置設定] メニューから、[プロフェッショナル設定]、[エッジブレンディング]、[調整]、[黒レベル調整]、[調整] の順に選びます。**

2 **[調整種別]、[黒レベル] の順に選びます。**

3 **[D 領域 基準] を選び、投写映像を見ながらブレンディング領域と D 領域の明るさと色が同じになるように調整します。**

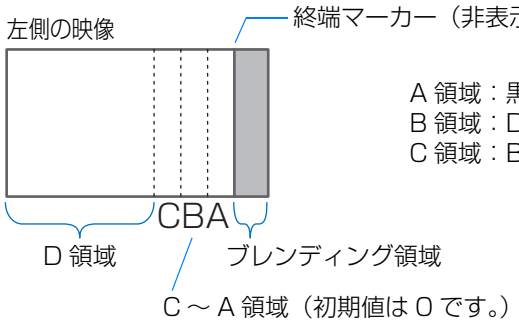


[D 領域 基準] で黒レベルの明るさ、[赤]、[緑]、[青] で黒レベルの色味を調整します。

4 **すべてのプロジェクターについて同様の調整を行います。**

■ つなぎ目をよりなめらかにする

D 領域の右端（ブレンディング領域に接する部分）の黒レベルが周囲と違って見えることがあります。
B 領域の黒レベルを調整することにより、つなぎ目をより滑らかにすることができます。
各領域では、以下のような調整をします。



A 領域：黒レベルの調整はできません。
B 領域：D 領域とは別に黒レベルを調整します。
C 領域：B 領域と D 領域の黒レベルを滑らかにつなげます。

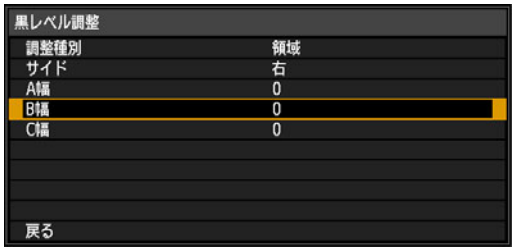
ブレンディング領域が投写映像に対して複数（上下左右方向）表示される場合、A、B、C の領域の幅をそれぞれに設定する必要があります。
ここでは、B 領域を調整する方法を説明します。

1 **[設置設定] メニューから、[プロフェッショナル設定]、[エッジブレンディング]、[調整]、[黒レベル調整]、[調整] の順に選びます。**

2 **[調整種別]、[領域] を選び、[サイド]、[右] の順に選びます。**

3 **［B幅］を選び、B領域の幅を設定します。**

B 領域の幅を黒レベルが違って見える部分に大まかにあわせます。
D 領域の幅が狭くなります。



4 **［調整種別］、［黒レベル］の順に選び、［B領域 基準］を映像を見ながら調整します。**

B 領域の黒レベル調整の結果は上下左右、すべてのサイドに反映されます。

5 **A、B、Cの領域の幅を映像を見ながら調整します。**

6 **必要に応じてB領域の黒レベルを再調整します。**

想定される投写画像で主要となる階調をターゲットとして「ブレンディング色調整」を行うことで、重なった部分の色つき、色ずれを軽減できる場合があります。

「ブレンディング色調整」などの調整を行っても、画像の重なり部分に色つきや輝度差が残る場合があります。

［調整種別］、［黒レベル］の［赤］［緑］［青］を調整することで、より詳細に調整できます。

■ 4 点補正を行う

映像を重ねて投写する場合、複数台のプロジェクターの投写位置を正確に合わせる必要があります。ブレンディング領域のそれぞれの角ごとの位置を調整し、基準となるプロジェクターのブレンディング領域に合わせることができます。

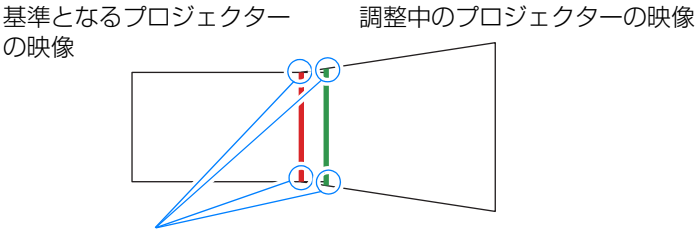
- 「基本的な使いかた」（P144）で、あらかじめ［サイド］の調整をしてください。
- ［キーストーン］の設定が［4 点補正］でかつ、スクリーンアスペクトが［16：10］のとき、エッジブレンディングの幅が 12 以上のサイドについて調整できます。
- リセットは［キーストーン］（P77）から実行してください。
- エッジブレンディング幅が少ないと、調整量が少なくなる場合があります。

1 **基準となるプロジェクターのキーストーン（P77）およびエッジブレンディング（P79）を設定し、エッジブレンディングのマーカーを［入］（P144）にします。**

2 **［設置設定］メニューから、［プロフェッショナル設定］、［エッジブレンディング］、［調整］、［4点補正］の順に選びます。**

3 調整する点を選び、画面全体が均整のとれた位置になるよう調整します。

4 投写画面を見ながら基準となるプロジェクターのマーカーと、調整中のプロジェクターのマーカーができるだけ重なるように調整します。



重なり部分の４隅の位置をそれぞれ調整します。
調整する点の位置を補正すると、重なり部分の反対側の点も移動し、画面全体が補正されます。

5 基準となるプロジェクターのエッジブレンディングのマーカーを［切］（P144）にします。

その他

安全にお使いいただくために

はじめに

基本編

設置のしかた

接続のしかた

投写のしかた

便利な機能

応用編

メニューの使いかた

メニューの説明

高度な投写

その他

メンテナンス

製品の仕様

困ったときには

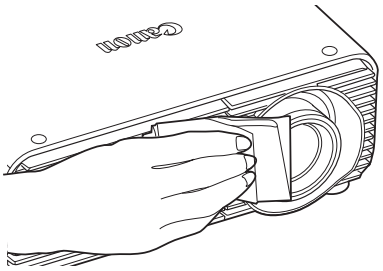
本体を清掃する

本機に、ホコリなどがたまらないようにこまめに清掃してください。
レンズ表面が汚れると、投写する映像に影響が出る場合があります。

⚠注意

本体を清掃するときは、必ず本体の電源を切り、冷却ファンが停止してから電源プラグをコンセントから抜き、1 時間以上経過してから行ってください。電源を切った直後は、本体がたいへん高温になっているため、やけどやけがをする原因となることがあります。

本体や本体操作部の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布を浸してよく絞り、ふき取ってから乾いた布で仕上げてください。



- ベンジンや揮発性の清掃液を使用すると、変質したり塗装がはげることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書きをよくお読みください。
- レンズの清掃は、カメラ用に市販されているブロワーブラシやレンズクリーナーを使用してください。レンズの表面は傷が付きやすいので、固い布やティッシュペーパーなどは使用しないでください。

定期的に内部の清掃を依頼する

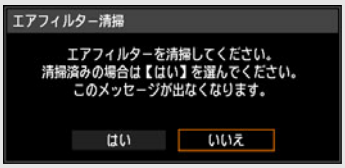
長い間清掃をしないと内部にホコリがたまり火災や感電の原因となることがあります。1 年に 1 度は内部の清掃をキヤノンお客様相談センターにご相談ください（有料）。特に湿気の多くなる梅雨の前に清掃をすると、より効果的です。

エアフィルターの清掃

⚠注意

エアフィルターは、内部のレンズやミラーをホコリや汚れから守っています。エアフィルターにホコリがたまると、空気の流れが悪くなり、内部の温度が上昇して故障の原因となります。

エアフィルターの清掃が必要な時間になると、本機の電源を入れたときに次の画面が表示されますので、エアフィルターを清掃してください。

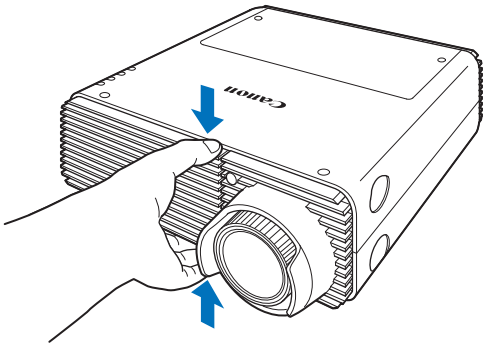


- この画面の表示中は【◀】、【▶】、【OK】、【POWER】ボタンのみ反応します。（【POWER】ボタンを押すと「もう一度 POWER ボタンを押すと電源が切れます」というメッセージが表示されます。）
- 10 秒後にこの画面が消えると、すべてのボタンが操作できるようになります。

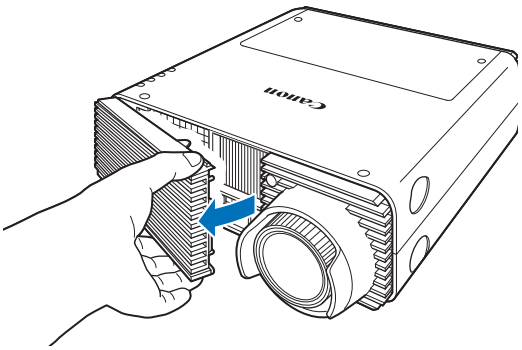
エアフィルターの清掃は次の手順で行ってください。

1 **本機の電源を切り、電源プラグを抜きます。**

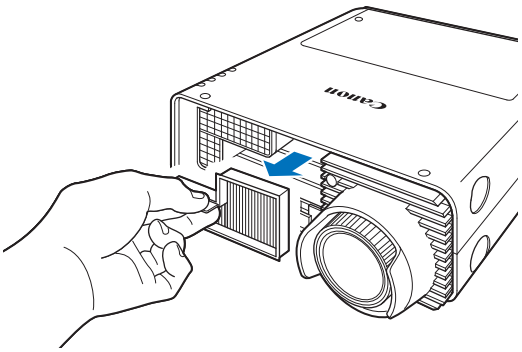
2 フィルターカバーの上下を押してロックを解除しながら引き出し、取り外します。



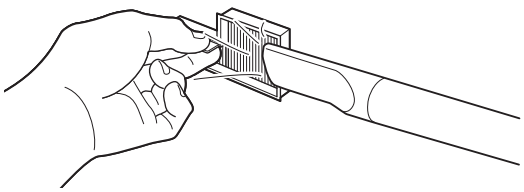
3 フィルターカバーを開いて外します。



4 エアフィルターを取り外します。



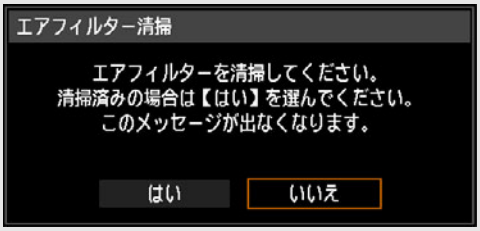
5 エアフィルターは、本体前面のエアフィルターの取っ手に指をかけてエアフィルターを取り外し、掃除機でホコリを吸い取ります。



6 逆の手順でで清掃したエアフィルターを取り付けます。

⚠ エアフィルターは水洗いしないでください。エアフィルターの破損およびプロジェクターの故障の原因となることがあります。

- エアフィルターの清掃後、本機の電源を入れたときにフィルター交換の画面が表示されたら「はい」を選んで【OK】を押してください。エアフィルターカウンターがリセットされ、フィルター交換の画面が表示されなくなります。



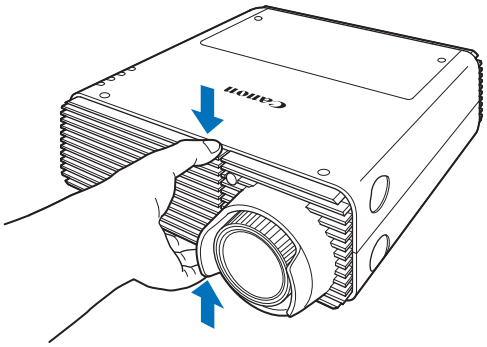
- ［エアフィルター清掃警告表示］を［切］に設定した場合は、この画面は表示されません。（P84）手動でエアフィルターカウンターをリセットしてください。（P94）

エアフィルターを交換する

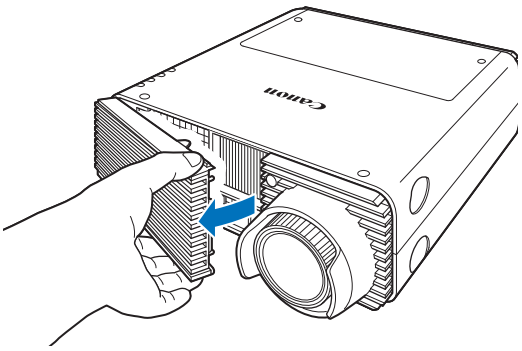
エアフィルターの交換は次の手順で行ってください。

1 **本機の電源を切り、電源プラグを抜きます。**

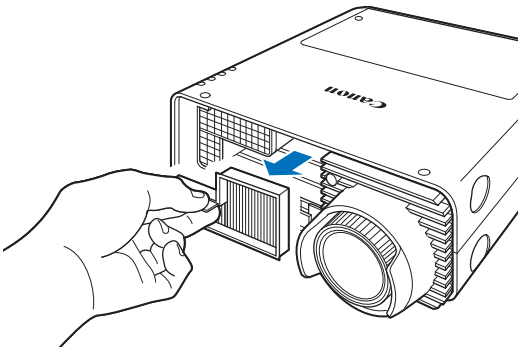
2 **フィルターカバーの上下を押してロックを解除しながら引き出し、取り外します。**



3 **フィルターカバーを開いて外します。**



4 エアフィルターを取り外します。



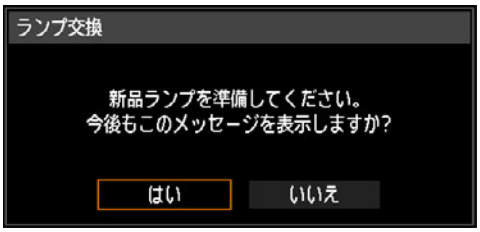
5 逆の手順で新しいエアフィルターを取り付けます。

- エアフィルターはていねいに扱ってください。破損するとエアフィルターの効果が損なわれます。
- ランプの交換時にエアフィルター（品番：RS-FL02）の清掃または交換をお薦めします。
- エアフィルターのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 交換エアフィルター　品番：RS-FL02

ランプを交換する

ランプの使用時間が一定の時間を越えると、本機の電源を入れるたびに、次の画面（2 種類）が 10 秒間表示されます。

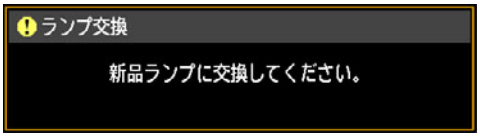
2,700時間以上3,000時間未満



この画面が表示されたら、交換ランプを用意してください。

- この画面の表示中は【◀】、【▶】、【OK】、【POWER】ボタンのみ使用できます。
- 【POWER】ボタンを押すと「もう一度 POWER ボタンを押すと電源が切れます」というメッセージが表示されます。
- 10 秒後に上の画面が消えると、すべてのボタンが操作できるようになります。
- 「今後もこのメッセージを表示しますか？」で［いいえ］を選ぶと、この画面は表示されなくなります。

3,000時間以上



ランプ交換画面が表示されたら、「ランプ交換手順」（P155）を参照してください。
- この画面の表示中は、【POWER】ボタンのみ使用できます。
- 【POWER】ボタンを押すと「もう一度 POWER ボタンを押すと電源が切れます」というメッセージが表示されます。
- 10 秒後に上の画面が消えると、すべてのボタンが操作できるようになります。
- ランプの使用時間はシステム設定メニューの［ランプカウンター］で確認してください。（P94）
- ［ランプ交換警告表示］を［切］に設定した場合は、これらの画面は表示されません。（P84）

注 意

- **ランプ交換画面が表示された場合、ランプが破裂する可能性が高くなっています。すみやかに新しいランプと交換してください。**
- **3,000時間は交換の目安であり、ランプの寿命を保証するものではありません。**
- **ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間は大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。**
- **使用済みランプを捨てる時は各自治体の条例に従って廃棄してください。**

交換用のランプについて

本機では、次のランプを使用しています。
ランプの品番：RS-LP08
ご購入の際は、販売店にご相談ください。

警 告

ランプが点灯しなくなって交換するときのご注意
電源投入時や使用中に点灯しなくなったときは、ランプが破裂している可能性があります。その場合、絶対にお客様自身でランプの交換作業は行わず、必ず専門の技術者または販売店に依頼してください。また、本機を天井から吊り下げて設置している場合、ランプカバーを開けたり、ランプを交換するなどのときは、ランプが落下する可能性があります。ランプの交換作業時は、ランプカバーの真下に立たず、横から作業してください。万一、ランプが破裂し破片などを吸い込んだり目や口に入ったときは、すみやかに医師にご相談ください。

注 意

ランプを交換するときは、本体の電源を切り、冷却ファンが停止してから電源プラグをコンセントから抜き、1 時間以上経過してから行ってください。電源を切った直後は、ランプが大変高温になっているため、やけどやけがをする原因となることがあります。

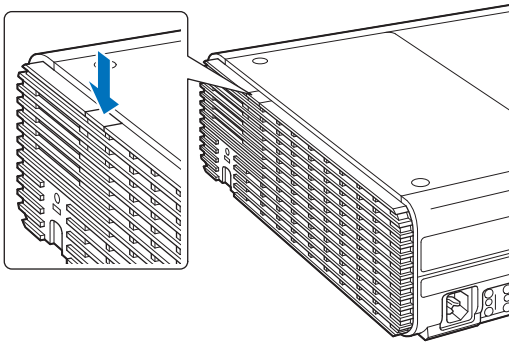
注 意

- **ランプは、必ず指定のものを使用してください。**
- **ランプのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。キヤノンのホームページ（https://store.canon.jp/online/c/c1611/）からも購入できます。**
- **ランプ交換の際は、内部のガラス面などに触れないでください。投写の性能が下がるなどの原因になります。**
- **ランプに衝撃を加えたり傷つけたりすると、使用中に破裂する場合がありますので、取り扱いにご注意ください。万が一ランプが破裂した場合は、販売店に連絡し、「ランプが点灯しなくなって交換するときのご注意」（P11）の指示に従ってください。**
- **ランプを交換の際は、指定のねじ以外ははずさないでください。**

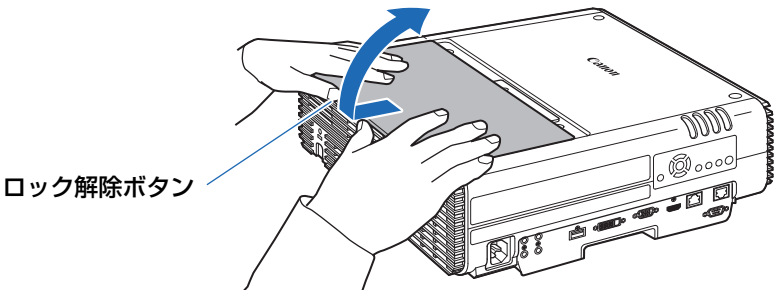
ランプ交換手順

1 本機の電源を切り、電源プラグを抜きます。

2 ランプカバーロック解除ボタンを押してロックを解除します。

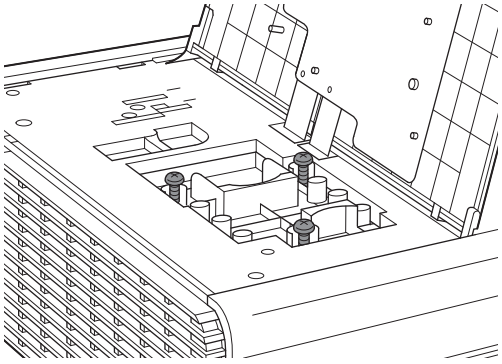


3 ランプカバーロック解除ボタンを押しながらランプカバーを後方へスライドさせ、開きます。

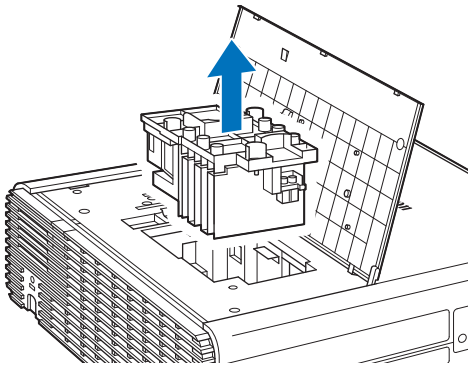


⚠注意 **ランプカバーを後方へスライドさせるときに、ランプカバーで指をはさまないようにしてください。図のように両手でスライドさせることをお勧めします。**

4 ランプユニットにとめてあるネジ 3ヵ所をゆるめます。

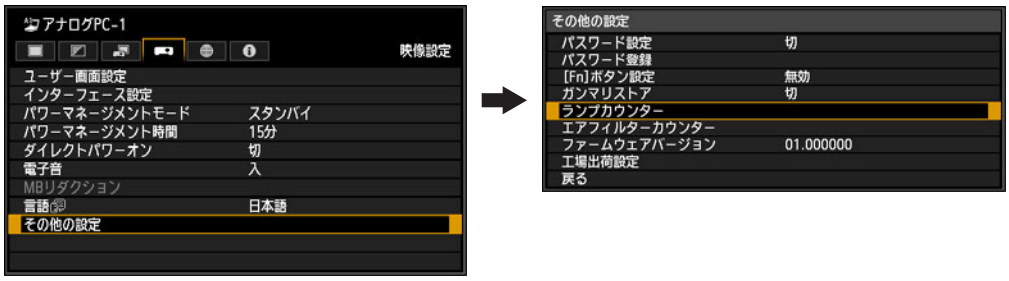


5 ランプユニットを取り外します。

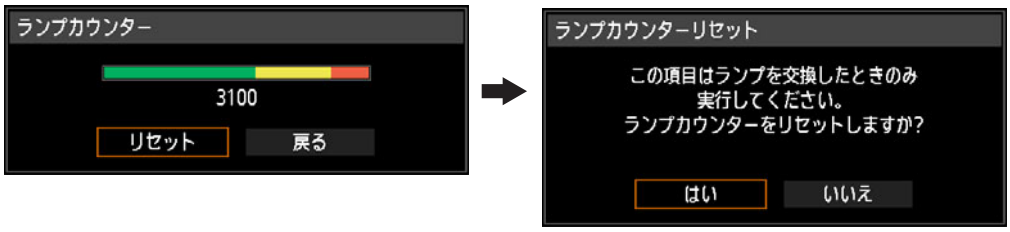


6 逆の手順で新しいランプユニットを取り付けます。

7 電源を入れ、メニューを表示し、[システム設定] - [その他の設定] の [ランプカウンター] を選びます。



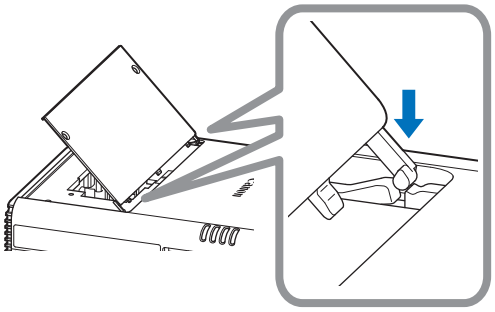
8 ［リセット］を選び、［はい］を選んで、ランプカウンターをリセットします。



- ランプの交換時にエアフィルター（品番：RS-FL02）の清掃または交換をお薦めします。
- エアフィルターのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ ランプカバーが外れたときは

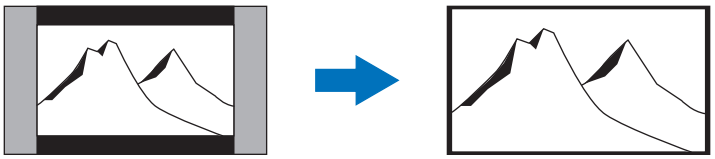
ランプカバーの取り付け部を、本体の溝に合わせ、ゆっくり押し込んでください。



アスペクトとスクリーンアスペクトの関係

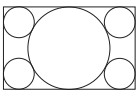
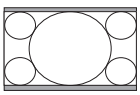
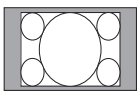
スクリーンアスペクト（P46）とアスペクト（P48）の関係を説明します。
スクリーンのサイズを最大に活かした投写を行うため、スクリーンの縦横比、入力信号の種類などに合わせて、最適なスクリーンアスペクトとアスペクトを選んでください。

- 16：9 の映像ソフトが［オート］で正常に投写されない場合は、アスペクトを［16：9］に設定してください。
- 地上波の映画放送などで、16：9の映像の上下に黒枠があるときは、アスペクトで［ズーム］を選ぶことで、16：9の領域を16：9スクリーンいっぱいに投写することができます。

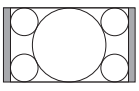
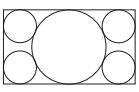
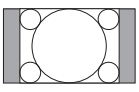


なお［ズーム］は、入力信号や解像度により選択できない場合があります。
- 台形ひずみの補正（P49）を行うときは、スクリーンアスペクトを［4:3 Dイメージシフト］と［16:9 Dイメージシフト］以外に設定してください。

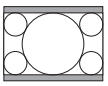
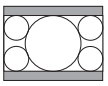
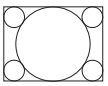
■ 16:10のスクリーンに映像本来のアスペクト比で投写したい場合

映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定（P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［16：10］	［16：10］ ［オート］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［16：9］ ［オート］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［4：3］ ［オート］	

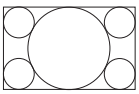
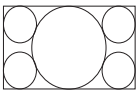
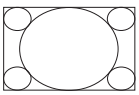
■ 16:9のスクリーンに映像本来のアスペクト比で投写したい場合

映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定（P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［16：9］ ［16：9 Dイメージシフト］	［オート］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［16：9］ ［オート］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［4：3］ ［オート］	

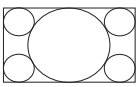
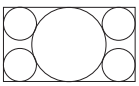
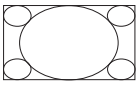
■ 4：3のスクリーンに映像本来のアスペクト比で投写したい場合

映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定 （P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［4：3］ ［4：3 Dイメージシフト］	［オート］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［16：9］ ［オート］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［4：3］ ［オート］	

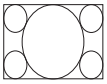
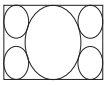
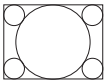
■ 16：10のスクリーンに全面を使って投写したい場合

映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定 （P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［16：10］	［16：10］ ［オート］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［16：10］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［16：10］	

■ 16：9のスクリーンに全面を使って投写したい場合

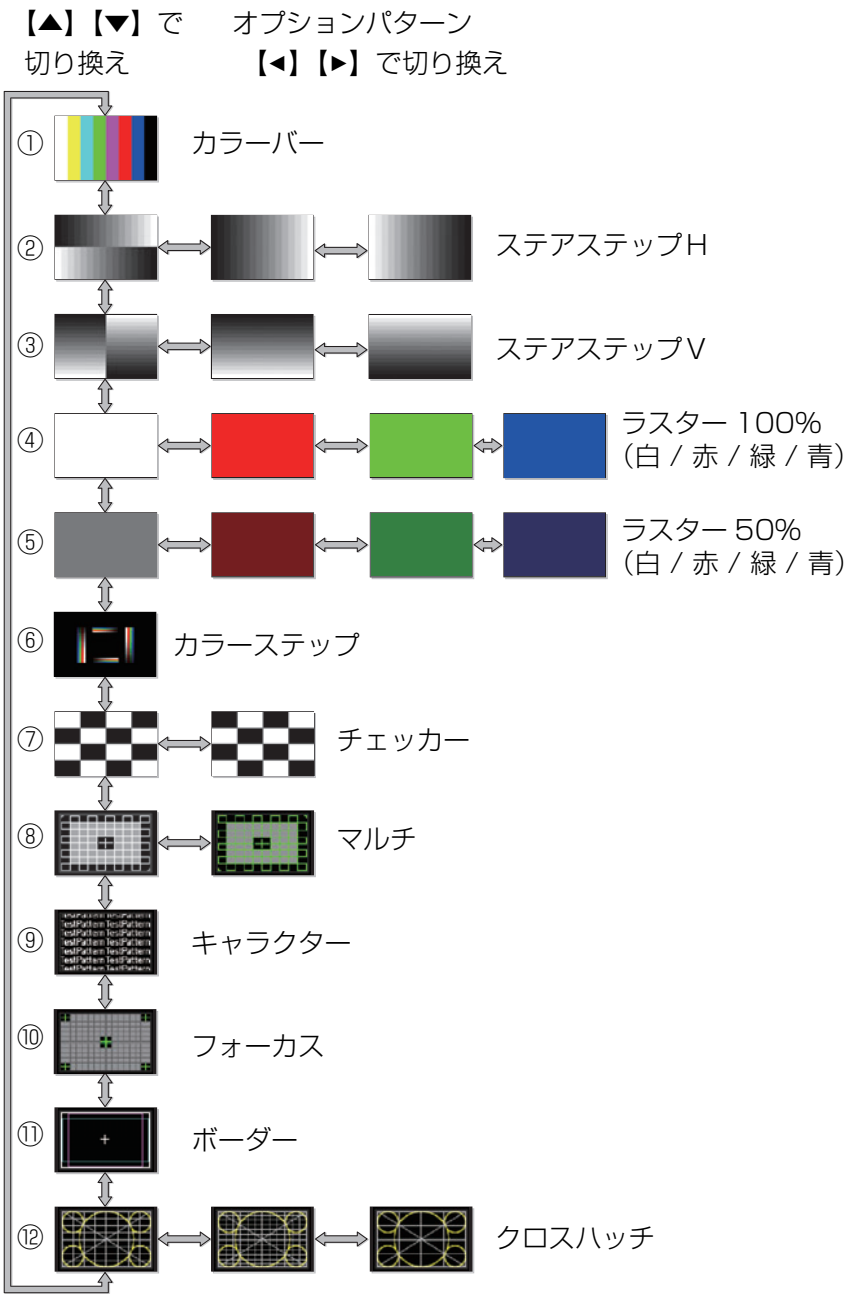
映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定 （P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［16：9］ ［16：9 Dイメージシフト］	［16：9］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［16：9］ ［オート］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［16：9］	

■ 4：3 のスクリーンに全面を使って投写したい場合

映像本来のアスペクト比	スクリーンアスペクトの設定 （P46）	アスペクトの設定（P48）	画面のイメージ
（16：10） 1920 × 1200 1440 × 900 1280 × 800	［4：3］ ［4：3 D イメージシフト］	［4：3］	
（16：9） 1920 × 1080 1280 × 720		［4：3］	
（4：3） 1600 × 1200 1400 × 1050 640 × 480		［4：3］ ［オート］	

表示できるテストパターンについて

［設置設定］メニューの［テストパターン］（P84）で［入］を選ぶと、テストパターン・ダイレクトメニューが表示されます。
テストパターン・ダイレクトメニューの表示中に【▲】【▼】ボタンを押すと、他のテストパターンに切り換えることができます。また、オプションのパターンがある場合、【◀】【▶】ボタンで切り換えることができます。テストパターンが表示されると、表示中のテストパターン名の略称と操作ガイドのダイアログが表示されます。
表示できるテストパターンは、以下のとおりです。



対応信号

本機には、次の信号形式が用意されています。
コンピューターまたはAV機器が下の表のいずれかに対応していれば、オートPC機能などにより入力信号が自動的に判断され、正しい映像を投写することができます。

アナログPC

解像度（ドット）	信号形式	水平周波数（KHz）	垂直周波数（Hz）
640 × 480	VGA	31.469	59.940
720 × 480	—	31.469	59.940
720 × 576	—	31.250	50.000
800 × 600	SVGA	37.879	60.317
848 × 480	—	31.020	60.000
1024 × 768	XGA	48.363	60.004
1280 × 768	WXGA	47.776	59.870
		47.396	59.995
1280 × 800		49.702	59.810
		49.306	59.910
1280 × 960	—	60.000	60.000
1280 × 1024	SXGA	63.981	60.020
1366 × 768	—	47.712	59.790
1400 × 1050	SXGA+	64.744	59.948
		65.317	59.978
1440 × 900	WXGA+	55.935	59.887
		55.469	59.901
1600 × 900	—	60.000	60.000
1600 × 1200	UXGA	75.000	60.000
1680 × 1050	WSXGA+	64.674	59.883
		65.290	59.954
1920 × 1080	—	56.250	50.000
		67.500	60.000
1920 × 1200	WUXGA	74.038	59.950

デジタルPC

解像度（ドット）	信号形式	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
640 × 480	D-VGA	31.469	59.940
720 × 480	—	31.469	59.940
720 × 576	—	31.250	50.000
800 × 600	D-SVGA	37.879	60.317
1024 × 768	D-XGA	48.363	60.004
1280 × 720	—	37.500	50.000
		45.000	60.000
1280 × 800	D-WXGA	49.702	59.810
		49.306	59.910
1280 × 1024	D-SXGA	63.981	60.020
1366 × 768	—	47.712	59.790
1400 × 1050	D-SXGA+	64.744	59.948
		65.317	59.978
1440 × 900	D-WXGA+	55.935	59.887
		55.469	59.901
1600 × 900	—	60.000	60.000
1600 × 1200	D-UXGA	75.000	60.000
1680 × 1050	D-WSXGA+	64.674	59.883
		65.290	59.954
1920 × 1080	—	27.000	24.000
		56.250	50.000
		67.500	60.000

解像度（ドット）	信号形式	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
1080PsF （1920 × 1080i）	—	27.000	24.000
		28.125	25.000
		33.750	30.000
1920 × 1200	D-WUXGA	74.038	59.950

HDMI/HDBaseT

コンピューターと接続時

解像度（ドット）	信号形式	水平周波数（KHz）	垂直周波数（Hz）
640 × 480	VGA	31.469	59.940
800 × 600	SVGA	37.879	60.317
1024 × 768	XGA	48.363	60.004
1280 × 800	WXGA	49.702	59.810
		49.306	59.910
1280 × 1024	SXGA	63.981	60.020
1366 × 768	—	47.712	59.790
1400 × 1050	SXGA+	64.744	59.948
		65.317	59.978
1440 × 900	WXGA+	55.935	59.887
		55.469	59.901
1600 × 900	—	60.000	60.000
1600 × 1200	UXGA	75.000	60.000
1680 × 1050	WSXGA+	64.674	59.883
		65.290	59.954
1920 × 1200	WUXGA	74.038	59.950

AV機器と接続時

信号形式	水平周波数（KHz）	垂直周波数（Hz）
480p	31.469	59.940
576p	31.250	50.000
720p	37.500	50.000
	45.000	60.000
1080i	28.125	50.000
	33.750	60.000
1080p	27.000	24.000
	56.250	50.000
	67.500	60.000

コンポーネント

信号形式	水平周波数（KHz）	垂直周波数（Hz）
480i	15.734	59.940
480p	31.469	59.940
576i	15.625	50.000
576p	31.250	50.000
720p	37.500	50.000
	45.000	60.000
1080i	28.125	50.000
	33.750	60.000
1080p	56.250	50.000
	67.500	60.000
1080PsF	27.000	24.000
	28.125	25.000
	33.750	30.000

※ 表中の仕様は予告なしに変更する場合があります。
※ ドットクロックが162MHzを越えるコンピューター出力には対応しておりません。
※ コンピューターケーブルは全てのピンが結線された（全結線）タイプを使用してください。全結線でないタイプでは、映像が正しく表示されない場合があります。

■ 本体

型名		WUX450ST
表示方式		3 原色液晶方式 : 反射型（LCOS）: 3 枚
光学方式		ダイクロイックミラー、偏光ビームスプリッターによる色分離・プリズムによる色合成方式
表示素子	形式 / 枚数	反射型液晶パネル（LCOS）/ 3 枚
	サイズ / アスペクト比	0.71 型 / 16:10
	駆動方式	アクティブマトリックス方式
	画素数 / 総画素数	2,304,000（1920 × 1200）× 3 枚 / 6,912,000
投写レンズ	ズーム比 / 焦点距離 / F 値	− / 8.8 mm / F2.7
	ズーム / フォーカス調整	− / 手動
	レンズシフト	V : 0% ～ +75%（手動） H : ± 10%（手動）
光源の使用電力		260W / 200W（ランプモード フルパワー / エコ）
画面サイズ（投写距離）		50 ～ 200 型（0.61 ～ 2.42m）
再現色数		1,677 万色（フルカラー）
明るさ *1*2（プレゼンテーションモード時）		4500 ルーメン
コントラスト比 *2		2000:1（ 全白 : 全黒、プレゼンテーションモード）
周辺照度比 *2		80%
音声出力		モノラル
スピーカー		5W × 1
最大入力解像度		1920 × 1200 ドット
映像信号	アナログ PC 入力	WUXGA、WSXGA+、UXGA、WXGA+、SXGA+、SXGA、WXGA、XGA、SVGA、VGA （走査周波数 : 水平 : 15 ～ 75kHz、垂直 50 ～ 85Hz）
	デジタル PC 入力	WUXGA、WSXGA+、UXGA、WXGA+、SXGA+、SXGA、WXGA、XGA、SVGA、VGA
	HDMI / HDBaseT 入力	コンピューターと接続時: WUXGA、WSXGA+、UXGA、WXGA+、SXGA+、SXGA、WXGA、XGA、SVGA、VGA AV 機器と接続時 : 1080p、1080i、720p、576p、480p
	コンポーネントビデオ入力	1080PsF、1080p、1080i、720p、576p、576i、480p、480i
入力端子	DVI-I 端子（DVI コネクター 29 ピン）	アナログ PC、デジタル PC 入力
	HDMI 端子	HDMI（ディープカラーのみ対応）
	アナログ PC/COMPONENT 端子（ミニ D-sub15 ピン）	アナログ PC、コンポーネント
	HDBaseT 端子（RJ-45）	ネットワーク・マルチ・プロジェクション、HDBaseT
	LAN 端子（RJ-45）	ネットワーク・マルチ・プロジェクション
	USB 端子（マスストレージクラス）	JPEG 画像
	CONTROL 端子（RS-232（D-sub 9 ピン））	ユーザーコマンド
	REMOTE 端子（3.5φ ステレオミニジャック）	ワイヤードリモコン
	音声入力端子（3.5φ ステレオミニジャック× 2）	音声信号
音声出力端子（3.5φ ステレオミニジャック）		音声信号

型名			WUX450ST
入力信号	デジタル PC		TMDS（Transition Minimized Differential Signaling）
	アナログ PC		0.7Vp-p、正極性、インピーダンス 75Ω 水平・垂直同期：TTL レベル、負または正極性 G 信号中のコンポジット同期：0.3Vp-p、負極性、インピーダンス 75Ω
	コンポーネントビデオ		コンポーネント：セパレート Y Cb / Pb Cr / Pr 信号 Y；1Vp-p、同期負、インピーダンス 75Ω Cb / Pb；0.7Vp-p、インピーダンス 75Ω Cr / Pr；0.7Vp-p、インピーダンス 75Ω
	音声		インピーダンス 47KΩ 以上
騒音			37dB / 30dB（ランプモード　フルパワー / エコ）
使用温度範囲			0～40℃
電源			AC100V ～ 240V　50 / 60Hz
消費電力	フルパワー		365W
	エコ		295W
	スタンバイ時	LAN OFF、HDBT OFF 設定時	0.2W
		LAN ON 省電力、HDBT OFF 設定時	0.6W
		LAN OFF、HDBT ON 設定時	1.6W
		LAN ON 省電力、HDBT ON 設定時	1.8W
外形寸法（幅×高さ×奥行）			337mm × 136mm × 415mm（突起部含む）
質量			6.3kg
付属品			リモコン、リモコン用乾電池、電源コード、レンズキャップ、コンピューターケーブル、重要なおしらせ（Important Information）、かんたんガイド、使用説明書（CD-ROM）、保証書
無線 LAN	規格		IEEE802.11b/g/n
	対応チャンネル		1 ～ 11 CH
	周波数帯域		2.4GHz 帯

*1 ランプモードがフルパワーの場合

*2 出荷時における本プロジェクター全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911: 2015 データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書B に基づいています。

※ 液晶パネルの有効画素は99.99%以上です。投写中0.01%以下の点灯したままの点や、消灯したままの点が見られる場合がありますが、これは液晶パネルの特性で生じるもので故障ではありません。

※ 長時間・連続使用する際は、光学部品の劣化を早めることがありますのでご注意ください。

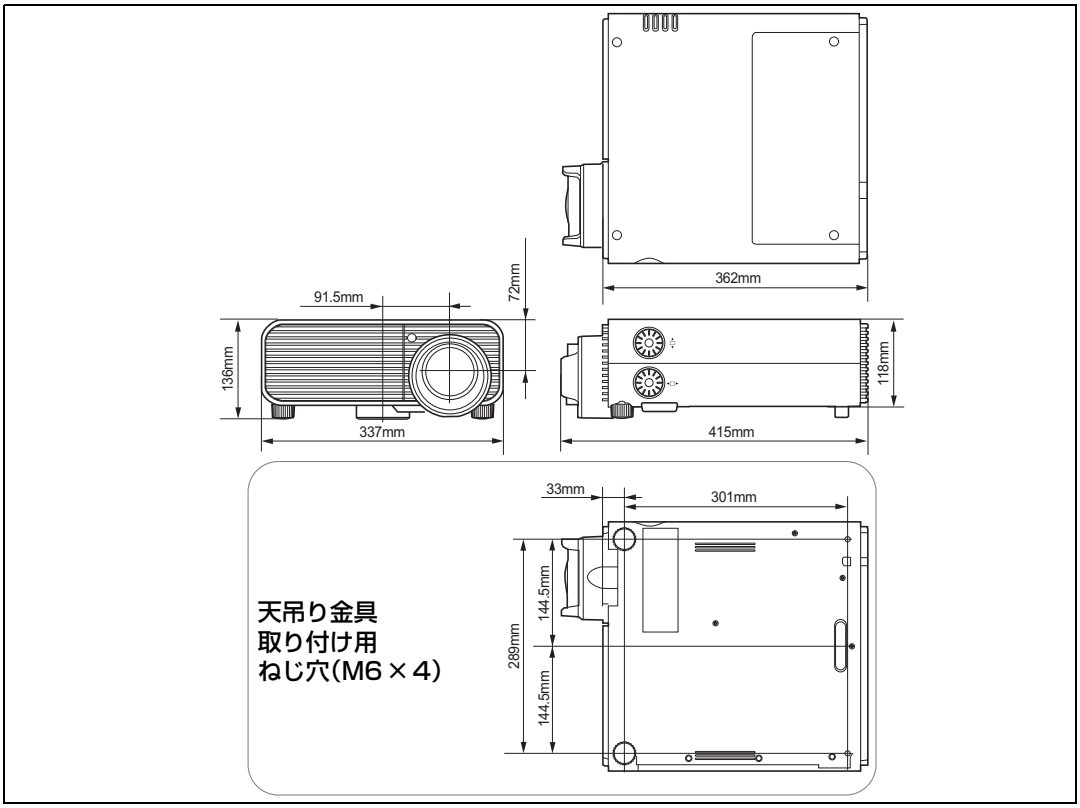
※ 本プロジェクターはJIS C 61000-3-2適合品です。

※ 製品の仕様及び外観の一部を予告なく変更することがあります。

■ リモコン

型番	RS-RC06
電源	DC3.0V　単 4 形乾電池 2 本使用
到達距離	約 8m 縦横± 25°（受光部正面）
本体寸法	幅 43mm × 高さ 23mm × 奥行 135mm
質量	56ｇ

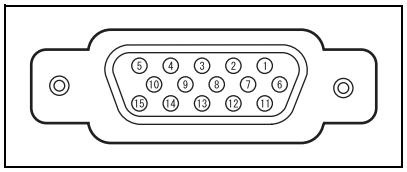
■ 外観図


362mm
72mm
91.5mm
136mm
337mm
118mm
415mm
33mm
301mm
144.5mm
289mm
144.5mm
天吊り金具
取り付け用
ねじ穴(M6×4)

■ アナログ PC-2 / COMPONENT 端子

コンピューターのアナログ PC 入力、コンポーネント端子として動作します。接続には D-sub用コンピューターケーブルを使用してください。
端子仕様は、アナログPC入力、コンポーネント入力とも同一です。

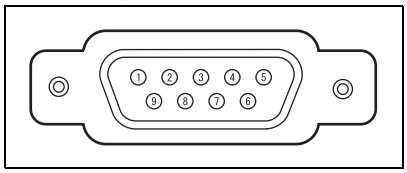
ミニD-sub15ピン



ピン番号	信号	ピン番号	信号
1	R	9	+ 5V パワー
2	G	10	接地（垂直同期）
3	B	11	接地
4	OPEN	12	DDC データ
5	接地（水平同期）	13	水平同期
6	接地（R）	14	垂直同期
7	接地（G）	15	DDC クロック
8	接地（B）		

■ サービス用端子（CONTROL）

ピン配列



ピン番号	信号
1	OPEN
2	RxD
3	TxD
4	OPEN
5	GND
6	OPEN
7	内部プルアップ
8	OPEN
9	OPEN

通信フォーマット

通信方式　　：RS-232C 調歩同期 半 2 重通信
通信速度　　：19200bps
キャラクタ長　：8 ビット
ストップビット　：2 ビット
パリティ　　：なし
フロー制御　　：なし

［HDBaseT］が［入］でかつ、［シリアル通信］が［HDBaseT］の場合、サービス用端子は使用できません。

ユーザーコマンド

コマンド種		ASCII 表記	バイナリ表記
電源	電源 ON	POWER=ON<CR>	50h 4Fh 57h 45h 52h 3Dh 4Fh 4Eh 0Dh
	電源 OFF	POWER=OFF<CR>	50h 4Fh 57h 45h 52h 3Dh 4Fh 46h 46h 0Dh
電源状態取得		GET=POWER<CR>	47h 45h 54h 3Dh 50h 4Fh 57h 45h 52h 0Dh
入力ソース	HDMI	INPUT=HDMI<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 48h 44h 4Dh 49h 0Dh
	デジタル PC	INPUT=D-RGB<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 44h 2Dh 52h 47h 42h 0Dh
	アナログ PC-1	INPUT=A-RGB1<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 41h 2Dh 52h 47h 42h 31h 0Dh
	アナログ PC-2	INPUT=A-RGB2<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 41h 2Dh 52h 47h 42h 32h 0Dh
	コンポーネント	INPUT=COMP<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 43h 4Fh 4Dh 50h 0Dh
	LAN	INPUT=LAN<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 4Ch 41h 4Eh 0Dh
	USB	INPUT=USB<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 55h 53h 42h 0Dh
	HDBaseT	INPUT=HDBT<CR>	49h 4Eh 50h 55h 54h 3Dh 48h 44h 42h 54h 0Dh
入力ソース取得		GET=INPUT<CR>	47h 45h 54h 3Dh 49h 4Eh 50h 55h 54h 0Dh
イメージモード	スタンダード	IMAGE=STANDARD<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 53h 54h 41h 4Eh 44h 41h 52h 44h 0Dh
	プレゼンテーション	IMAGE=PRESENTATION<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 50h 52h 45h 53h 45h 4Eh 54h 41h 54h 49h 4Fh 4Eh 0Dh
	フォト /sRGB	IMAGE=PHOTO_SRGB<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 50h 48h 4Fh 54h 4Fh 5Fh 53h 52h 47h 42h 0Dh
	ダイナミック	IMAGE=DYNAMIC<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 44h 59h 4Eh 41h 4Dh 49h 43h 0Dh
	ビデオ	IMAGE=VIDEO<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 56h 49h 44h 45h 4Fh 0Dh
	ユーザー 1	IMAGE=USER_1<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 55h 53h 45h 52h 5Fh 31h 0Dh
	ユーザー 2	IMAGE=USER_2<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 55h 53h 45h 52h 5Fh 32h 0Dh
	ユーザー 3	IMAGE=USER_3<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 55h 53h 45h 52h 5Fh 33h 0Dh
	ユーザー 4	IMAGE=USER_4<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 55h 53h 45h 52h 5Fh 34h 0Dh
	ユーザー 5	IMAGE=USER_5<CR>	49h 4Dh 41h 47h 45h 3Dh 55h 53h 45h 52h 5Fh 35h 0Dh
イメージモード取得		GET=IMAGE<CR>	47h 45h 54h 3Dh 49h 4Dh 41h 47h 45h 0Dh
明るさ	明るさ設定	BRI=＜数値＞<CR>	42h 52h 49h 3Dh ＜数字コード＞ 0Dh
明るさ取得		GET=BRI<CR>	47h 45h 54h 3Dh 42h 52h 49h 0Dh
シャープネス	シャープネス設定	SHARP=＜数値＞<CR>	53h 48h 41h 52h 50h 3Dh ＜数字コード＞ 0Dh

コマンド種		ASCII 表記	バイナリ表記
シャープネス取得		GET=SHARP<CR>	47h 45h 54h 3Dh 53h 48h 41h 52h 50h 0Dh
コントラスト	コントラスト設定	CONT=＜数値＞<CR>	43h 4Fh 4Eh 54h 3Dh ＜数字コード＞ 0Dh
コントラスト取得		GET=CONT<CR>	47h 45h 54h 3Dh 43h 4Fh 4Eh 54h 0Dh
アスペクト	オート	ASPECT=AUTO<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 41h 55h 54h 4Fh 0Dh
	4:3	ASPECT=4:3<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 34h 3Ah 33h 0Dh
	16:9	ASPECT=16:9<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 31h 36h 3Ah 39h 0Dh
	16:10	ASPECT=16:10<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 31h 36h 3Ah 31h 30h 0Dh
	ズーム	ASPECT=ZOOM<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 5Ah 4Fh 4Fh 4Dh 0Dh
	リアル	ASPECT=TRUE<CR>	41h 53h 50h 45h 43h 54h 3Dh 54h 52h 55h 45h 0Dh
アスペクト取得		GET=ASPECT<CR>	47h 45h 54h 3Dh 41h 53h 50h 45h 43h 54h 0Dh
ランプモード	フルパワー	LAMP=FULL<CR>	4Ch 41h 4Dh 50h 3Dh 46h 55h 4Ch 4Ch 0Dh
	エコ	LAMP=ECO<CR>	4Ch 41h 4Dh 50h 3Dh 45h 43h 4Fh 0Dh
ランプモード取得		GET=LAMP<CR>	47h 45h 54h 3Dh 4Ch 41h 4Dh 50h 0Dh
ブランク	実行	BLANK=ON<CR>	42h 4Ch 41h 4Eh 4Bh 3Dh 4Fh 4Eh 0Dh
	解除	BLANK=OFF<CR>	42h 4Ch 41h 4Eh 4Bh 3Dh 4Fh 46h 46h 0Dh
ブランク取得		GET=BLANK<CR>	47h 45h 54h 3Dh 42h 4Ch 41h 4Eh 4Bh 0Dh

LED インジケーターのワーニング

本機に異常が発生すると、電源が切れた後、本体側面部のLEDインジケーターが点灯または点滅し続けます。

- 本機の冷却が終了した後に、電源コードを抜いてから対処してください。

LED インジケーターの状態	内容	原因と対処
WARNINGとTEMPが点灯	温度の異常	本機内部の温度が何らかの異常で高温になっているか、外気温度が規定以上になっています。本機側の異常の場合は、設置や操作が正しく行われているか確認し、電源プラグをコンセントから抜き、本機の内部をしばらく冷やしてから投写してください。吸気口または排気口がふさがれているときは、ふさいでいるものを取り除いてください。エアフィルターが目詰まりしている場合は、清掃または交換を行ってください。（P150、P152）再度、同じワーニングが出る場合は、本体の故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
WARNINGとLAMPが点灯	ランプの異常	ランプが点灯しません。電源を入れ直して、ランプが点灯するか確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、新しいランプに交換してください。ランプを交換しても同じワーニングが出る場合は、ランプの駆動回路などの故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
WARNINGが3回点滅を繰り返し、LAMPが点灯	ランプカバーの異常	ランプカバーが開いています。電源プラグをコンセントから抜き、ランプカバーを正しく取り付けた後、再度電源を入れ直してください。 ランプカバーに問題がない場合は、ランプカバー検出スイッチなどの故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
WARNINGのみが4回点滅を繰り返す	冷却ファンの異常	冷却ファンまたはその他の故障が考えられます。電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに接続して電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
WARNINGのみが5回点滅を繰り返す	電源の異常	電源の一部が異常な電圧になっているか、その他の故障が考えられます。電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに接続して電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

LED インジケーターの状態	内容	原因と対処
WARNINGのみが3回点滅を繰り返す	フィルター異常	エアフィルターが取り付けられていません。エアフィルターが正しく取り付けられているか確認してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

困ったときのアドバイス

■ 電源が入らない

原　因	対処のしかた
電源コードが正しく接続されていない	電源コードがきちんと接続されていることを確認してください。（P38）
電源コードを接続した直後である	電源プラグを接続し、1 秒以上経過してから【POWER】ボタンを押してください。接続直後は電源を入れることができません。（P39）
ランプカバーが開いている	電源プラグをコンセントから抜き、ランプカバーを正しく取り付けた後、再度電源を入れ直してください。
吸気口または排気口がふさがれて本機内部の温度が上昇し、安全装置が作動した	安全装置の作動中は、電源コードを接続しても［POWER ON］インジケーターは点灯しません。なお安全装置は安全のため、お客様が解除できないようになっています。吸気口または排気口をふさいでるものを取り除き、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
エアフィルターが正しく取り付けられていない	エアフィルターが正しく取り付けられていることを確認してください。（P152）
キーロックが設定されている	本体またはリモコンのキーロック（P87）が設定されているか確認してください。

■ 映像が投写されない

原　因	対処のしかた
接続ケーブルが正しく接続されていない	コンピューターやAV機器とプロジェクターとが正しく接続されていることを確認してください。（P35～P37）
電源を入れて 20 秒経過していない	電源を入れると、約20秒間オープニング画面が表示されます。すぐに映像を投写する場合は、リモコンまたは本体操作部の【OK】ボタンを押してください。（P22、P25）
AV 機器から映像が送られていない	接続したビデオカメラ、DVD 等で、映像の再生が行われていることを確認してください。
入力端子への接続が正しくない	接続している機器が本機の入力端子へ正しく接続されていることを確認してください。（P24）

原　因	対処のしかた
接続機器の入力信号が選ばれていない	接続している機器と同じ入力信号が正しく［INPUT］メニューから選ばれていることを確認してください。(P42)
入力信号の形式が合っていない	入力信号の形式が正しく選ばれていることを確認してください。(P62、P162)
【BLANK】になっている	リモコンの【BLANK】ボタンを押してください。(P54)
コンピューター側の問題で映像が送られない	プロジェクター、コンピューターの順で電源を入れなおしてください。
ノート型コンピューター側の外部モニターへの出力が正しく設定されていない	ノート型コンピューターの外部モニターへの出力をオンに設定してください。外部モニターへの出力をオンにするには、コンピューターのキーボードの［Fn］を押しながら、［LCD］や［VGA］または画面のアイコンが表記されたファンクションキーを押します。Windows 8.1 / Windows 8 / Windows 7 ではWindows ロゴキーを押しながらP キーを押すと、画面出力を切り換えることができます。(P41) なお、キー操作はノート型コンピューターの種類によって異なります。詳しくは、ご使用のノート型コンピューターの取扱説明書などを確認してください。
コンピューターの画面と同じ映像が表示されない	コンピューターの画面設定が2画面（マルチディスプレイ）モードになっていないかを確認してください。2 画面モードになっている場合は、コンピューター側の操作で出力設定を複製表示モードにしてください。 なお、出力設定の方法はコンピューターによって異なります。詳しくは、ご使用のコンピューターの取扱説明書などを確認してください。
USB メモリ内の画面が投写できない	投写できるのは、最大画素数が 10912 × 8640 ドット、半角英数字のファイル名、FAT フォーマットのJPEG ファイルです。
LAN ケーブル（シールドタイプ）が正しく接続されていない	［INPUT］メニューで［LAN］を選んでいる場合は、プロジェクターにLAN ケーブル（シールドタイプ）が正しく接続されていることを確認してください。(P98)

■ 音声が出ない

原　因	対処のしかた
音声ケーブルが正しく接続されていない	音声ケーブルの接続を確認してください。(P35～P37)
【MUTE】になっている	リモコンの【MUTE】ボタンを押してください。(P26)
音量が最小に調整されている	リモコンの【VOL】ボタンまたは本体操作部の【VOL+】ボタンを押して音量を調整してください。(P22、P26)

抵抗内蔵の音声ケーブルが使用されている	音声ケーブルは、抵抗なしのものを使用してください。
音声入力端子の選択が［切］になっている	適切な音声入力端子の設定に変更してください。（P88）

■ 映像が鮮明でない

原　因	対処のしかた
フォーカスが合っていない	フォーカスを調整してください。（P45）
スクリーンまでの距離が近すぎる	スクリーンとの距離が適正であるか確認してください。（P33）
本機がスクリーンの正面に置かれていない	スクリーンに対して過度に斜め方向から投写していないか確認してください。ある程度の角度であれば、キーストーンの補正機能で補正できます。（P49）
温度差の激しい場所に移動した	温度の低い場所から温度の高い場所に移動した場合、レンズにくもりが発生する場合があります。しばらくすると、くもりは消え、正常な画面の投写が可能になります。
レンズが汚れている	レンズを清掃してください。（P150）
トラッキングが合っていない	［オートPC］または［トラッキング］でトラッキングを調整してください。（P62、P63）
動画がぼけて投写される	MBリダクションを設定してください。（P92）
MB リダクションが設定できない	USB メモリやネットワーク・マルチ・プロジェクションで投写している映像には、MBリダクションが設定できません。
シャープネスが設定できない	2画面投写時は、シャープネスの調整ができません。

■ 映像が正しく表示されない

原　因	対処のしかた
映像が上下、または左右逆に投写される	天吊り / リア投写の設定に誤りがあります。表示設定メニューで［反転表示］の設定内容を確認してください。（P76）
BNCケーブル使用時に、ドットクロックが162MHzを越える信号を入力している	コンピューター側で、信号のドットクロックを162MHz以下に設定してください。
一部のピンが結線されていないコンピューターケーブルを使用している	全てのピンが結線されたコンピューターケーブルを使用してください。

■ 電源が切れてしまう

原　因	対処のしかた
吸気口または排気口がふさがれている	吸気口または排気口がふさがれていないか確認してください。吸気口または排気口がふさがれていると、本機内部の温度が上昇し、本体保護のために自動的に電源が切れるようになっています。（［WARNING］インジケーターと［TEMP］インジケーターが点灯します。）本機の温度が下がってから、吸気口または排気口をふさがないようにして、再度電源を入れてください。（P21、P39）
エアフィルターが汚れている	エアフィルターがホコリなどで目詰まりしていないか確認してください。 目詰まりしている場合はエアフィルターの清掃または交換を行ってください。（P150、P152）
ランプが破裂している（またはランプの異常）	ランプが破裂している場合は「ランプが点灯しなくなって交換するときのご注意」(P11) に従がって対応してください。
使用環境が適正でない	使用環境が 0 ℃～ 40 ℃であることを確認してください。(P14) 海抜2,300m以上の高地でご使用される場合は、プロジェクターの設定を変更する必要があります。設置設定メニューの［プロフェッショナル設定］の［ファンモード］を［高地］にしてください。（P78）

■ ネットワークに接続できない

原　因	対処のしかた
LAN ケーブル（シールドタイプ）が正しく接続されていない	プロジェクターに LAN ケーブル（シールドタイプ）が正しく接続されていることを確認してください。（P98）
［通信設定］の［有線ネットワーク］で［HDBaseT］を選 択 中、［HDBaseT］を「入」から「切」に変更した	［HDBaseT］設定を以下の手順で再設定してください。(P90) 1. ［HDBaseT］設定を再度［切］から［入］にします。 2. ［有線ネットワーク］設定を［LAN ポート］から［HDBaseT］に変更します。 3. 画面の表示に従って【POWER】ボタンを押し、プロジェクターを一度スタンバイ状態にします。 4. 5分以上経ってから再度【POWER】ボタンを押します。
電源を入れて約 40 秒経過していない	電源を入れた直後の約40秒間はネットワークに接続できません。約40秒以上経過してから再度ネットワークに接続してください。（P116）

原　因	対処のしかた
無線LANに接続できない	「ネットワークの設定」（P118～P119）、「無線LAN（Wi-Fi）について」（P102）、「詳細設定（無線）」（P108～P111）の手順に従い、再度設定してください。それでも接続ができない場合はキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

■ リモコンの操作ができない

原　因	対処のしかた
電池が正しく入っていない / 電池が切れている	電池が正しく入っているか確認してください。電池が入っている場合は、新しい電池と交換してください。（P27）
リモコンの届かない位置から操作している	プロジェクター本体のリモコン受光範囲内で操作しているか確認してください。（P28）
リモコンと本機の間に障害物がある	プロジェクター本体のリモコン受光部とリモコンの間の障害物を取り除くか、障害物のない位置でリモコンを操作してください。
リモコンの使用環境が適正でない	プロジェクター本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていないか確認してください。（P28）
リモコンのチャンネル設定が合っていない	リモコンのチャンネル設定を切り換えていないか確認してください。システム設定メニューで［リモコンチャンネル］の設定を確認できます。（P88）
キーロックでリモコンの操作を禁止している	［キーロック］でリモコンからの操作がロックされていないか確認してください。 システム設定メニューで［キーロック］を［切］に設定してください。（P87）
照明の光がリモコン受光部に入っている	照明の光を遮ってください。

索引

英数字

2 画面表示 143
4 点補正 50, 147
6 軸色調整 73
AMX Device Discovery 113
ASPECT 48
BLANK 54
Crestron RoomView 113
DVI-I 端子 24
FREEZE 54
HDBaseT 5, 89, 90
HDBaseT 端子 24, 36, 37
HDMI 端子 24
IMAGE 52
INPUT 42
KEYSTONE 49
LAN 接続端子 24
LED インジケーター 23, 170
MENU 58
OK 26
PC フリーマルチプロジェクション 64
PJLink 112, 128
POWER 39, 53
USB 端子 24
WARNING インジケーター 23, 170
Wi-Fi 6

あ

明るさ 70
アスペクト 48, 158
アナログ PC 42
アナログ PC-1 / DVI-I 端子 24
アナログ PC-2 / コンポーネント端子 ..24
アンビエントライト 71

い

イメージ調整 58, 68
イメージモード（画質） 52
インフォメーション 58, 135

え

エアフィルター 152
映像の重なった部分の明るさを
　調整する 144
エコ設定 55
エッジブレンディング 6, 79, 144

お

オート PC 44, 62
オート PC で調整する 44
オート（アスペクト） 48
音声出力端子 24
音声入力端子 24

か

外部モニター切り換え
　（ノート型コンピューターの準備） 41
環境光による影響 71
ガンマ補正 70

き

キーストーン 49
キーロック 87
記憶色補正 72
起動時画面 86

け

言語 92

こ

コントラスト 70

し

システム設定 58, 85
シャープネス 70
省電力 55
信号形式 162

す

スクリーンアスペクト 46, 158
スクリーン色補正 82
スライドショー 65, 67, 139

せ

接続端子 24
　AV 機器との接続 37

た

対応信号 162
台形ひずみ調整 49
ダイナミックガンマ 72
ダイレクトパワーオン 91

て
デジタルズーム 25
テストパターン 161
電子音 91
天吊り 32, 76

と
トラッキング 63

に
入力信号選択 42
入力端子 24

ね
ネットワーク設定 58, 98
ネットワークパスワード 104
ネットワーク・マルチ・
プロジェクション（NMPJ） 6, 123

の
ノイズリダクション 71, 72

は
パスワード 93, 94

ひ
表示解像度（コンピューターの準備） 43
表示言語の選択 40, 92
表示状態を設定する 61

ふ
複数台のプロジェクターで投写する 64, 140

ほ
本体操作部 22

む
無線 LAN 99, 105, 108

め
メニュー 58

ゆ
有線 LAN 98, 105, 106

ら
ランプ交換 153, 155
ランプモード 74

り
リア投写 32, 76
リアル（アスペクト） 48
リセット 51, 74, 95
リモコン 25, 26, 27, 88

れ
レジストレーション 78
レンズシフト 33, 45

ろ
ロゴ表示 86

保証とアフターサービス

■この商品には保証書がついています

保証書は、本機に付属しています。お買い上げ日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、内容をお読みいただき、大切に保管してください。
なお、保証内容については保証書に記載しております。

■修理サービスのご相談

修理サービスのご相談は、裏表紙のキヤノンお客様相談センターにご相談ください。
（ランプはキヤノンホームページからもご購入いただけます。）

■修理を依頼される前に

170 ～ 175 ページの「困ったときには」にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

■修理方法

本商品は、引取修理させていただきます。
お客様先にプロジェクターを引取にお伺いし、修理完了後にお届けいたします。また、ご要望により代替機の貸出サービスを準備しております。

〈修理料金〉

保証期間内	引取修理サービス	無償
	代替機貸出サービス	無償
保証期間終了後	引取修理サービス	有償
	代替機貸出サービス	有償

※ 上記、引取サービスおよび代替機の貸し出しは、キヤノンお客様相談センターにてサービスをご利用いただいた場合に適用されます。
※ 引取修理サービスは、国内のみのお取り扱いとなります。

■修理を依頼されるときにご連絡いただきたいこと

- **お客様のお名前**
- **ご住所、お電話番号**
- **商品の機種名およびシリアルナンバー**
- **故障の内容（できるだけ詳しく）**

■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後 7 年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

別売品

- **交換ランプ　品番：RS-LP08**
- **天吊り金具　品番：RS-CL16**
- **天吊りパイプ（400-600mm）品番：RS-CL08***
- **天吊りパイプ（600-1000mm）品番：RS-CL09***
- **交換エアフィルター　品番：RS-FL02**
- **リモコン　品番：RS-RC05**
- **リモコン　品番：RS-RC06**
- **オプション脚：RS-FT01**

＊ 高い天井から本機を吊り下げる場合に使用します。詳しくは天吊り金具の組立･設置説明書を参照してください。

●長年ご使用のプロジェクターの点検をぜひ！（熱、湿気、ホコリなどの影響や使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には、安全性を損なって事故につながることもあります。）

このような症状はありませんか	●電源スイッチを入れても映像や音が出ない。 ●映像が時々消えることがある。 ●変なにおいがしたり、煙が出たりする。 ●電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。 ●内部に水や異物が入った。 ●その他異常や故障がある。	➡	ご使用中止	故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

お客様メモ	
品　番	
お買い上げ年月日	年　月　日
お買い上げ店名	☎

Canon

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90071

［受付時間］〈平日〉9:00～17:00
（土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）
※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9348をご利用ください。
※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

YT1-5422-001
© CANON INC. 2016